

2024 Annual Report of Obihiro Kosei Hospital

帯広厚生病院年報 2024



病 院 理 念

最も信頼され選ばれる病院づくりを目指します。

地域の求める 医療連携を考えた病院づくり
わかりやすい 質の高い 患者さまの立場に配慮した医療
患者さまへの気配りのある環境づくり 温もりのある医療

基 本 方 針

医療連携を深め、地域医療と救急医療の充実に努めます
職員教育・研修を推進し、医療水準の向上に努めます
患者さまが満足する療養環境と職員が誇れる職場環境を目指します

患者さまの権利と責任

人権の尊重と、プライバシーが守られて治療をうける権利
自分の病気や治療内容について、十分な説明を受ける権利
治療を選択する権利と、同意できない診療を拒否する権利
病院の規則を守り、ほかの患者さまの治療を妨げない責任

巻頭言	1	23. 産婦人科	67
病院目標	2	24. 形成外科	68
沿革	3	25. 泌尿器科	69
組織概要	5	26. 眼科	70
施設認定	7	27. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	71
組織図	9	28. 皮膚科	73
職員数	11	29. 精神科	74
収支実績	12	30. 放射線科	76
全館案内	13	31. 総合診療科	78
資格所有者一覧	14	32. 緩和・支持治療科	79
委員会組織図	27	33. 救急科	80
		34. 病理診断科	81
年次報告		35. 看護部	82
1. 臨床指標	29	36. 薬剤部	95
2. DPC医療機関別係数について	38	37. 放射線技術科	96
3. 部位別がん登録件数	39	38. 臨床検査技術科	97
4. 科別患者数	40	39. 理学療法技術科・作業療法技術科	99
5. 健診センター	41	40. 臨床工学技術科	100
6. 臨床研修センター	43	41. 栄養科	101
7. 救命救急センター	44	42. 医療社会事業科	102
8. 呼吸器内科	45	43. がん相談支援科	103
9. 循環器内科	46	44. 医療安全管理科	108
10. 人工透析室	47	45. 地域医療連携室	109
11. 脳神経内科	48	46. 化学療法室	112
12. 消化器内科	50	47. 入退院支援センター	113
13. 内視鏡室	51	48. 院内活動チーム (ICT、褥瘡チーム、NST、緩和ケアチーム)	114
14. 血液内科	53	49. 在宅療養支援科	123
15. 小児科	54	50. メディアセンター	124
16. 手術室	55		
17. 麻酔科	58	講演会・研修会実施記録	125
18. 外科	59	出前講座撰実績	
19. リンパ浮腫外来	62	実習生受け入れ実績	
20. 心臓血管外科	63		
21. 脳神経外科	64		
22. 整形外科	66		

巻頭言

病院長 佐 澤 陽

2024年度は、物価や委託費の上昇、人口減少や受診行動の変容に加え、診療報酬改定が当院にとって厳しいものとなり、また消化器内科および皮膚科で医師減少による診療制限を行なったこともあり、病院運営は難しい状況となりました。年度途中から病院経営カイゼン2024を始めたところ、スタッフの尽力や冬場の感染症流行などで、年度途中から収支は改善しております。2024年度末に1病棟の休棟を決定し、2025年4月より病床を減らして運用中です。また2025年4月より消化器内科、皮膚科で医師数が回復し診療制限が解除となり、従来通りの体制となっております。新規入院患者数が増加するなかで、皆様のご協力を得ながら在院期間を短縮することで病棟を運用しております。

そのような中で、今年も2024年度の当院の体制及び活動報告として、Annual Report をお届けします。病院目標や組織の概要をご確認いただければと思います。年次報告としては、まず昨年と同様に、当院の臨床指標やDPC係数などを記載しております。臨床指数として、当院の様々な状況がみて取れるものと思います。2024年度も、DPC 特定病院群の中で機能評価係数IIが上位となりました。機能評価係数IIの中では、特に地域医療指数が高く、急性期入院や地域における受け入れ入院数が評価されております。

次に各診療科や部門の実績・活動の年次推移、各科の主任部長や主任医長からのコメントを記載しております。各科の医師の専門医、指導医の取得状況や検査・手術など診療の内容、件数などもご確認いただけます。最新の医療を展開しておりますと同時に、患者さんやご家族とのコミュニケーションを大事に最善の診療を行っております。日頃の患者さんのご紹介、受け入れに深謝するとともに、今後のご参考にさせていただければ幸いです。また、様々な院内の部門／センター体制、チーム医療の実際をご覧いただけます。認定看護師や技師、技士、栄養士、事務の専門性・資格もご確認いただけます。皆さまの病院や施設への出前講座撰、実習生受け入れを通じて、皆様との協力体制も整えておりますので、その実績をご確認していただくとともに、今後ご要望がありましたらお教えいただければ幸いです。

2040年の新たな地域医療構想を見据え、これからも、急性期拠点病院として、管内はもちろん管外の病院・クリニック・施設の皆さまともご協力しながら、十勝の医療を守ってまいりますので、よろしく願いいたします。

➤ **地域完結型を目指す十勝圏医療への貢献**

- ①高度急性期・急性期病院としての役割の実行
- ②利用者および地域住民への啓蒙活動および情報発信

➤ **高品質な医療・保健予防の提供**

- ①チーム医療・多職種共働による質の向上
- ②遠隔画像診断やDXの推進による効果的な医療環境の構築
- ③持続可能な健康管理事業の構築

➤ **モチベーション向上に繋げる労働環境の実現**

- ①努力と成果を認め合える病院風土の醸成
- ②業務の分担および適正化の推進

➤ **時代の要請に応える人財の育成**

- ①各種研修病院としての体制充実
- ②将来を担う人財への教育支援

➤ **継続的な成長を支える運営基盤の構築**

- ①整備計画の実行に向けた対策の構築
- ②地域で活躍する医療従事者等の確保

➤ **環境変化に対応するガバナンスの強化**

- ①個人情報漏洩防止およびハラスメント防止の徹底
- ②コントロールリスト遵守
- ③コンプライアンス意識の徹底

昭和20年6月	北海道農業会が島田病院（西1南9）を買収、帯広厚生病院開設	平成8年2月	エイズ診療拠点病院指定
昭和23年7月	北海道農業会解散、北海道厚生農業協同組合連合会の設立経営継承	平成8年4月	訪問看護ステーション開所
昭和30年12月	西6南8に新築移転。円型2階建（旧病院）	平成9年1月	災害拠点病院指定
昭和31年1月	完全（基準）給食開始	平成9年8月	完全週休2日制実施
昭和34年5月	基準看護開始	平成9年12月	外来オーダーリングシステム導入
昭和34年10月	八千代開拓診療所開設（帯広市の委託）	平成10年4月	臨床研修指定病院認可
昭和34年12月	総合病院の名称許可 総合病院帯広厚生病院と改称	平成11年3月	看護婦宿舍増築工事竣工（B棟50室）
昭和35年2月	大正厚生診療所開設（帯広市の委託）	平成11年5月	北棟竣工（旧病院） 救命救急センター開設（旧病院北棟）
昭和37年9月	大正厚生診療所廃止	平成12年4月	第二種感染症指定医療機関の指定（6床）
昭和37年11月	八千代開拓診療所を廃止	平成12年4月	在宅介護支援センター開設
昭和38年1月	基準寝具開始	平成12年4月	院内学級（中学・つばさ学級）開級
昭和39年11月	救急病院の告示	平成12年4月	倫理委員会設立（臓器提供病院として）
昭和45年4月	病院敷地内に帯広市19ヵ町村立帯広高等看護学院が開設	平成12年11月	入院オーダーリングシステム導入
昭和45年7月	院内保育を開設	平成13年8月	小児救急医療支援事業受入
昭和53年5月	病衣貸与（基準寝具）開始	平成13年10月	北海道総合周産期母子医療センター認定
昭和55年1月	地方センター病院指定	平成14年10月	マンモグラフィ検診施設画像認定A評価取得
昭和55年2月	新本館竣工（旧病院西棟） 鉄骨鉄筋コンクリート地下1階地上8階建延 13,350.09㎡	平成15年7月	外来化学療法室開設
昭和55年3月	地域センター病院指定	平成15年8月	敷地内全面禁煙実施
昭和56年3月	帯広健診センター竣工（旧病院南棟） 鉄筋コンクリート造地下1階地上4階建延 2,249㎡	平成16年5月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
昭和60年5月	東棟本館竣工（旧病院） 鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上7階建延 11,942.05㎡	平成16年7月	駐車場拡張整備完了（1,401㎡ 約70台分増）※全体で560台駐車可
昭和61年3月	適時給食実施	平成17年1月	地域がん診療拠点病院指定
昭和61年12月	人工透析センター設置（10床）	平成17年10月	N S T稼動施設認定
昭和62年9月	第1回解剖体追悼慰霊式実施（以後毎年実施）	平成18年10月	旧帯広市図書館跡地に人間ドック専用駐車場整備完了 （2,100㎡ 73台分）
平成4年11月	どんぐり保育所新築竣工（旧保育所）	平成18年11月	外来診察案内表示システム稼動（番号表示による診察室案内） S P D物流システム稼動
平成5年1月	釧路沖地震により旧病院東棟を中心に甚大な被害を受ける	平成19年6月	I V R - C T（血管造影16列）導入
平成5年4月	院内学級（小学・たんぽぽ学級）開級	平成19年7月	がん相談センター開設 D P C準備病院として厚生労働省へデータ提出
平成7年3月	看護婦宿舍（レジデンス厚生）新築工事竣工（A棟70室） 帯広高等看護学院、現在地（西11南39）に移転	平成19年9月	セカンドオピニオン実施
平成7年6月	開設50周年記念式典	平成19年10月	給食調理業務委託開始
		平成19年11月	緩和ケア外来開始
		平成19年12月	N I C U改修整備（12床から13床へ）
		平成20年5月	臨床研修病院機能評価認定取得
		平成20年6月	7：1入院基本料施設基準取得
		平成20年7月	外来化学療法室拡張整備

平成20年 9月	第1回災害訓練実施	平成28年 8月	医師事務作業補助体制加算1口 15対1 施設基準取得
平成21年 3月	新オーダーリングシステム稼働	平成28年10月	休日脳ドック開始
平成21年 4月	入院包括請求(DPC)開始	平成28年10月	退院支援加算1 施設基準取得
平成21年 4月	臨床研修センター専任者配置	平成28年10月	第1回休日がん相談会開催(以降不定期開催)
平成21年 5月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価更新 Ver.5	平成29年 1月	第1回災害医療連絡会 災害机上訓練開催
平成21年12月	助産外来開始	平成29年 4月	救急科開設
平成22年 3月	総合周産期母子医療センター指定	平成29年 4月	病院移転新築工事上棟式
平成22年 5月	NICU改修整備(NICU6床・GCU7床) MFICU改修整備(3床)	平成29年 8月	ほっとステーション窓口開設
平成22年 7月	臨床研修病院機能評価認定更新	平成30年 7月	臨床検査技術科 ISO15189取得
平成22年11月	ドトールコーヒーショップ開店	平成30年 7月	看護外来開設
平成23年 3月	ホスピタルローソン開店	平成30年10月	どんぐり保育所移転新築オープン
平成23年 4月	東日本大震災医療救護班派遣(第1陣:宮城県七ヶ浜町)	平成30年11月	病院移転新築オープン
平成23年 5月	東日本大震災医療救護班派遣(第2陣:宮城県気仙沼市)	平成30年11月	診察案内LINE サービス開始
平成24年 3月	DMA T用医療機器整備更新	平成31年 4月	救急ワークステーション開設
平成24年 4月	DPC病院II群の指定	令和元年 6月	CFT構造賞受賞
平成24年10月	患者図書室「しらかば」開設	令和元年 6月	第53回日本サインデザイン銅賞受賞
平成25年 3月	地域医療連携予約優先窓口開設	令和元年 7月	臨床検査技術科 ISO15189病理検査拡大
平成25年 4月	内視鏡手術支援ロボット「da Vinci」(ダ・ヴィンチ)導入	令和元年 9月	地域医療支援病院指定
平成25年 9月	ホスピタルマルシェ開催	令和元年11月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価項目3rdG Ver.2.0更新
平成25年11月	医事会計システム更新	令和元年11月	北海道ブロックDMA T実働訓練実施
平成26年 5月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価項目3rdG Ver.1.0更新	令和2年 7月	臨床研修病院機能評価認定更新
平成26年 7月	臨床研修病院機能評価認定更新	令和5年 4月	内視鏡手術支援ロボット「da Vinci Xi」(ダ・ヴィンチ Xi) 2台目導入
平成26年 9月	電子カルテシステム1次稼働	令和5年 5月	臨床検査技術科 ISO15189生理学的検査拡大
平成26年12月	診察状況Webサービス開始	令和5年 9月	紹介受診重点医療機関指定
平成27年 2月	電子カルテシステム2次稼働	令和6年 1月	ASHRAE The Overall Engineering Award of Excellence 世界最優秀賞受賞
平成27年 3月	新健診システム稼働	令和6年 7月	電子カルテシステム・医事会計システム更新
平成27年 6月	調剤状況Webサービス開始	令和6年 7月	臨床研修病院機能評価認定更新
平成27年 9月	入退院支援センター開設		
平成27年10月	第1回地域医療連携懇談会開催		
平成28年 2月	内視鏡手術支援ロボット「da Vinci Xi」(ダ・ヴィンチ Xi) 導入		
平成28年 3月	病院移転新築工事着工		
平成28年 4月	緩和支援治療科開設		
平成28年 4月	総合入院体制加算1 施設基準取得		
平成28年 6月	急性期看護補助体制加算2 5対1 施設基準取得		
平成28年 7月	臨床研修病院機能評価認定更新		
平成28年 7月	紹介患者窓口設置		
平成28年 7月	出前講座撰 Kosei Speaker's Selection 2016発行		

組 織 概 要

1. 経営主体

(1) 名 称	北海道厚生農業協同組合連合会
(2) 代 表 者	代表理事長 西本 護
(3) 所 在 地	札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル9F
(4) 設 立	昭和23年7月20日
(5) 出 資 金	3,503百万円/106会員(農業協同組合101、連合会5)
(6) 事 業 分 量	令和5年度/約890億円
①病院運営事業	【医 療】 病院10ヶ所、クリニック5ヶ所 総病床数2,782床 救命救急センター1ヶ所(帯広) 【健康管理】 総合健診(人間ドック)健診センター6ヶ所、生活習慣病検診(巡回ドック)
②高齢者福祉事業	特別養護老人ホーム(摩周、常呂、小清水)、訪問看護ステーション5地区、デイサービスセンター(美深・常呂)、デイケアセンター(鶴川)
③配置業事業	取扱農協/100農協 普及戸数/37千戸(令和5年度)
(7) 全従業員数	5,060名(令和5年度)

2. 病院の概要

(1) 名 称	JA北海道厚生連帯広厚生病院				
(2) 代 表 者	院 長 佐 澤 陽				
(3) 所 在 地	帯広市西14条南10丁目1番地				
(4) 設 立	昭和20年6月1日				
(5) 開 設 者	北海道厚生農業協同組合連合会				
(6) 面 積	敷地面積	72,562㎡			
	建物面積	17,952㎡			
	建物延面積	65,680㎡			
	(病院本棟 地上10階)	57,781㎡			
	(リニアック棟)	1,704㎡			
	(エネルギー棟)	2,815㎡			
	(テナント棟他)	3,380㎡			
(7) 診 療 科	●内 科	●呼吸器内科	●循環器内科	●消化器内科	●血液内科
	●脳神経内科	●小 児 科	●外 科	●呼吸器外科	●消化器外科
	●脳神経外科	●心臓血管外科	●整 形 外 科	●産 婦 人 科	●皮 膚 科
	●形 成 外 科	●泌 尿 器 科	●耳鼻咽喉科・頭頸部外科		●眼 科
	●精 神 科	●麻 酔 科	●放 射 線 科	●緩和ケア内科	●救 急 科
	●リハビリテーション科	●病理診断科			

(8) 病棟別病床数・診療科

病棟区分	法定病床数	診療科
3 北	18床	ICU・CCU・HCU
4 北	60床	産婦人科・MFICUなど
4 南	47床	小児科・NICU・GCUなど
5 北	52床	脳神経外科・放射線科など
5 西	45床	精神科
5 南	42床	脳神経内科・眼科など
6 北	53床	循環器内科など
6 南	53床	外科・心臓血管外科など
7 北	53床	整形外科・皮膚科など
7 南	53床	泌尿器科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科など
8 北	53床	血液内科・形成外科など
8 南	53床	消化器内科・総合診療科など
9 北	48床	呼吸器内科など
9 南	21床	緩和支援診療科
計	651床	

(個室335床)

(9) 入院基準サービス

	病棟	看護配置	病床数
急性期一般入院料1	一般病棟	7対1	520
緩和ケア病棟入院料	9 南	7対1	21
小児入院医療管理料3	4 南	7対1	38
新生児特定集中治療室管理料2	NICU	3対1	9
救命救急入院料3	3 北	4対1	18
精神科病棟入院基本料13対1	5 西	13対1	45

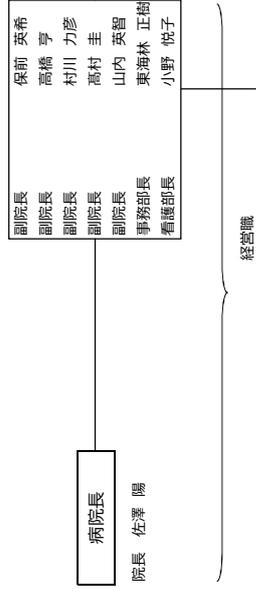
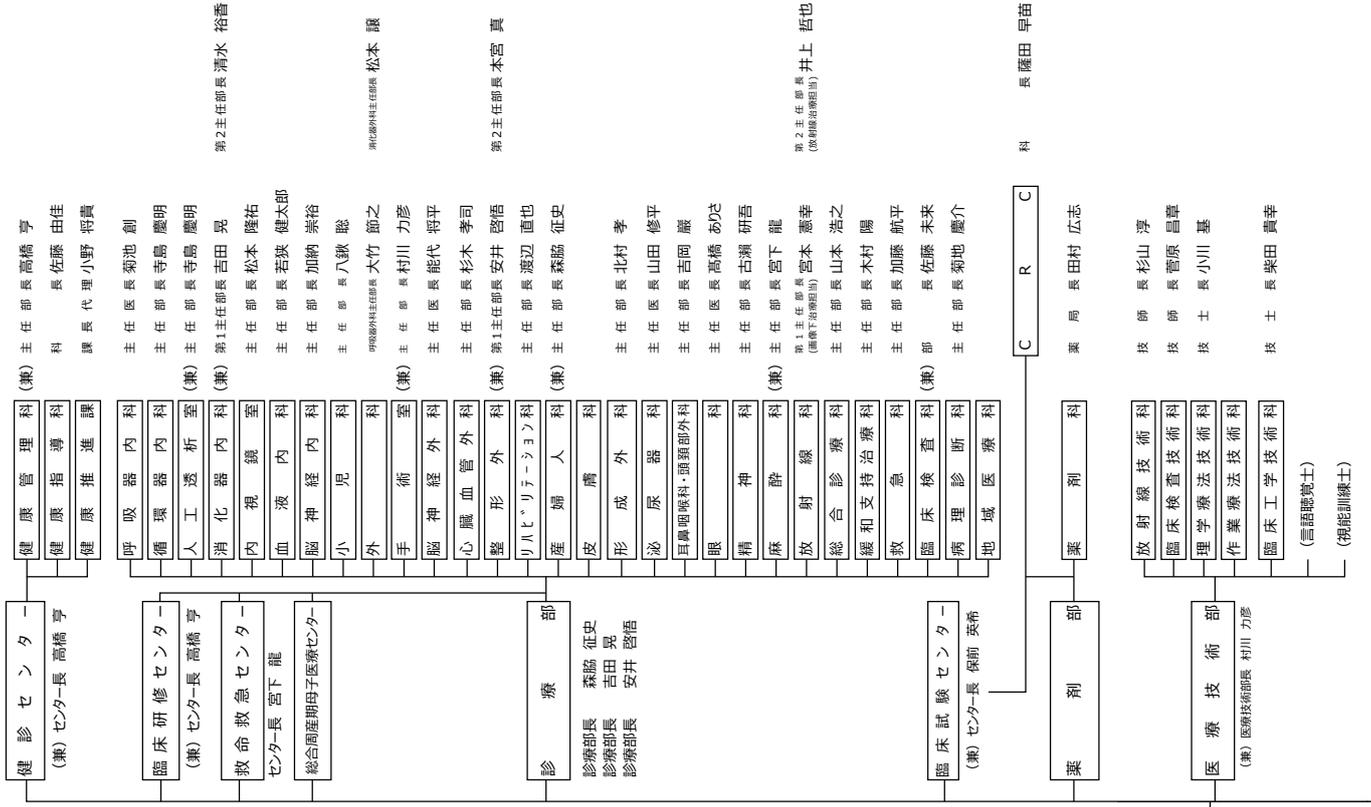
施設認定

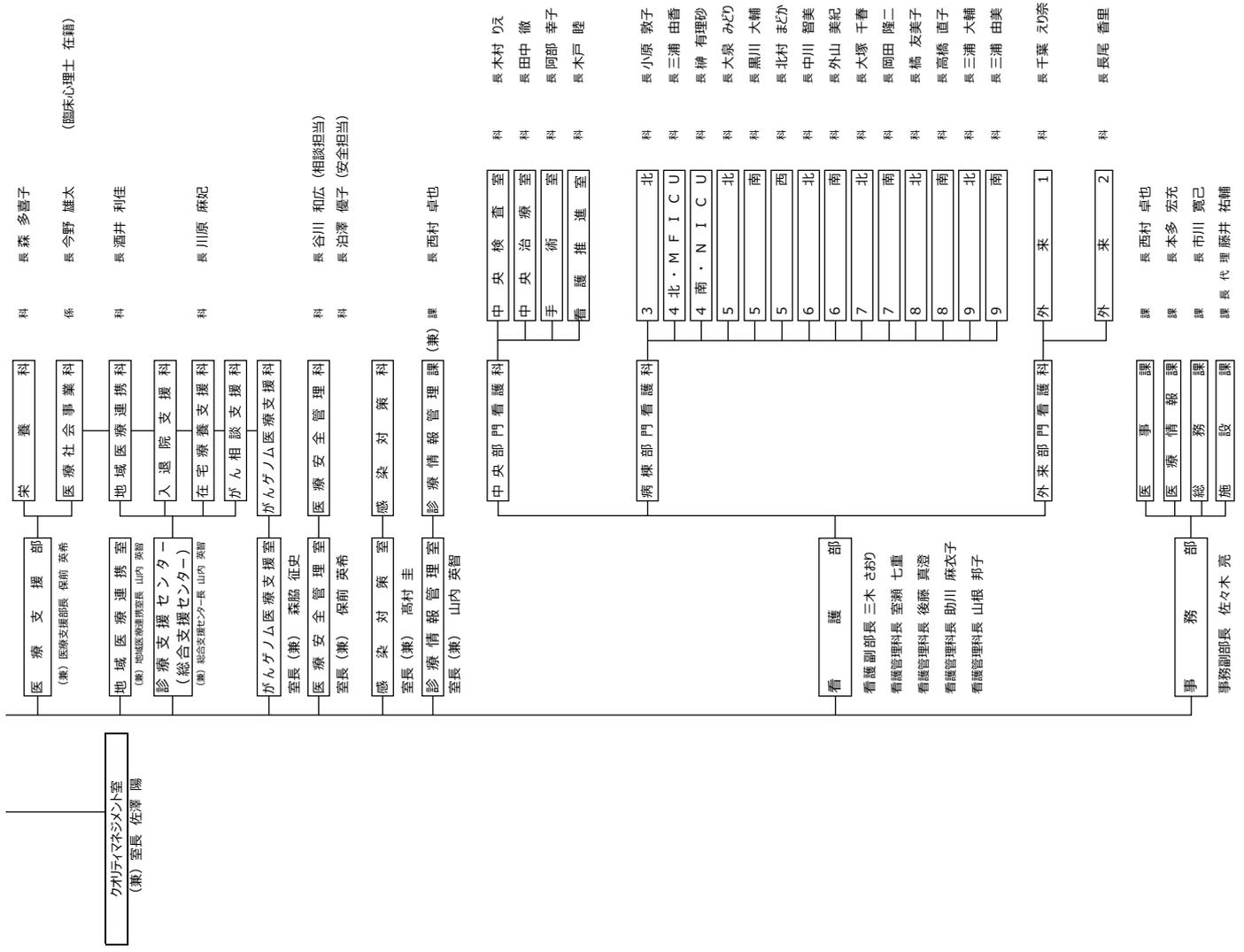
機関指定	第三者機関施設認定	専門医・認定医等研修施設の認定
救急告示病院	卒後臨床研修評価機構 臨床研修評価認定	日本内科学会専門医制度基幹施設 日本手外科学会認定研修施設
病院群輪番制病院	日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定	日本カプセル内視鏡学会指導施設
地方・地域センター病院	日本医療機能評価機構 一般病院2認定	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設認定
救命救急センター	日本医療機能評価機構 精神科病院認定	日本食道学会食道外科専門医認定施設
へき地医療拠点病院	日本医療機能評価機構 緩和ケア病院認定	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
臨床研修病院		日本心血管インターベンション治療学会研修施設
災害拠点病院		日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム（NST）専門療法士認定 教育施設
エイズ診療拠点病院		日本人間ドック学会人間ドック健診研修施設
地域医療支援病院		日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修認定施設
地域がん診療連携拠点病院		日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B
総合周産期母子医療センター		日本炎症性腸疾患学会指導施設
DPC対象病院		日本脳卒中学会一次脳卒中センター
紹介受診重点医療機関		日本整形外科学会専門医制研修施設
第二種感染症指定医療機関		日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設認定
DMAT指定医療機関		日本形成外科学会形成外科専門医制度認定施設

機関指定	第三者機関施設認定	専門医・認定医等研修施設の認定
労災保険指定医療機関		日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
生活保護法指定医療機関		日本小児科学会専門医研修施設
結核指定医療機関		呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設（北大病院）
指定自立支援医療機関 (精神通院医療)		日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
指定自立支援医療機関（育成医療）		日本 I V R 学会専門医修練認定施設
指定自立支援医療機関（更生医療）		日本病理学会日本病理学会認定施設
指定養育医療機関		三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医認定修練施設基幹施設認定
指定小児慢性特定疾病医療機関		日本乳房オンコプラステイクサージャー学会インプラント実施施設
原子爆弾被害者医療指定医療機関		日本乳房オンコプラステイクサージャー学会エキスパンダー実施施設
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関		日本胆道学会認定指導医制度指導施設
母体保護法指定医の配置されている医療機関		日本臓器移植学会認定指導医制度指導施設
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関		日本救急撮影技師認定機構指定実地研修施設
精神保健指定医の配置されている医療機関		日本脊椎骨髄病学会脊椎骨髄外科専門医研修プログラム基幹研修施設
北海道医師会母体保護法指定医師研修機関		日本がん治療認定医機構認定研修施設

病院組織図

令和6年12月1日現在





従業員人員配置表

令和7年3月1日

区 分	職 種	定 員				実 人 員						差			
		常勤 (A)	非常勤		計 (A)+(B)	常 勤 (C)		非常勤 (D)		パート (常勤換算) (C)+(D)	計 (C)+(D)	常勤 (C)-(A)	非常勤		
			常勤換算	計		職員	雇員	嘱託	パート				計	常勤換算	計
医 師	医 師	138	25	8.0	163	118		4	6	3.5	128	▲20	▲15	▲0.5	
	初期研修医	0	28	28.0	28			28			28	0	0	0.0	
看 護 部	保 健 師					18			2	1.7	20				
	助 産 師	645	63	60.0	708	34		4	4	3.2	38	▲40	17	▲0.6	
	看 護 師					553		9	65	45.5	627				
	准 看 護 師	5	10	7.5	15	4			11	8.4	15	▲1	1	0.9	
	介 護 福 祉 士	20			20	17					17	▲3	0	0.0	
	小 計	670	73	67.5	743	626	0	9	82	58.8	717	▲44	18	0.3	
	看 護 助 手		146	139.2	146			37	74	58.1	111	0	▲35	▲44.1	
	介 護 員				0						0	0	0	0.0	
	医 療 助 手		7	6.8	7			2	4	3.9	6	0	▲1	▲0.9	
	計	670	226	213.5	896	626	0	48	160	120.8	834	▲44	▲18	▲44.7	
薬 劑 部	薬 劑 師	38			38	30					30	▲8	0	0.0	
	医 療 助 手	3	13	13.0	16	3		13		1.0	16	0	0	1.0	
医 療 技 術 部	医 療 技 術 部 部 長				0						0	0	0	0.0	
	放射線技術科					45					41	▲4	0	0.0	
	放射線技師	45			45	41					41	▲4	0	0.0	
	放射線助手		6	6.0	6			5			5	0	▲1	▲1.0	
	臨床検査技術科					33		5	4.0	38	30	▲3	0	0.5	
	臨床検査技師	33	5	4.0	38	30		2	3	2.5	35	▲3	0	0.5	
	臨床検査助手	1	4	4.0	5	1		4			5	0	0	0.0	
	理学療法技術科					20				1	0.5	20	▲1	1	0.5
	理学療法士	20			20	19					1	0.5	▲1	1	0.5
	言語聴覚士	6			6	5					5	▲1	0	0.0	
	医療助手	0	2	1.4	2				1	0.9	1	0	▲1	▲0.5	
	作業療法技術科					11					10	▲1	0	0.0	
	作業療法士	11			11	10					10	▲1	0	0.0	
	臨床工学技術科					24					24	0	0	0.0	
臨床工学技士	24			24	24					24	0	0	0.0		
医療助手		1	1.0	1				1		1	0	0	0.0		
視能訓練士	2			2	2					2	0	0	0.0		
医療助手		1	1.0	1					1	1.0	1	0	0	0.0	
栄養科	栄養士	8			8	8				8	0	0	0.0		
臨 床 治 験	看 護 師	3			3	3					3	0	0	0.0	
	M S W	2	1	1.0	3	2		1			3	0	0	0.0	
診 療 支 援	医療社会事業科					2					2	0	0	0.0	
	臨床心理士	2			2	2					2	0	0	0.0	
	総合相談科					0					0	0	0	0.0	
	看護師				0						0	0	0	0.0	
	入退院支援科					0					0	0	0	0.0	
	看護師				0						0	0	0	0.0	
	療養支援科				10	10			1	0.7	11	0	1	0.7	
	看護師	10			10	10					10	0	1	0.7	
	がん相談支援科				1	2					2	1	0	0.0	
	看護師	1			1	2					2	1	0	0.0	
	事務員	1			1						0	▲1	0	0.0	
	安全担当	2			2	2					2	0	0	0.0	
	医療安全管理科				2	2					2	0	0	0.0	
相談担当	2			2	2					2	0	0	0.0		
保安担当		1	1.0	1				1		1	0	0	0.0		
看護師	2			2	1			1		2	▲1	1	1.0		
看護師	6			6	6			1		7	0	1	1.0		
地域医療連携室	准看護師				0					0	0	0	0.0		
	M S W	4			4	4				4	0	0	0.0		
診 療 情 報 管 理 室	事務員	2	6	6.0	8	3		6			9	1	0	0.0	
	診療情報管理士	2			2	1					1	▲1	0	0.0	
	事務員	1	6	5.6	7	2		5	1	0.5	8	1	0	▲0.1	
事 務 部	総務(総合)	6			6	4					4	▲2	0	0.0	
	総務(一般)	6	4	4.0	10	5		7			12	▲1	3	3.0	
	施設(総合)	3			3	3					3	0	0	0.0	
	施設(一般)	2	1	1.0	3			5			5	▲2	4	4.0	
	医事(総合)	11			11	11					11	0	0	0.0	
	医事(一般)	49	109	101.2	158	47		78	25	21.2	150	▲2	▲6	▲2.0	
	医情(総合)	3			3	3					3	0	0	0.0	
	医情(一般)	1			1			1			1	▲1	1	1.0	
	健推(総合)	3			3	3					3	0	0	0.0	
	健推(一般)	4	12	10.3	16	4		8	4	2.7	16	0	0	0.4	
	小 計	88	126	116.5	214	80	0	99	29	23.9	208	▲8	2	6.4	
運 転 手	運 転 手	1			1	1					1	0	0	0.0	
	ボイラー技士	2	1	1.0	3			1	2	2.0	3	▲2	2	2.0	
	労務員		1	1.0	1				1	0.8	1	0	0	▲0.2	
	電気主任技術者				0						0	0	0	0.0	
	医 局	3			3	2		1			3	▲1	1	1.0	
	図 書	1	2	1.0	3	1			1	0.5	2	0	▲1	▲0.5	
	その他	2			2	1			1	0.5	2	▲1	1	0.5	
産業保健師	2			2	1			1	0.5	2	▲1	1	0.5		
その他 保育士		1	1.0	1				1		1	0	0	0.0		
合 計	1,136	456	414.0	1,592	1,042	0	222	208	159.1	1,472	▲94	▲26	▲32.9		
					1,042		430		381.1						
					常勤		非常勤(実員)(常勤換算)								

収支実績計画対比表 令和6年度末

(単位：千円)

科 目	令和6年度 計画 (A)	令和6年度末 実績累計 (B)	増減 (B - A)	前年度末 実績累計 (C)	増減 (B - C)
医 療 収 益	28,489,839	28,237,638	▲ 252,201	28,156,492	81,146
そ の 他 収 益	756,250	758,032	1,782	728,714	29,318
事 業 外 収 益	679,824	761,504	81,680	810,718	▲ 49,214
収 入 合 計	29,925,913	29,757,175	▲ 168,738	29,695,924	61,251
材 料 費	12,405,904	12,704,074	298,170	12,638,830	65,245
人 件 費	10,312,311	10,191,793	▲ 120,518	10,313,790	▲ 121,997
業 務 費	2,364,657	2,754,189	389,532	2,303,726	450,463
施 設 費	3,039,750	2,886,168	▲ 153,582	2,678,859	207,309
そ の 他 費 用	1,983,167	2,014,211	31,044	1,900,962	113,249
事 業 外 費 用	50,124	93,828	43,704	55,120	38,708
支 出 合 計	30,155,913	30,644,263	488,350	29,891,286	752,977
収 支 差 額	▲ 230,000	▲ 887,089	▲ 657,089	▲ 195,362	▲ 691,727

1日当り利用患者数並びに単価 令和6年度末

科 目	令和6年度 計画 (A)	令和6年度末 実績累計 (B)	増減 (B - A)	前年度末 実績累計 (C)	増減 (B - C)
外来1日平均患者数 (人)	1,418	1,376	▲ 42	1,431	▲ 55
入院1日平均患者数 (人)	570	543	▲ 27	555	▲ 12
外来診療収入平均単価 (円)	39,012	41,554	2,542	39,641	1,913
入院診療収入平均単価 (円)	69,740	69,536	▲ 204	68,004	1,532
病床稼働率 (%)		78.0		80.1	▲ 80.1
給食料平均単価 (円)	1,682	1,686	4	1,633	54

※延べ患者による病床稼働率

全館案内

3階－10階

	西	北	南
10階	ヘリポート		
9階		呼吸器内科 他	緩和ケア内科
8階		血液内科、形成外科 他	消化器内科、総合診療科 他
7階		整形外科、皮膚科 他	泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科 他
6階		—	心臓血管外科、外科 他
5階	精神科	脳神経外科、放射線科、泌尿器科 他	脳神経内科、眼科 他
4階	産婦人科、M F I C U、循環器内科、泌尿器科 他		小児科、N I C U、G C U
3階	手術室、I C U、C C U、H C U・家族待合、健診センター、事務室、医局、研修医室、講堂（Kosei Hall）、会議室、院内学級、スキルラボ、メディアセンター		

2階

Eブロック	精神科、泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科
Fブロック	—
Gブロック	皮膚科、形成外科、総合診療科、産婦人科、麻酔科、小児科

中央処置室、エコー、生理検査、リハビリテーション室、人工透析室、化学療法室

1階

Aブロック	呼吸器内科、外科（呼吸器）、脳神経外科、脳神経内科
Bブロック	消化器内科
Cブロック	循環器内科、心臓血管外科、外科、（消化器、乳腺）
Dブロック	整形外科、血液内科、緩和ケア内科、放射線科

総合支援センター（診断申込、紹介、料金計算、相談、文書、入退院、栄養相談、在宅療養材料）
検査受付（採血／採尿／生理検査／CT／MRI／X線／結石粉碎／核医学検査／放射線治療／内視鏡）
面会受付、薬局、救命救急センター、防災センター

テナント

カフェ タリーズ、コンビニ ローソン、理容室さかがみ、ゲストダイニング十華地（レストラン）、ATM

資格所有者一覽

令和7年3月31日現在

診 療 部		
呼 吸 器 内 科	高 村 圭	日本アレルギー学会アレルギー専門医
		日本呼吸器学会インфекションコントロールドクター認定
		日本呼吸器学会呼吸器専門医
		日本呼吸器学会指導医
		日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
		日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
		日本内科学会認定内科医
		JMECC インストラクター
		佐 藤 未 来
	日本内科学会総合内科専門医	
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医	
	日本アレルギー学会アレルギー専門医	
	日本呼吸器学会呼吸器専門医	
	菊 池 創	日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
		日本内科学会認定内科医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
		日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
	山 下 優	日本内科学会認定内科医
		日本呼吸器学会呼吸器専門医
		日本感染症学会インфекションコントロールドクター
		日本感染症学会感染症専門医
		日本結核非結核性抗菌症学会結核・抗酸菌症認定医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本呼吸器学会インфекションコントロールドクター
日本呼吸器学会呼吸器専門医		
吉 川 隆 志	日本呼吸器学会指導医	
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医	
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医	
	日本内科学会認定内科医	
	日本人間ドック学会人間ドック認定医	
	高 橋 亨	日本循環器学会循環器専門医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
寺 島 慶 明	日本循環器学会循環器専門医	
	日本内科学会内科指導医	
	日本内科学会認定内科医	
循 環 器 内 科	西 田 絢 一	日本心血管心インターベンション治療学会専門医
		日本循環器学会循環器専門医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
		日本不整脈心電学会植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療履修
		日本腎臓学会腎臓専門医
村 椿 真 悟	日本内科学会認定内科医	
	日本内科学会総合内科専門医	

診 療 部		
循 環 器 内 科	村 椿 真 悟	日本循環器学会循環器専門医
		日本心血管インターベンション治療学会専門医
		日本心血管心インターベンション治療学会認定医
		日本腎臓学会腎臓専門医
		日本不整脈心電学会植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療履修
		日本不整脈心電学会不整脈専門医
	水 野 雅 司	日本内科学会認定内科医
		日本循環器学会循環器専門医
		日本心血管心インターベンション治療学会認定医
		JMECC インストラクター
	水 野 雅 司	日本内科学会認定内科医
		日本循環器学会循環器専門医
日本心血管心インターベンション治療学会認定医		
JMECC インストラクター		
消 化 器 内 科	吉 田 晃	日本消化器病学会消化器病専門医
		日本内科学会内科指導医
		日本内科学会認定内科医
		日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
		日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医
		日本消化器内視鏡学会指導医
	清 水 裕 香	日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
		日本リウマチ学会リウマチ専門医
		日本リウマチ学会リウマチ指導医
	柳 谷 真 悟	日本内科学会内科指導医
		日本内科学会認定内科医
	下 山 修 平	日本内科学会認定内科医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本リウマチ学会リウマチ専門医 日本リウマチ学会リウマチ指導医
	菅 原 正 成	日本内科学会認定内科医
		日本リウマチ学会リウマチ専門医
		日本リウマチ学会リウマチ指導医
	千 葉 幸 輝	日本内科学会認定内科医
		日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医
		日本糖尿病学会糖尿病専門医
	柳 澤 秀 之	日本カプセル内視鏡学会指導医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医		
日本消化器病学会消化器病専門医		
日本消化器病学会消化器病指導医		
日本内科学会総合内科専門医		
日本内科学会内科指導医		
日本炎症性腸疾患学会 IBD 専門医		
日本炎症性腸疾患学会 IBD 指導医		
日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医		
内 視 鏡 室		松 本 隆 祐
	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医	
	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医	
	日本消化器病学会消化器病専門医	
	日本消化器病学会消化器病指導医	

診 療 部		
内 視 鏡 室	松 本 隆 祐	日本内科学会総合内科専門医
		日本医師会認定産業医
		日本内科学会内科指導医
		日本救急医学会 ICLS・BLS コースインストラクター
血 液 内 科	若 狭 健 太 郎	日本血液学会血液専門医
		日本血液学会血液指導医
		日本内科学会内科指導医
		日本内科学会認定内科医
	山 川 知 宏	日本内科学会総合内科専門医
		日本血液学会血液専門医
	横 山 翔 大	日本内科学会内科指導医
		日本内科学会認定内科医
脳 神 経 内 科	保 前 英 希	日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
		日本神経学会神経内科専門医
		日本神経学会神経内科指導医
		日本神経免疫学会神経免疫診療認定医
	加 納 崇 裕	日本神経学会神経内科専門医
		日本神経学会指導医
		日本内科学会総合内科専門医
		日本内科学会内科指導医
	大 岩 慧	日本認知症学会専門医
		日本認知症学会指導医
		日本専門医機構日本内科学会内科専門医
小 児 科	八 鍬 聡	日本小児科学会小児科専門医指導医
		日本小児循環器学会小児循環器専門医
	池 田 雅 彦	日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）
		日本専門医機構日本小児科学会専門医
	野 上 正 雄	日本小児科学会小児科専門医
		日本小児感染症学会小児感染症認定医
	植 竹 公 明	日本小児科学会小児科専門医指導医
		日本小児神経学会小児神経専門医
外 科	村 川 力 彦	日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本外科学会外科専門医
		日本外科学会外科指導医
		日本消化器外科学会消化器外科専門医
		日本消化器外科学会消化器外科指導医
		日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
		日本消化器病学会消化器病専門医
		日本消化器病学会消化器病指導医
		日本食道学会食道外科専門医
		日本食道学会食道科認定医
		日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科 技術認定医
		日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科 ロボット支援手術プロクター認定医
		日本ロボット外科学会専門医国内A級
		日本腹部救急医学会腹部救急認定医
	日本医師会認定産業医	
	大 竹 節 之	日本胸部外科学会認定医
		日本外科学会外科専門医

診 療 部		
外 科	大 竹 節 之	日本消化器外科学会認定医
		肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医
		日本呼吸器外科学会専門医
	松 本 讓	日本外科学会外科専門医
		日本外科学会外科指導医
		日本消化器外科学会消化器外科専門医
		日本消化器外科学会指導医
		日本消化器病学会消化器病専門医
		日本消化器病学会消化器病指導医
		日本胆道学会指導医
		日本膵臓学会指導医
		日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医
		吉 岡 達 也
	日本がん治療認定医機構がん治療認定医	
	日本外科学会外科専門医	
	日本外科学会外科指導医	
	日本消化器病学会消化器病専門医	
	日本乳癌学会乳腺専門医	
	日本乳癌学会乳腺指導医	
	日本乳癌学会乳腺認定医	
	市之川 正 臣	日本外科学会外科専門医
		日本外科学会外科指導医
		日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
		日本消化器外科学会消化器外科専門医
		日本消化器外科学会消化器外科指導医
		日本臨床栄養代謝学会認定医
		日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
		日本肝胆膵外科学会評議員
	山 村 喜 之	日本外科学会外科専門医
		日本外科学会外科指導医
		日本消化器外科学会消化器外科専門医
		日本消化器外科学会消化器外科指導医
		日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科 技術認定医
		日本ロボット外科学会専門医国内B級
		日本腹部救急医学会腹部救急認定医
		日本食道学会食道科認定医
		日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科 ロボット支援手術プロクター認定医
	武 藤 潤	日本外科学会外科専門医
		呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医
		日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科 技術認定医
日本ロボット外科学会専門医国内B級 一般社団法人日本呼吸器外科学会胸腔鏡安全技術認定医		
武 内 優 太	日本外科学会外科専門医	
篠 原 良 仁	日本外科学会外科専門医	
	日本消化器外科学会消化器外科専門医	
	日本消化器外科消化器がん外科治療認定医	
	日本消化器病学会消化器病専門医	
	日本がん治療認定医機構がん治療認定医	
郷 雅	日本専門医機構日本外科医学会外科専門医	
大 野 耕 一	日本がん治療認定医機構がん治療認定医	

診 療 部		
外 科	大 野 耕 一	日本救急医学会救急科専門医
		日本胸部外科学会認定医
		日本外科学会外科専門医
		日本外科学会外科指導医
		日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
		日本消化器外科学会消化器外科専門医
		日本消化器外科学会指導医
		日本消化器病学会消化器病専門医
		日本消化器病学会消化器病指導医
		日本静脈経腸栄養学会認定医
		日本食道学会食道外科専門医
		日本食道学会食道外科認定医
		脳 神 経 外 科
日本脳神経血管内治療学会専門医		
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医		
日本脳卒中の外科学会技術認定医		
笹 川 彩 佳	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医	
	日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	
心 臓 血 管 外 科	山 内 英 智	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科修練指導者
		三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医
		日本胸部外科学科認定医
		日本外科学会外科専門医
		日本外科学会認定医
		日本胸部外科学会専門医会員
	山 下 知 剛	日本外科学会外科専門医
		日本外科学会認定医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施医 日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施医
	杉 木 孝 司	下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会下肢静脈瘤に対する血管内実地基準による指導医
		下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会下肢静脈瘤に対する血管内実地基準による実施医
		日本脈管学会研修指導医
		日本脈管学会脈管専門医
		日本外科学会外科専門医
		三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医
		ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト Zenith®AAA Endovascular Graft 血管内治療実施医
		ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト Gore Excluder®Endprosthesis 血管内治療実施医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト Zenith®AAA Endovascular Graft 血管内治療指導医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト Gore Excluder®Endprosthesis 血管内治療指導医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト ENDURANT ステントグラフトシステム血管内治療実施医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト ENDURANT ステントグラフトシステム血管内治療指導医
日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト Gore TAG®Thoracic Endprosthesis 血管内治療実施医		
日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト Zenith TX2®TAA Endovascular Graft 血管内治療実施医		

診 療 部		
心臓血管外科	杉木孝司	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト AFX ステントグラフトシステム血管内治療実施医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト AFX ステントグラフトシステム血管内治療指導医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト VALIANT Captivia 血管内治療実施医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト Relay Plus/Pro 血管内治療実施医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト GORE TAG®Thoracic Endprosthesis 血管内治療指導医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト VALIANT Captivia/Navion 血管内治療指導医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト Zenith TX2®/Alpha 血管内治療指導医
		日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト TREO 腹部ステントグラフトシステム血管内治療実施医
整形外科	安井啓悟	日本整形外科学会整形外科専門医
		日本整形外科学会脊椎脊髄病医
		日本整形外科学会スポーツ医
		日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医
		日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医
	本宮真	日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医
		日本整形外科学会リウマチ医
		日本手外科学会手外科指導医
		日本手外科学会手外科専門医
	上徳善太	日本整形外科学会整形外科専門医
		日本スポーツ協会公認 スポーツドクター
	太田光俊	日本整形外科学会整形外科専門医
		日本手外科学会手外科専門医
		日本リウマチ学会リウマチ専門医
藍澤一穂	日本整形外科学会整形外科専門医	
	大上哲郎	日本専門医機構日本整形外科学会整形外科専門医
リハビリテーション科	渡辺直也	日本専門医機構日本整形外科学会整形外科専門医
		日本手外外科学会手外科専門医
		日本整形外科学会リハビリテーション医
産婦人科	森脇征史	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
		日本産科婦人科学会産婦人科指導医
		日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
		日本産科婦人科内視鏡学会認定ロボット技術認定医
		日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
		日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍指導医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本婦人科ロボット手術学会婦人科ロボット支援手術プロクター認定
	明石大輔	日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
		飯沼洋一郎
	日本産科婦人科学会産婦人科指導医	
	日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	
	日本産科婦人科内視鏡学会認定ロボット技術認定医	
	日本内視鏡外科学会技術認定医（産科婦人科領域）	
日本がん治療認定医機構がん治療認定医		
秋江惟能	日本産科婦人科学会産婦人科専門医	
	日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	

診 療 部		
形 成 外 科	北 村 孝	日本形成外科学会領域指導医
		日本専門医機構形成外科専門医
		日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医
		日本創傷外科学会専門医
	本 間 豊 大	日本専門医機構日本形成外科学会形成外科専門医
		日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医
日本創傷外科学会専門医		
泌 尿 器 科	佐 澤 陽	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
		日本泌尿器科学会泌尿器科指導医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本内視鏡外科学会技術認定 泌尿器腹腔鏡
		日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器ロボット支援手術プロクター認定
	山 田 修 平	日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術認定
		日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
		日本泌尿器科学会泌尿器科指導医
	守 田 卓 人	日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器ロボット支援手術プロクター認定
		日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
耳 鼻 咽 喉 科 ・ 頭 頸 部 外 科	吉 岡 巖	日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
		日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医
		日本頭頸部外科学会頭頸部がん指導医
		日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医
眼 科	高 橋 ありさ	日本眼科学会眼科専門医
	末 岡 紗緒里	日本専門医機構日本眼科学会眼科専門医
精 神 科	古 瀬 研 吾	日本精神神経学会精神科専門医
		日本精神神経学会精神科指導医
	宮 下 龍	日本麻酔科学会麻酔科指導医・専門医
		日本専門医機構日本救急医学会救急科専門医
		日本心臓血管麻酔学会認定指導医
		日本小児麻酔学会小児麻酔認定医
	北海道災害医療コーディネーター（全道）	
	岡 田 麻里絵	日本麻酔科学会麻酔科専門医
	笠 羽 一 敏	日本麻酔科学会麻酔科専門医
日下部 奎 仁	日本専門医機構日本麻酔科学会麻酔科専門医	
菊 地 智 春	日本麻酔科学会麻酔科専門医	
内 海 里 花	日本麻酔科学会麻酔科専門医	
放 射 線 科	宮 本 憲 幸	日本専門医機構日本医学放射線学会放射線科専門医
		日本医学放射線学会放射線診断専門医
		日本医学放射線学会研修指導者
		日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 専門医
		日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 指導医
		日本消化器病学会消化器病専門医
	井 上 哲 也	日本専門医機構日本医学放射線学会放射線科専門医
		日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会放射線治療専門医
		日本医学放射線学会研修指導者
		日本核医学会 PET 核医学認定医

診 療 部			
放 射 線 科	井 上 哲 也	日本核医学会核医学専門医	
		日本医学放射線学会放射線科専門医	
	吉 河 亨	日本医学放射線学会放射線診断専門医	
		日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 専門医	
		日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 指導医	
		日本医学放射線学会放射線科専門医	
	井 浦 孝 紀	日本医学放射線学会放射線診断専門医	
		日本核医学会 PET 核医学認定医	
		肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医	
		日本医学放射線学会研修指導者	
日本内科学会認定内科医			
健 康 管 理 科	岩 上 真理子	日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医	
		日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医	
		日本内科学会総合内科専門医	
総 合 診 療 科	山 本 浩 之	日本内科学会内科指導医	
		日本内科学会認定内科医	
		日本専門医機構総合診療専門医	
		日本プライマリ・ケア連合学会プライマリケア認定医	
		日本プライマリ・ケア連合学会プライマリケア認定指導医	
		日本病院総合診療医学会病院総合診療医	
		日本病院総合診療医学会病院総合診療特任指導医	
		日本専門医機構日本内科学会認定内科専門医	
	小 松 守	日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医	
		日本化学療法学会抗菌化学療法認定医	
		日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	
		ICD 協議会認定 インфекションコントロールドクター	
		日本病院総合診療医学会病院総合診療医	
		日本病院総合診療医学会病院総合診療特任指導医	
		日本老年医学会老年科専門医	
		産業医科大学産業医学基礎研修修了	
救 急 科	加 藤 航 平	日本外科学会外科専門医	
		日本救急医学会救急科専門医	
		日本消化器外科学会消化器外科専門医	
		日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医	
		日本腹部救急医学会腹部救急認定医	
		Acute Care Surgery 学会 Acute Care Surgery 認定外科医	
		DMAT インストラクター	
	和 田 健志郎	日本救急医学会救急科専門医	
		日本集中治療医学会集中治療専門医	
		日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医	
	加 藤 史 人	日本専門医機構日本救急医学会救急科専門医	
	佐 藤 直 利	日本循環器学会循環器専門医	
		日本内科学会内科指導医	
		日本内科学会認定内科医	
日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医			
病 理 診 断 科	菊 地 慶 介	日本病理学会病理専門医	
		日本病理学会病理専門医研修指導医	
看 護 部			
3	北 病 棟	佐々木 祐 輔	救急看護認定看護師
3	北 病 棟	須 永 弘 美	集中ケア認定看護師
3	北 病 棟	加 治 ますみ	集中ケア認定看護師
3	北 病 棟	小 椋 太 介	IVR インターベンションエキスパートナース

看護部		
N I C U	佐藤 ゆかり	新生児集中ケア認定看護師
5 南病棟	和淵 ゆかり	認知症看護認定看護師
9 南病棟	黒川 文吾	がん性疼痛看護認定看護師
8 北病棟	西川 真紀	がん化学療法看護認定看護師
手術室	佐伯 猛	手術看護認定看護師
手術室	菊地 友也	IVR インターベンションエキスパートナース
がん相談支援科	太田 美幸	乳がん看護認定看護師
外来 1	高山 梢	日本糖尿病療養指導士
外来 1	河合 美紀	乳がん看護認定看護師
外来 1	千葉 えり奈	日本糖尿病療養指導士
在宅療養支援科	伊藤 史	慢性疾患看護専門看護師
感染対策科	原 理加	感染症看護専門看護師
		感染管理認定看護師
看護推進室	河本 友香	摂食・嚥下障害看護認定看護師
	大椋 友美	皮膚・排泄ケア認定看護師
	小田島 綾子	がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師
中央治療	尾谷 優子	がん化学療法看護認定看護師
中央検査	豊島 順子	IVR インターベンションエキスパートナース
		消化器内視鏡技師
		カプセル内視鏡読影支援技師
がん相談支援科	常山 純子	両立支援コーディネーター
薬剤部		
薬剤科	鈴木 千波	実務実習指導薬剤師
	三本松 泰孝	実務実習指導薬剤師
		日病薬病院薬学認定薬剤師
	田中 悠季	日本糖尿病療養指導士
		実務実習指導薬剤師
	津田 雅大	日病薬病院薬学認定薬剤師
		日本糖尿病療養指導士
		実務実習指導薬剤師
		日病薬病院薬学認定薬剤師
	石田 陽美	糖尿病薬物療法認定薬剤師
		日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師
		日本糖尿病療養指導士
		実務実習指導薬剤師
	金住 麻子	日病薬病院薬学認定薬剤師
		緩和薬物療法認定薬剤師
		実務実習指導薬剤師
	渕上 俊介	日病薬病院薬学認定薬剤師
		実務実習指導薬剤師
		外来がん治療認定薬剤師
	蝦名 勇樹	日病薬病院薬学認定薬剤師
実務実習指導薬剤師		
感染制御認定薬剤師		
村上 智香	日本病院薬剤師生涯研修認定者	
村上 冴美	日病薬病院薬学認定薬剤師	
金澤 沙衣	NRサプリメントアドバイザー	
	実務実習指導薬剤師	
	日病薬病院薬学認定薬剤師	
越野 早紀	NST 専門療法士	

薬 劑 部		
薬 劑 科	越 野 早 紀	日病薬病院薬学認定薬剤師
	大和田 真 以	日病薬病院薬学認定薬剤師
	島 津 智 行	日病薬病院薬学認定薬剤師
	喜 多 力	日病薬病院薬学認定薬剤師
	久 保 萌 美	NST 専門療法士
		日病薬病院薬学認定薬剤師
	矢田山 瑞 稀	日病薬病院薬学認定薬剤師
		日本 DMAT 隊員
		PhDLs プロバイダー
大 野 奈 子	日病薬病院薬学認定薬剤師	
田 本 光 莉	日病薬病院薬学認定薬剤師	
治験コーディネーター	杉 林 美 江	日本臨床薬理学会認定CRC
	高 橋 弥 生	日本臨床薬理学会認定CRC
医 療 技 術 部		
放 射 線 技 師	杉 山 淳	胃がん検診撮影認定技師
		胃エックス線検診読影補助認定技師
		救急撮影認定技師
		衛生工学衛生管理者
		第一種作業環境測定士
	栗 田 浩 二	衛生工学衛生管理者
		第一種作業環境測定士
		日本 DMAT 隊員
		救急撮影認定技師
		Ai 認定診療放射線技師
		災害支援認定放射線技師
	和 田 智 文	放射線管理士
		胃がんX線検診指導員
		超音波検査士（消化器）
	山 岸 啓 介	放射線機器管理士
		放射線管理士
	北 口 一 也	第一種放射線取扱主任者
		PET 講習修了証授与者
	菊 地 隆 浩	血管診療技師
		超音波検査士
		第一種放射線取扱主任者
		放射線治療品質管理士
	中 島 光 明	放射線治療専門放射線技師
		医学物理士
		第一種放射線取扱主任者
		第一種作業環境測定士
		胃がん検診専門技師
		超音波検査士
		マンモグラフィ検診撮影認定技師
	医療情報技師	
金 澤 博 幸	PET 講習修了証授与者	
	第一種放射線取扱主任者	
木 村 佳 江	第一種放射線取扱主任者	
	超音波検査士	
	マンモグラフィ検診撮影認定技師	
大 野 裕 貴	X線CT撮影認定技師	
千 葉 浩 樹	第一種放射線取扱主任者	
	救急撮影認定技師	

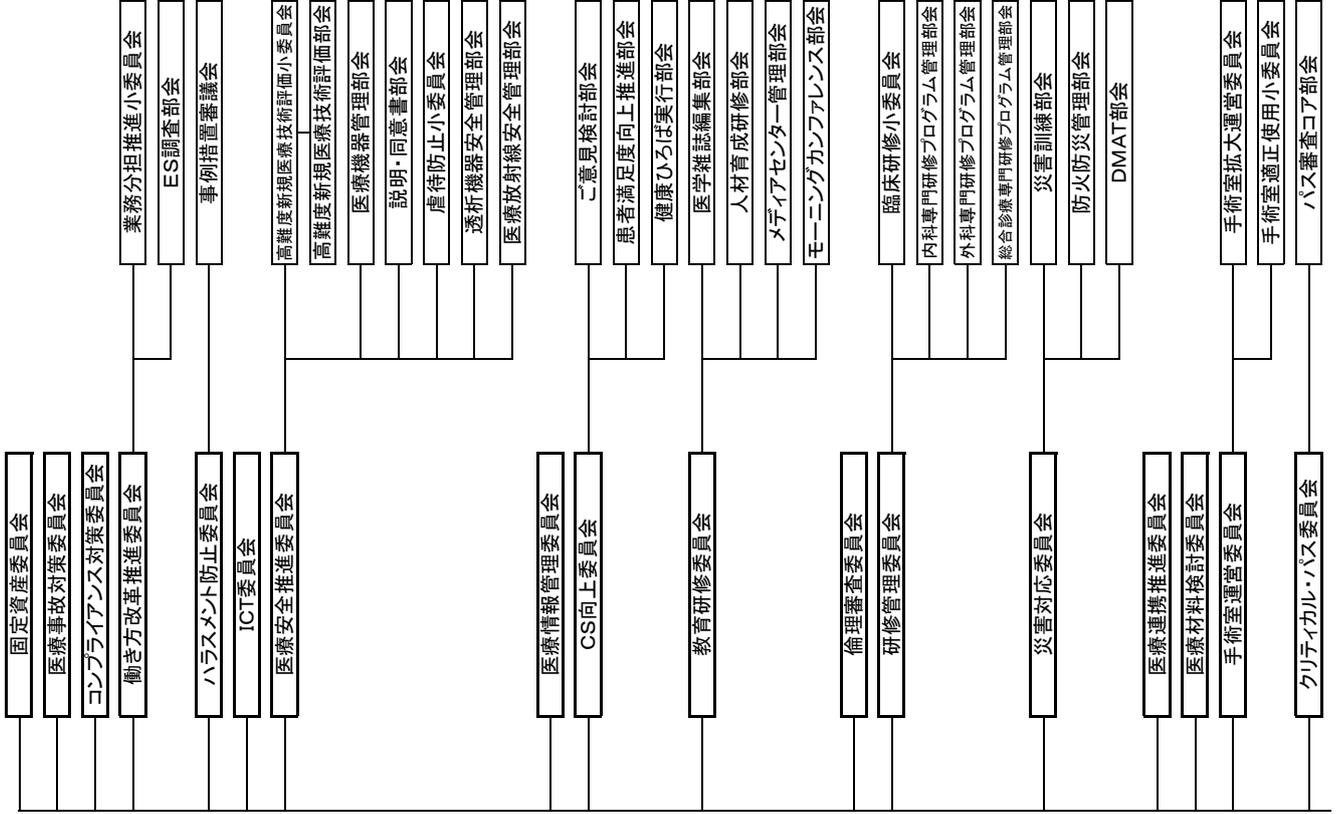
医療技術部		
放射線技師	千葉浩樹	X線CT撮影認定技師
		肺がんCT検診認定技師
		大腸CT検査認定技師
		血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師
		画像等手術支援認定診療放射線技師
	寺本大翼	磁気共鳴専門技術者
	清水将司	救急撮影認定技師
		X線CT撮影認定技師
	有賀弘貴	肺がんCT検診認定技師
		胃がん検診撮影技師
		胃がんX線検診読影部門B資格
		胃がんX線検診技術部門B資格
		カプセル内視鏡読影支援技師
	PET講習修了証授与者	
	敦賀凌	X線CT撮影認定技師
	小松裕樹	X線CT撮影認定技師
	小野愛広	胃がんX線検診読影部門B資格
		胃がんX線検診技術部門B資格
		PET講習修了証授与者
	西山哲司	胃がんX線検診技術部門B資格
		X線CT撮影認定技師
	中鉢貫太	PET講習修了証授与者
	早川大稀	医療情報技師
		胃がんX線検診読影部門B資格
胃がんX線検診技術部門B資格		
上野恭弘	胃がんX線検診読影部門B資格	
	胃がんX線検診技術部門B資格	
石田有梨佳	マンモグラフィ検診撮影認定技師	
北原侑季	胃がんX線検診読影部門B資格	
	胃がんX線検診技術部門B資格	
藤田将輝	胃がんX線検診読影部門B資格	
	胃がんX線検診技術部門B資格	
中村美葉	マンモグラフィ検診撮影認定技師	
大澤陸	医療情報技師	
小田島拓	第一種放射線取扱主任者	
菅原昌章	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	
臨床検査技師	加藤隆	細胞検査士
		国際細胞検査士
		認定病理検査技師
		特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者
		化学物質管理責任者講習修了者
		有機溶剤作業主任者
		精度管理責任者
	平山健	認定心電検査技師
		認定輸血検査技師
		二級臨床検査士（臨床化学）
		二級臨床検査士（呼吸生理）
		緊急検査士
		精度管理責任者
	臨床検査技師臨地実習指導者講習修了者	
	越崎祐輔	超音波検査士（循環器領域）
医療技術部門管理資格		

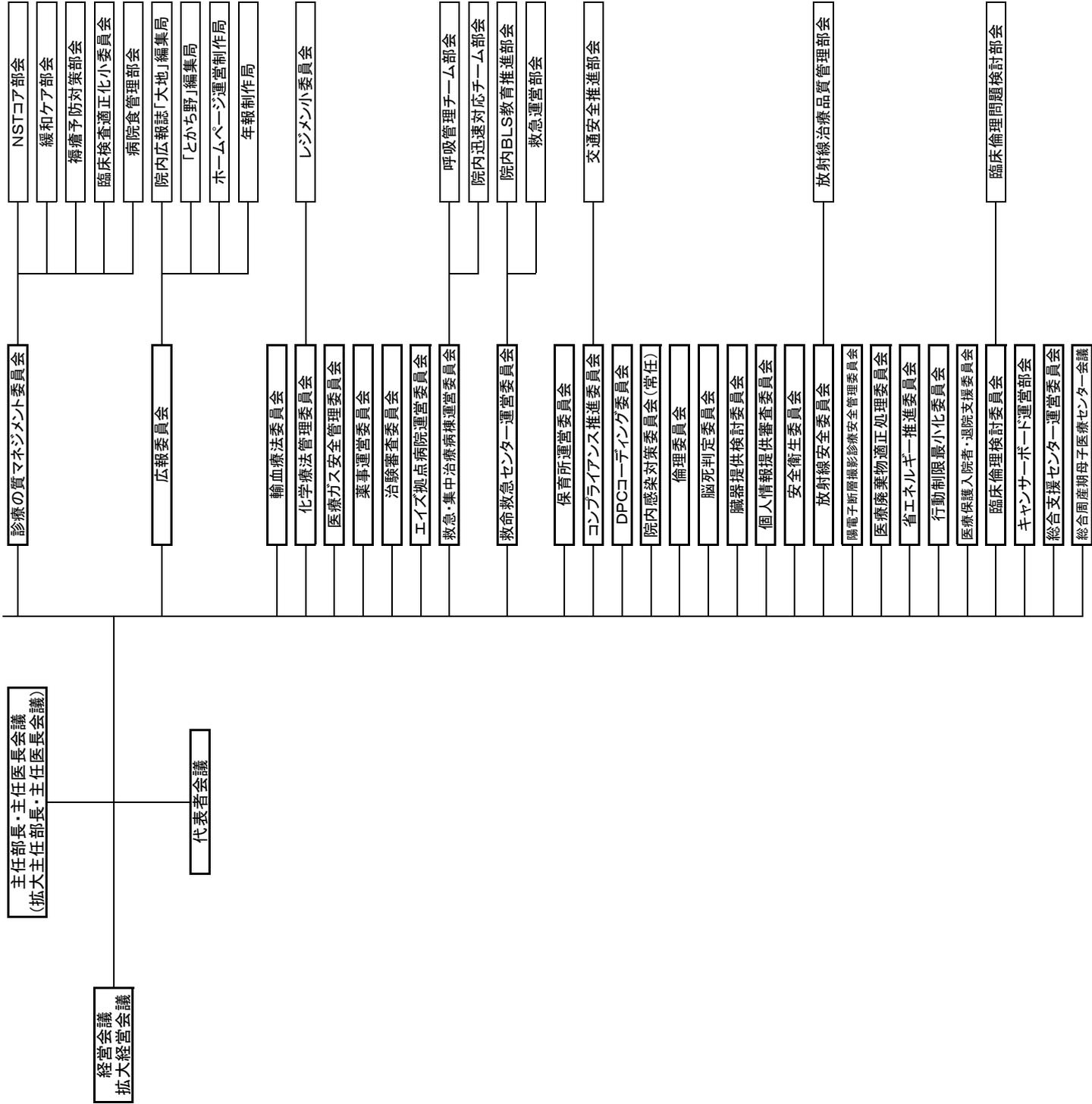
医療技術部		
臨床検査技師	越崎 祐輔	精度管理責任者
	久保田 基路	認定輸血検査技師 精度管理責任者
	常山 聡	細胞検査士
		国際細胞検査士
		特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者
		二級臨床検査士（臨床化学） 臨床検査技師臨地実習指導者講習修了者
	長崎 知子	精度管理責任者
	池水 麻衣	認定輸血検査技師
	樋口 敬悟	栄養サポートチーム専門療法士
	藤谷 真奈	超音波検査士（循環器領域）
	齋藤 峻平	認定臨床微生物検査技師
	酒井 彩花	超音波検査士（循環器領域）
	高道 豪紘	日本糖尿病療養指導士
		精度管理責任者
	宮井 悠治	認定心電検査技師
		心電図検定2級
	長村 佑里奈	認定心電検査技師
		診療情報管理士
	今 恭子	認定血液検査技師
	藤田 木綿	認定心電検査技師
	佐藤 佑香	細胞検査士
		有機溶剤作業主任者
		特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者
		化学物質管理責任者講習修了者
	高橋 祐貴	精度管理責任者
	田岡 栞	認定心電検査技師
超音波検査士（循環器領域）		
二級臨床検査士（病理） 電子顕微鏡一般技術認定		
田中 雅美	超音波検査士（循環器領域）	
	超音波検査士（消化器領域）	
理学療法士	小川 基	3学会合同呼吸療法認定士 認定理学療法士（呼吸）
	工藤 正太	3学会合同呼吸療法認定士
	吉田 健史朗	心臓リハビリテーション指導士
臨床工学技士	柴田 貴幸	透析技術認定士
	丸山 雅和	3学会合同呼吸療法認定士
		臨床ME専門認定士
	完戸 陽介	透析技術認定士
		3学会合同呼吸療法認定士
	平賀 友章	3学会合同呼吸療法認定士
	大河原 巧	透析技術認定士
		3学会合同呼吸療法認定士
	清水 未帆	透析技術認定士
		3学会合同呼吸療法認定士
	高田 哲也	透析技術認定士
消化器内視鏡技師		
小柳 智康	透析技術認定士	
北澤 和之	体外循環技術認定士	
	手術関連専門臨床工学技士	

医療技術部		
臨床工学技士	谷口 健人	3学会合同呼吸療法認定士 消化器内視鏡技師
	山本 将平	体外循環技術認定士 心血管インターベンション技師
	遠藤 光一	消化器内視鏡技師
	片倉 基	心血管インターベンション技師
	竹内 玲雄	臨床ME専門認定士 心血管インターベンション技師
	医療支援部	
管理栄養士	森 多喜子	栄養サポートチーム (NST) 専門療法士 病態栄養認定管理栄養士
	千葉 枝美	がん病態栄養専門管理栄養士 日本糖尿病療養指導士
	笹嶋 真衣	静脈経腸栄養 (TNT-D) 管理栄養士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
	菅井 望絵	心不全療養指導士
医療社会事業科	今野 雄太	両立支援コーディネーター
	小川 健一郎	精神保健福祉士
	有塚 亜美	精神保健福祉士 両立支援コーディネーター
	木谷 靖典	両立支援コーディネーター
	中田 未沙	介護支援専門員
	萬 麻奈	精神保健福祉士
	岡本 茜	精神保健福祉士 介護福祉士
	築田 昌明	臨床心理士
	築田 千代実	臨床心理士
事務部		
医事課	伊藤 里奈	診療情報管理士
	辻 祥子	診療情報管理士
	桃井 彰宏	診療情報管理士
		医療情報技師
	菅野 梨絵	診療情報管理士
		院内がん登録実務中級者認定
	今 妃沙子	診療情報管理士
		施設基準管理士
安部 裕也	診療情報管理士	
	院内がん登録実務初級者認定	
野本 千尋	診療情報管理士	
中尾 綾	診療情報管理士	
総務課	太田 由紀	日本産業衛生学会認定産業保健看護専門家 日本産業カウンセラー協会認定 産業カウンセラー (産業保健師)
		労働衛生コンサルタント
	埜 紘太郎	認定医療デザイナー

令和6年度 院内委員会組織図 (JA北海道厚生連 帯広厚生病院)

自 令和6年4月1日～至 令和7年3月31日





JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

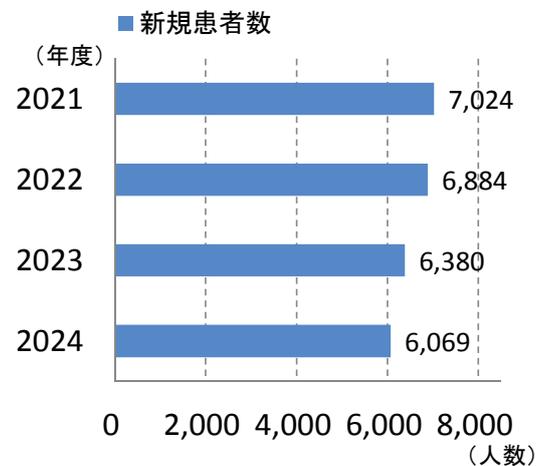
結果・成果指標
(Outcome)

① 新規患者数

= 当該年度に新たに患者番号
を取得し、カルテを作成した
患者数

より多くの患者に医療を提供していることを証明する指標です。

地域医療支援病院ならびに紹介重点医療機関病院となっており、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医、かかりつけ歯科等を支援する病院と道より指定をうけております。紹介患者を中心とした外来診療体制となっていることで、新規患者数は減少傾向にあります。今後も引き続き、地域住民の方々から「最も信頼され選ばれる病院」を目指します。

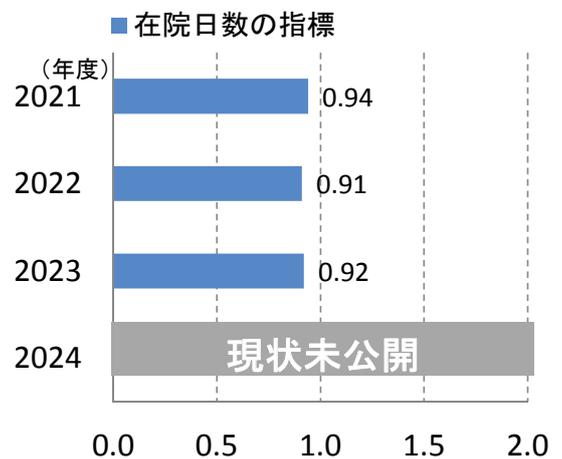


② 在院日数の指標

= 厚労省DPC評価分科会が
公開する資料より抜粋

診断群分類(DPC)ごとの在院日数を視点として、病院として効率よく診療していることを評価する指標です。数値は1.0が全国平均となり、1.0よりも大きい方が在院日数が短く効率よく診療していることを示します。

当院は、全国平均と同等程度の在院日数であるという結果でした。今後はクリティカルパス等を活用し、より効率の良い診療を行い在院日数のさらなる短縮を目指します。

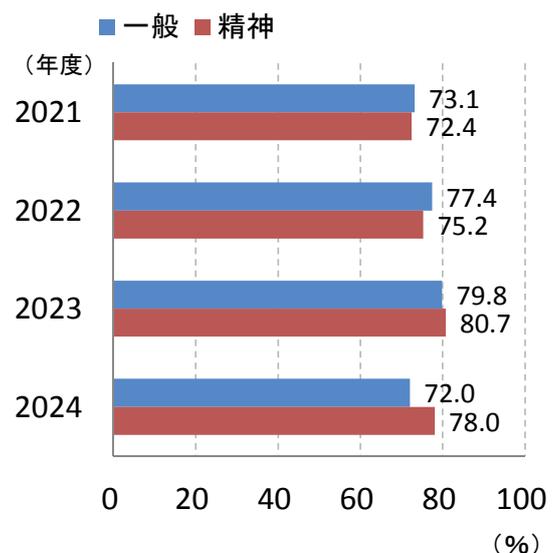


③ 病床利用率

= $\frac{\text{年間入院患者数}}{\text{許可病床年間延べ数}}$

病床がどの程度、効率的に稼働しているかを示す指標です。100%に近いほど空き病床がない状態で利用されていることになります。

2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響や医師体制の変動により、病床利用率は下がっております。状況に応じて病棟再編等を検討しつつ、地域における当院の役割を念頭に置き、病床を有効かつ効率的に利用できるよう努めていきます。



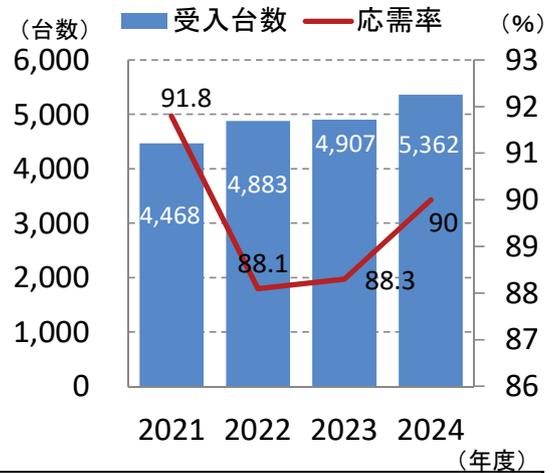
JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

結果・成果指標 (Outcome)

④ 救急車応需率 = $\frac{\text{救急車受入台数}}{\text{救急要請件数}}$

救急隊からの搬送の要請に対し、どれだけ救急車の受け入れができたかを示すものです。当院の救急医療における総合的な体制を、救急車の受入台数と応需率によって評価する指標です。

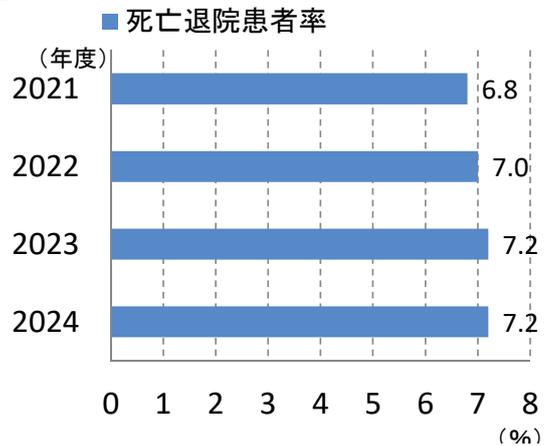
新型コロナウイルス感染症の影響による救急車搬入台数減少より徐々に受入台数も増加傾向にあり、2024年度は5,300台を超える件数となりました。人員を含め限りある病床・救命救急センターでの受入可能範囲がある中でいかに効率よく医療を提供し応需率を上げていくかが今後の課題となります。



⑤ 死亡退院患者率 = $\frac{\text{死亡患者数}}{\text{全退院患者数}}$

病床数、緩和ケア病棟や救命救急センターの有無など医療機関ごとの特徴から大きく影響を受けるものであり、医療の質として単純な評価や比較は適切ではありませんが、継続して数値を把握することが必要な指標です。

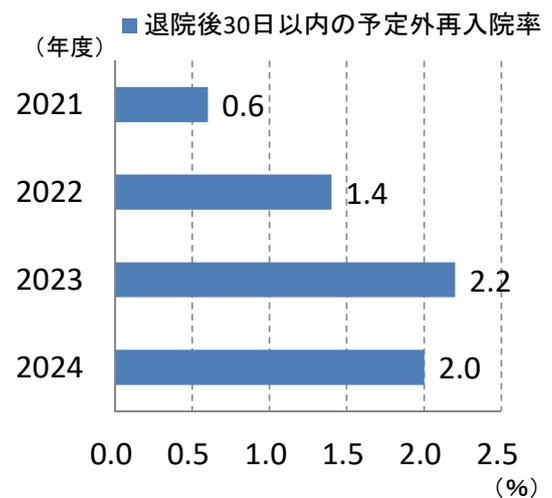
当院は3次救急を担っているため、来院時心肺停止等、重症度の高い患者を受け入れており、日本病院会QIプロジェクト平均値(3.7%)よりも高くなる傾向にあります。引き続き患者の命を救える体制を整えていきます。



⑥ 退院後30日以内の予定外再入院率 = $\frac{\text{前回入院から30日以内に計画外で再入院した症例}}{\text{退院症例数}}$

前回入院時の治療が不十分であったことや、回復が不完全な状態で早期退院を強いたこと等による予定外の再入院を防ぐ意義のある指標となります。

2023年度以降においては2%を超える数値となりました。より適切な治療を行い適切な入院期間で退院できることを課題として検証し、改善に向けた取り組みを進めていきます。



JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

結果・成果指標
(Outcome)

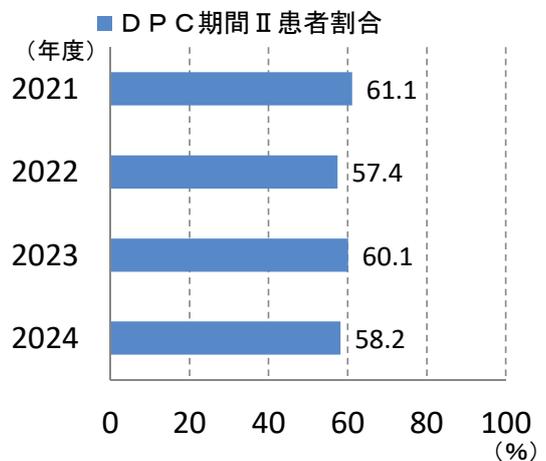
⑦ DPC期間Ⅱ
患者割合

当該月にDPC期間Ⅱ内で
退院した患者数

$$= \frac{\text{当該月にDPC適応で退院した患者数}}{\text{当該月にDPC適応で退院した患者数}}$$

急性期医療における全国の平均的在院日数以内に退院した患者の割合を示しています。

DPC期間Ⅱとは、急性期医療における全国的な平均在院日数を示しています。当院では毎年、DPC期間Ⅱの患者割合が増えてきております。今後も地域の医療機関などと連携を進めながら、500床以上の病院における全国平均65%を目標に適正な在院日数の管理に努めていきます。



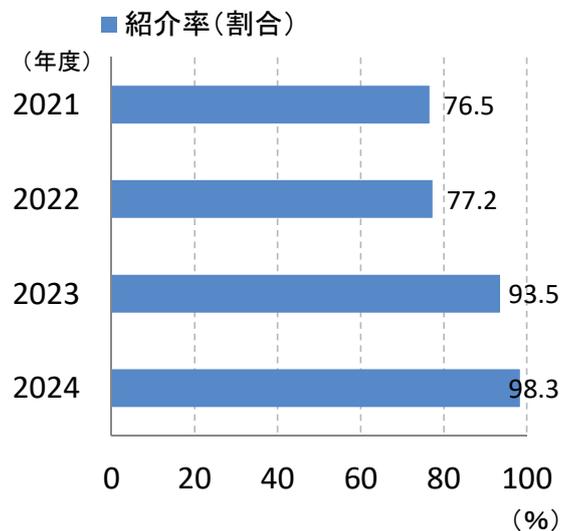
⑧ 紹介率(割合)

他の医療機関からの紹介
で受診した患者数

$$= \frac{\text{他の医療機関からの紹介で受診した患者数}}{\text{初診患者数 (休日夜間、救急車搬送は除く)}}$$

当院を受診した患者のうち、他の医療機関からの紹介で受診した患者の割合を示す指標です。

地域医療支援病院ならびに紹介重点医療機関病院となっており、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医、かかりつけ歯科等を支援する病院と道より指定をうけております。紹介患者を中心とした外来診療体制となっています。今後も高い割合を維持するため医療機関との連携強化が課題となります。



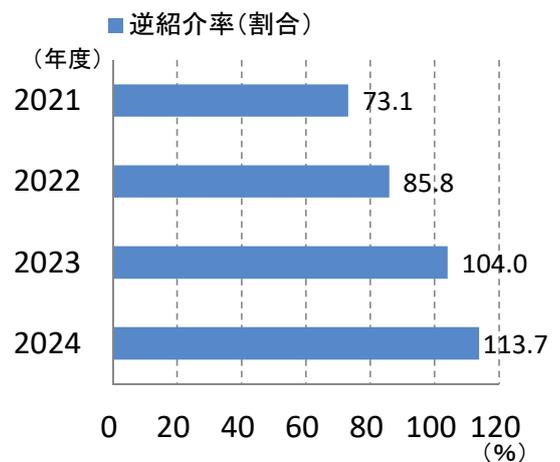
⑨ 逆紹介率(割合)

診療情報提供料算定数

$$= \frac{\text{診療情報提供料算定数}}{\text{初診患者数 (休日夜間、救急車搬送は除く)}}$$

他の医療機関へ紹介した患者の割合を示す指標です。

地域医療支援病院ならびに紹介重点医療機関病院となっており、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医、かかりつけ歯科等を支援する病院と道より指定をうけております。今後も高い割合を維持するため医療機関との連携強化が課題となります。



JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

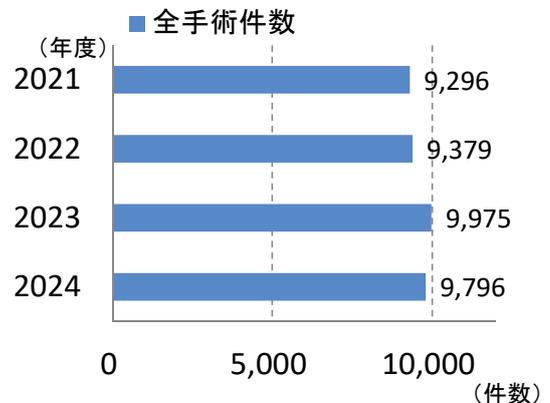
結果・成果指標
(Outcome)

⑩ 全手術件数

= 手術(手術室以外で行われた内視鏡的手術・心臓カテーテル治療等も含む)の件数

手術スタッフ、設備、手術時間等の効率的な運用を示す指標です。

新型コロナウイルス感染症の影響により手術件数がやや減少していた時期より、徐々に手術件数も増加しております。手術室の効率的な運用を検討しつつ、手術を行ってまいります。

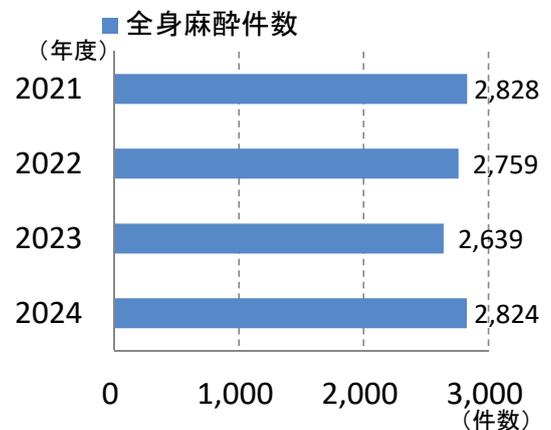


⑪ 手術全身麻酔件数

= 全身麻酔実施件数(ただし、1手術中に複数実施の場合は一連の麻酔で1件とする)

全身麻酔では人工呼吸管理も必要となることから、麻酔科医や手術看護師などの業務量を反映する指標となります。

新型コロナウイルス感染症の影響により手術件数がやや減少していた時期より、徐々に手術件数も増加し、全身麻酔件数も増加傾向にあります。手術室の効率的な運用を検討しつつ、より安全な麻酔を提供していきます。

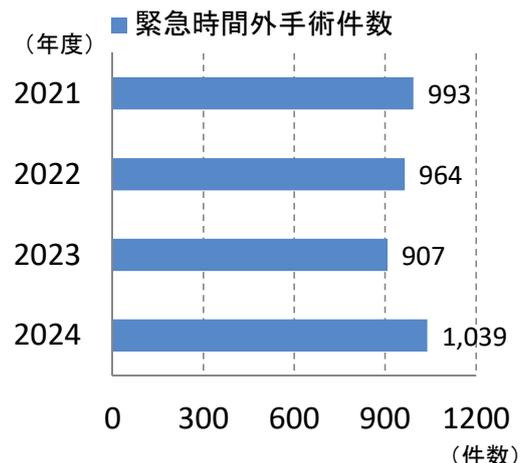


⑫ 緊急時間外手術件数

= 時間外加算、深夜加算、休日加算を算定した件数

予定外の緊急手術を常時実施できる体制を評価する指標です。

2021年度以降はコロナ対策含め対応方法が確立し緊急時間外手術件数は回復傾向にあります。今後も引き続き、通常の診療時間外に急変した患者に対して緊急手術が行える体制を整えてまいります。



JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

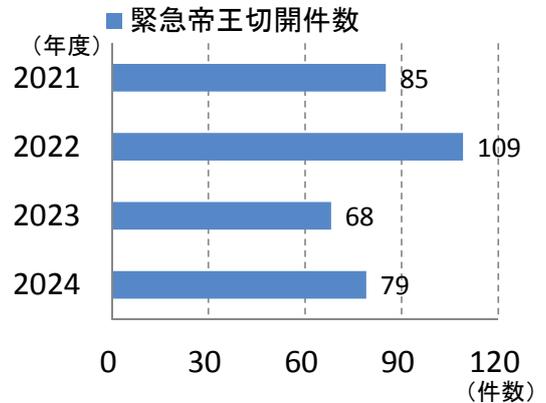
結果・成果指標
(Outcome)

⑬ 緊急帝王切開数

= 緊急帝王切開の算定件数

予定外の帝王切開における体制が整っていることを評価する指標です。

分娩件数が減少する中、緊急帝王切開件数は大きく減少することなく推移しました。今後も予定外の帝王切開における体制を維持していきます。

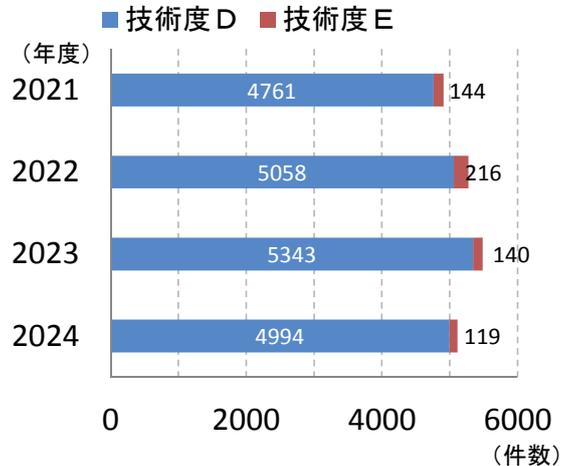


⑭ 技術度DとEの手術件数

= 外保連手術試案第8版における技術度D・Eの件数

手術の技術度は、医療技術の適正な評価を目的として、外科系学会社会保険委員会連合(外保連)が試案として5段階(A~E)で発表をしています。技術度の高い手術をより多く行っていることを評価する指標です。

今後も手術のリスクを考慮しながら、高難度の手術を行っていきます。

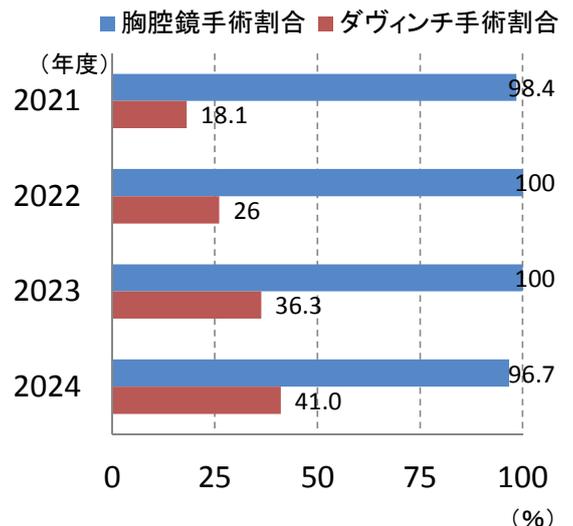


⑮ 肺がん手術における胸腔鏡下手術(ダヴィンチ手術)の割合

$$\frac{\text{胸腔鏡下手術件数(ダヴィンチを用いた件数)}}{\text{胸腔鏡下手術+開胸手術件数}}$$

胸腔鏡下手術は開胸術と比べて非常に小さな創で済み、痛みが少なく、患者の早期回復が期待できます。また、より精緻な手術を目指し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」による手術を開始しております。

胸腔鏡手術の割合は極めて高い割合を維持しております。ダヴィンチ手術も年々増加し、より患者さまに低侵襲性の手術を提供していきます。今後も増加する見込みです。

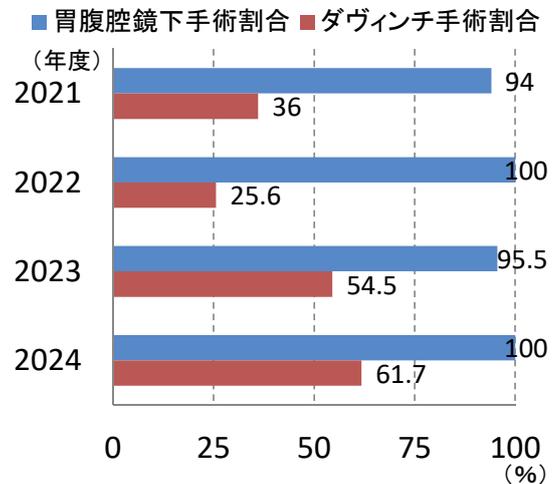


⑩ 胃がん手術における
腹腔鏡手術
(ダヴィンチ手術)の割合

$$= \frac{\text{胃腹腔鏡下手術件数 (ダヴィンチを用いた件数)}}{\text{胃腹腔鏡下手術+胃開腹手術件数}}$$

腹腔鏡下手術は開腹術と比べて非常に小さな創で済み、痛みが少なく、患者の早期回復が期待できます。また、より精緻な手術を目指し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」による手術も行っております。

腹腔鏡手術の割合は高い割合を維持しております。ダヴィンチ手術も年々増加し、より患者さまに低侵襲性の手術を提供していきます。より精密な手術を目指していきます。

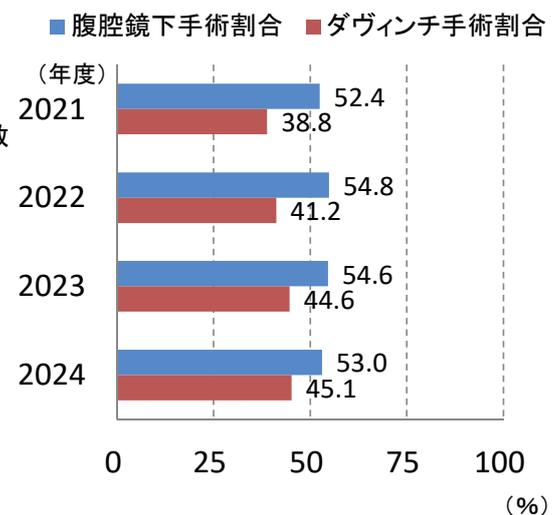


⑪ 前立腺がん、腎がん、膀胱がん
手術における腹腔鏡下手術
(ダヴィンチ手術)の割合

$$= \frac{\text{腹腔鏡下手術件数 (ダヴィンチを用いた件数)}}{\text{腹腔鏡下手術+開腹手術件数}}$$

腹腔鏡下手術は開腹術と比べて非常に小さな創で済み、痛みが少なく、患者の早期回復が期待できます。泌尿器科では前立腺がん、腎がんなどの特に早期がんにおいて従来の開腹手術に代わり腹腔鏡下手術が一般的な手術療法になっています。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」による腹腔鏡下手術も積極的に行っております。

腹腔鏡手術は年々増加しており、そのうち、ダヴィンチ手術の割合は半分以上を占めています。今後も負担の少ない、より精緻な手術を目指していきます。

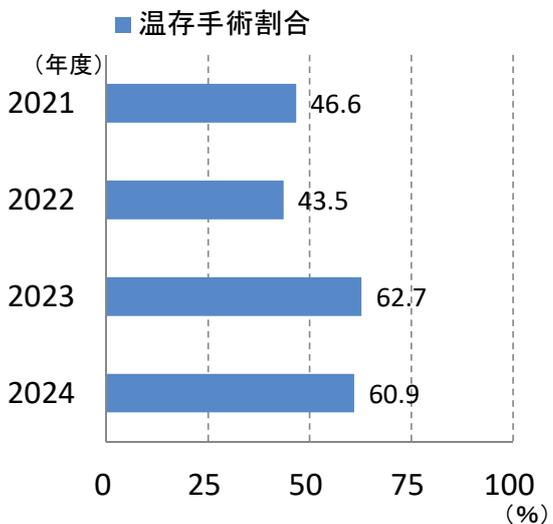


⑫ 乳がん(腫瘍2cm以下)
手術における乳房温存
手術の割合

$$= \frac{\text{温存手術数}}{\text{温存手術数+非温存手術数}}$$

乳房温存手術では、乳房内での再発率を高めることなく、患者が望む場合に乳房を残します。乳がんの広がりや大きさを正確に判断し、適切な乳房温存手術と術後の放射線治療を行うことが重要です。

乳房温存手術の割合が減少しております。正確な診断と手術は当然ですが、患者の希望にも沿いながら治療を行っていきます。



JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

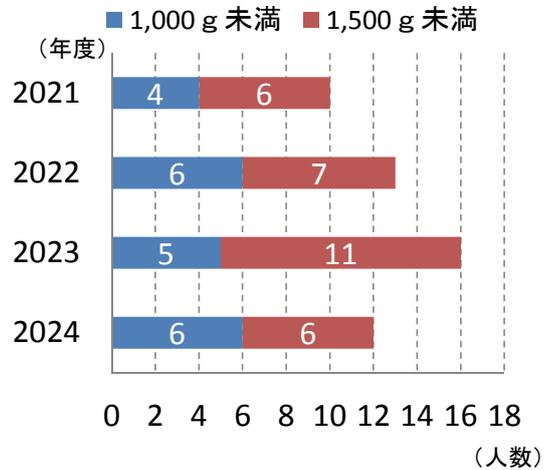
結果・成果指標
(Outcome)

⑱ 新生児のうち
出生児体重が
1,500g未満の

= 当院での出生時の体重が
1,500g未満の「極低出生体重
児」、1,000g未満の「超低出生
体重児」の合計人数

新生児集中治療室(NICU)では高度な設備に加えて専門的知識
や技術を習得したスタッフを24時間体制で配置しています。極め
て重症度が高く新生児集中治療を必要とする児を常に受け入れ
ていることを示しています。

毎年10名前後の低出生体重児の治療を行っており、今後も総合周産期
母子医療センターとして、ハイリスク妊産褥婦や新生児の医療に対応し
ていきます。

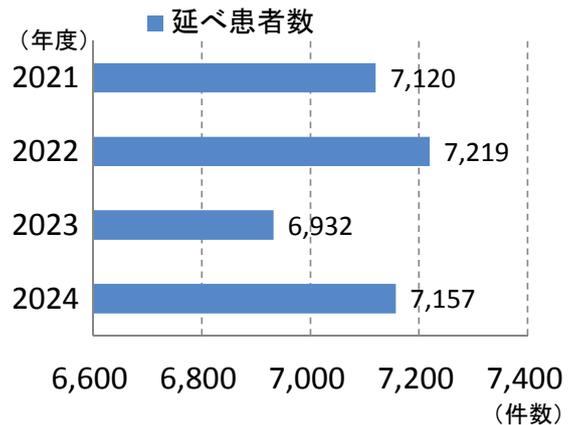


⑳ 外来化学療法
患者数

= 外来で化学療法を実施した
延べ患者数

外来で適切に化学療法を行えるだけの職員(医師、看護師、薬
剤師など)、設備の充実度を評価する指標です。

外来化学療法患者数は、年々増加しております。入院治療から外来治
療に切り替わっていることや外来で施行できる抗がん剤が増えてきてい
ることが増加の要因として考えられます。



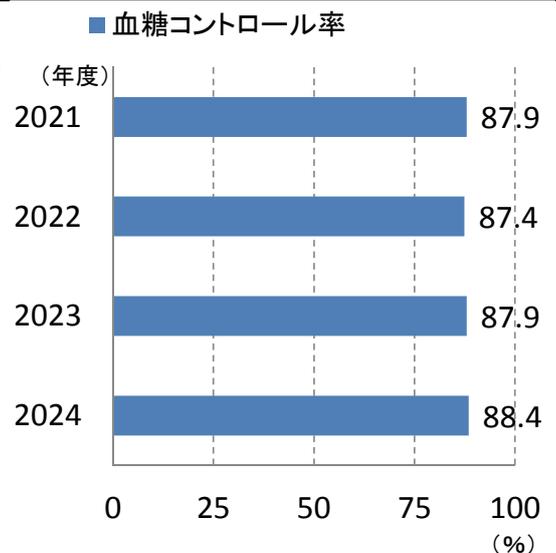
㉑ 65歳以上の糖尿病患者
の血糖コントロール率
(HbA1c<8.0%)

= $\frac{\text{HbA1c(NGSP)の最終値が8.0\% 未満の65歳以上の外来患者数}}{\text{糖尿病の薬物治療が行われて いる65歳以上の外来患者数}}$

※過去1年間に糖尿病治療薬が外来で合計90日以上処方されて
いる65歳以上の患者

血糖コントロールとは、高血糖を改善して血糖値をできるだけ正
常な数値に近づけることで、糖尿病の治療の中で最も大切なも
のです。本指標は、糖尿病治療薬(薬物療法)を投与した外来患
者に対するHbA1c値のコントロール度合いを示しています。

ほとんどの患者で適切に血糖がコントロールされています。今後も適切
な血糖コントロールを継続し、合併症の予防に努めていきます。



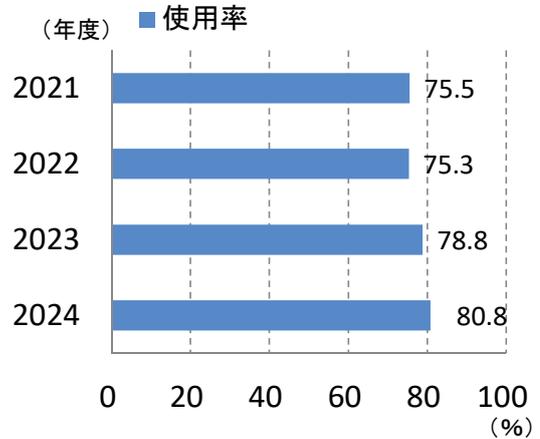
JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

結果・成果指標 (Outcome)

⑳ 後発医薬品 使用率 =
$$\frac{\text{後発医薬品の規格単位数量}}{\text{後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量}}$$

後発医薬品への切替可能な薬品のうち、実際に消費した後発医薬品の数量が占める割合を表す指標です。

政府が定めた方針「2023年度末までに全ての都道府県で80%以上」に従い、後発医薬品への切り替えを進めており、後発医薬品使用率は年々増加しております。後発医薬品の流通障害もあり、目標値には到達していませんが、今後も後発医薬品の積極的な導入を進めていきます。

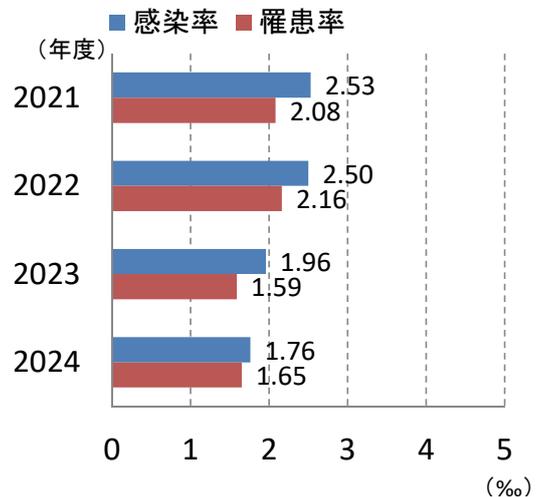


㉑ MRSA感染率 =
$$\frac{\text{感染症患者数}}{\text{総入院患者数}}$$
 ※千分率で計算

㉒ MRSA罹患率 =
$$\frac{\text{新規感染症患者数}}{\text{総入院患者数} - \text{継続感染症患者}}$$
 ※千分率で計算

MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)の院内感染は、不適切な抗菌薬の使用や汚染された手指や器具を通して接触伝播することで発生するため、本指標は院内の感染制御の状況を示しています。

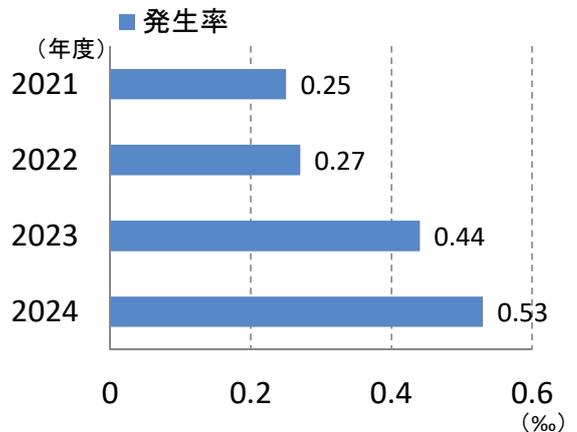
当院では感染率・罹患率ともに若干減少傾向であり、今後も感染管理团队(IGT)が中心となり、院内感染を防止するため適切な手指消毒、器具消毒等の徹底に努めていきます。



㉓ 転倒転落による 損傷発生率 (レベル2以上) =
$$\frac{\text{入院中の患者に発生した損傷レベル2以上の転倒・転落件数}}{\text{入院患者延べ人数}}$$

転倒転落を予防し、外傷を軽減する取り組みを表す指標です。

事例分析から導かれた予防策を実施し転倒・転落発生のリスクを低減する取り組みを推進することで、転倒・転落による外傷の軽減を図ります。



※‰(パーミル)は、入院患者1000人あたり何人転倒・転落しているかを表しています

JA北海道厚生連 帯広厚生病院 医療の質の指標(QI: Quality Indicator)

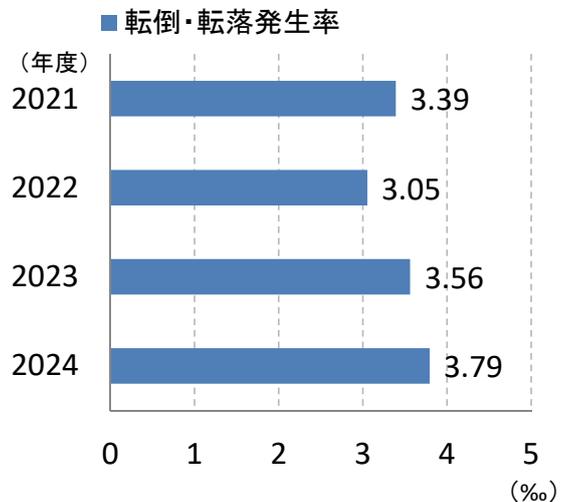
結果・成果指標 (Outcome)

②⑤ 65歳以上入院患者における転倒・転落発生率

$$= \frac{\text{65歳以上の入院中の患者さまに発生した転倒・転落件数}}{\text{65歳以上の入院患者延べ数}}$$

転倒・転落の予防策を実施して、転倒・転落の発生リスクを低減していく取り組みを示す指標です。数値は千分率で示します。

引き続き転倒・転落事例の分析を行い、予防策を実施していきます。

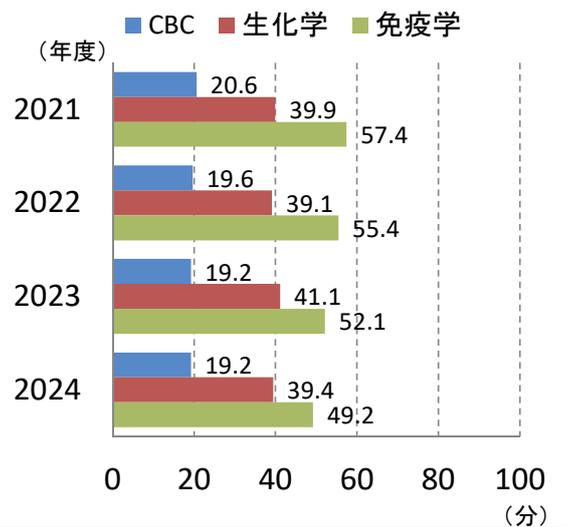


②⑥ 検査業務所要時間(TAT)

$$= \text{CBC・生化学検査・免疫学的検査における、臨床検査室に検体が到着した時間から臨床へ結果報告が完了するまでの時間}$$

診察前検査や緊急検査に関して結果を迅速に報告するために、臨床のニーズを反映して設定した管理指標です。

至急対応項目は60分以内に報告することを目標値としておりますが、再検査等により超過してしまう場合があります。今後も迅速な検査データの報告を目指し、TATの短縮に努めていきます。

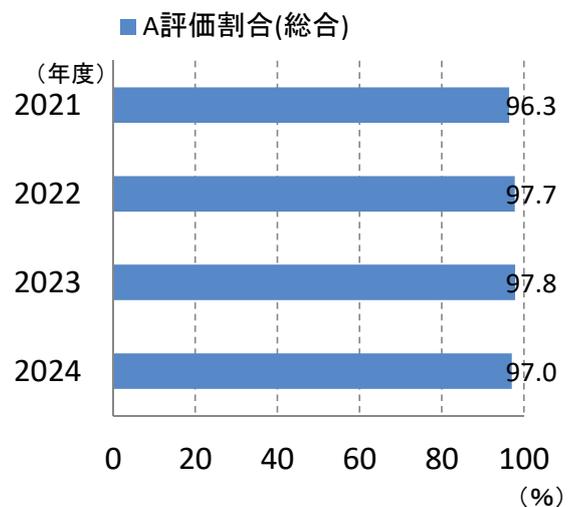


②⑦ 外部精度管理評価結果

$$= \text{主要な3団体による外部精度管理調査結果(日臨技精度管理調査・北臨技精度管理調査・日本医師会精度管理調査)における総合A評価の割合}$$

臨床検査室は、他施設とのデータを比較するため、外部精度管理調査に参加しております。A評価の割合が高い程、検査室が高品質な検査サービスを提供できていることを表します。

ISO 15189取得年である2018年度から外部精度管理調査の数値は改善しています。今後は日本医師会の評価Aの割合を改善できるよう努めていきます。

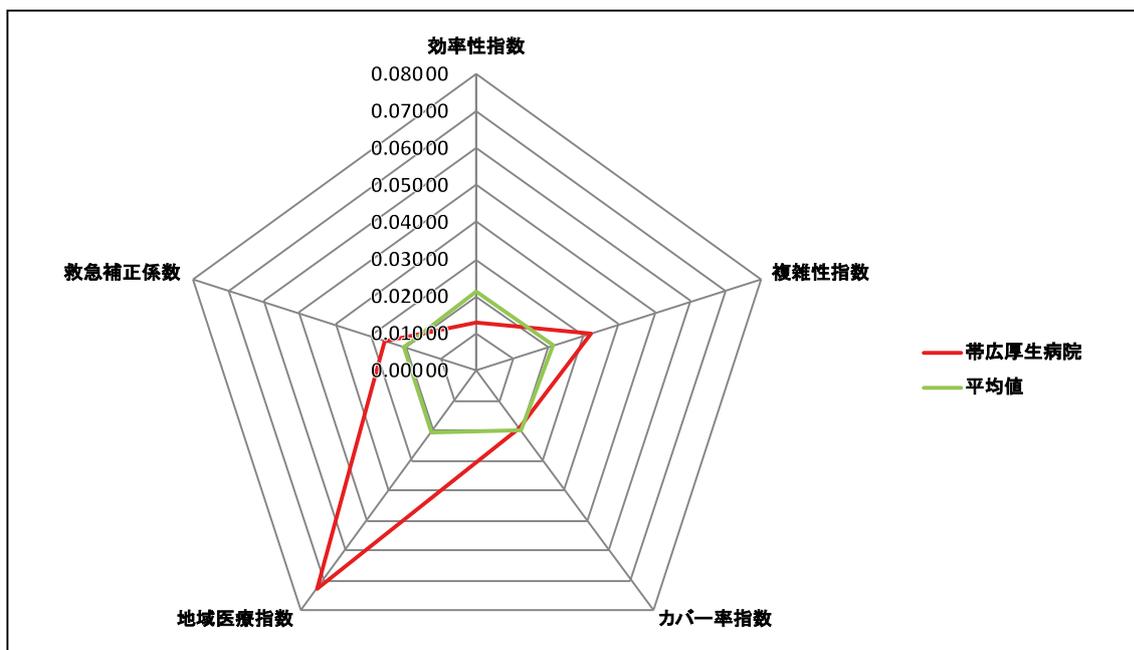


帯広厚生病院DPC医療機関別係数について

1. 令和6年度DPC医療機関別係数

- 1) 医療機関群：DPC標準病院群
- 2) 基礎係数：1.0976
- 3) 機能評価係数Ⅰ：0.1370

2. 令和6年度機能評価係数Ⅱの内訳



	効率性指数	複雑性指数	カバー率指数	地域医療指数	救急補正係数
帯広厚生病院	0.01290	0.03210	0.01910	0.07290	0.02580
平均値	0.02128	0.02143	0.02016	0.02074	0.02060

(各指数の説明)

効率性指数：各医療機関における在院日数短縮の努力を評価

複雑性指数：1入院当たり医療資源投入の観点から見た患者構成への評価

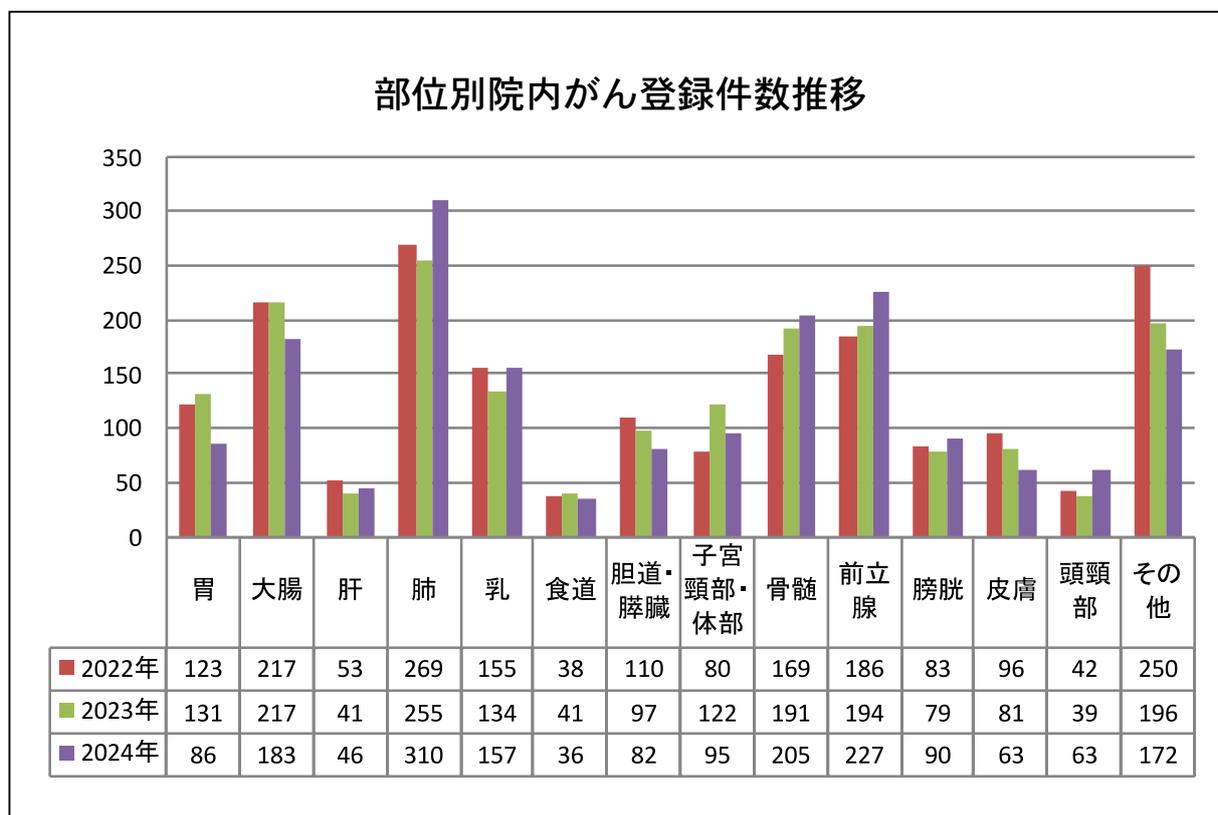
カバー率指数：様々な疾患に対応できる総合的な体制について評価

地域医療指数：5疾病6事業等を含む医療提供体制における役割や実績を評価

救急補正係数：救急医療（緊急入院）の対象となる患者治療に要する資源投入量の乖離を評価

部位別院内がん登録件数

	2022年	2023年	2024年
胃 (C16)	123	131	86
大腸 (C18-C20)	216	217	183
肝 (C22)	53	41	46
肺 (C34)	269	255	310
乳房 (C50)	155	134	157
食道 (C15)	38	41	36
胆道・膵臓 (C23-C25)	110	97	82
子宮頸部・体部 (C53-C54)	80	122	95
骨髄 (C42)	169	191	205
前立腺 (C61)	186	194	227
膀胱 (C67)	83	79	90
皮膚 (C44)	96	81	63
頭頸部 (C00-C13, C30-32, C73)	42	39	63
その他 (上記以外)	281	196	172
合計	1,901	1,818	1,815



科別患者数

入院

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
呼吸器内科	18,541	51	18,799	51	20,136	55
循環器内科	13,700	38	17,067	47	15,481	42
消化器内科	22,805	62	24,497	67	20,790	57
血液内科	9,769	27	13,463	37	13,597	37
脳神経内科	13,005	36	15,115	41	13,509	37
小児科	8,482	23	7,783	21	7,698	21
外科	13,152	36	13,198	36	14,835	41
脳神経外科	15,772	43	14,776	40	13,304	36
心臓血管外科	3,093	8	3,220	9	2,121	6
整形外科	22,500	62	20,104	55	19,292	53
産婦人科	14,308	39	12,183	33	11,638	32
皮膚科	969	3	838	2	595	2
形成外科	4,329	12	5,357	15	6,410	18
泌尿器科	8,389	23	7,304	20	7,363	20
耳鼻咽喉科	5,053	14	4,888	13	6,886	19
眼科	65	0	751	2	880	2
精神科	12,518	34	13,512	37	13,055	36
麻酔科	339	1	412	1	414	1
放射線科	186	1	235	1	284	1
総合診療科	2,462	7	2,393	7	2,257	6
緩和支援治療科	4,054	11	5,328	15	5,224	14
救急科	2,157	6	2,025	6	2,606	7
入院計	195,648	536	203,248	555	198,375	543

外来

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
呼吸器内科	30,934	127	24,242	99	24,500	101
循環器内科	38,755	159	35,684	146	31,981	132
消化器内科	59,591	244	59,256	243	51,279	211
血液内科	11,901	49	11,454	47	12,075	50
神経内科	15,272	63	15,221	62	15,834	65
小児科	12,346	51	11,189	46	9,862	41
外科	17,315	71	17,249	71	16,976	70
脳神経外科	10,309	42	10,061	41	10,067	41
心臓血管外科	4,702	19	4,364	18	4,137	17
整形外科	24,470	100	23,969	98	23,262	96
産婦人科	33,064	136	27,641	113	25,508	105
皮膚科	14,646	60	13,547	56	11,153	46
形成外科	9,533	39	10,362	42	10,921	45
泌尿器科	24,556	101	23,604	97	22,981	95
耳鼻咽喉科	15,325	63	15,068	62	15,206	63
眼科	1,956	8	3,487	14	4,676	19
精神科	17,810	73	20,207	83	21,328	88
麻酔科	1,798	7	1,712	7	905	4
放射線科	11,504	47	11,037	45	11,525	47
総合診療科	3,769	8	2,594	11	2,068	9
緩和支援治療科	328	15	364	1	484	2
健康管理科	1,896	1	1,944	8	2,093	9
救急科	4,241	17	4,990	20	5,466	22
外来計	366,021	1,500	349,246	1,431	334,287	1,376

健診センター

人間ドック

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受診者数	16,209	16,538	16,873
男性	9,605	9,773	9,819
女性	6,604	6,765	7,054
J A 組合員	3,616 (22.3%)	3,707 (22.4%)	3,594 (21.3%)
J A 役職員	2,305 (14.2%)	2,321 (14.0%)	2,348 (13.9%)
その他(市町村・一般事業所)	10,288 (63.5%)	10,510 (63.6%)	10,931 (64.8%)
オプション検診			
脳ドック	1,364	1,351	1,367
人間ドックオプション	(1034)	(1021)	(1042)
脳単独ドック	(330)	(330)	(325)
肺ドック	573	561	604
喀痰検査	101	87	96
マンモグラフィ検査	3,820	3,853	3,788
乳腺超音波検査	543	568	585
子宮頸部がん検診	2,972	2,955	2,886
子宮体部がん検診	280	300	286
H P V 検査	663	623	566
前立腺がん検診	2,678	2,679	2,414
骨粗鬆症検診	1,533	1,524	1,486
胃カメラ検査	1,198	1,540	1,571
ピロリ菌検査	1,053	919	727
血圧脈波検査	847	1,134	1,439
頸動脈エコー検査	943	1,039	1,018
脂肪酸分画検査	879	792	733
体成分分析検査	1,264	1,248	1,198
P E T 検診	186	117	111
人間ドックにより発見された主な悪性腫瘍等			
食道がん	1	5	
胃がん	6	5	
大腸がん	8	12	
肺がん	4	6	
腎がん	4	3	
膵臓がん	-	-	
肝臓がん	-	-	
甲状腺がん	1	-	
乳がん	10	6	
子宮体部がん	-	-	
子宮頸部がん	-	-	
卵巣がん	-	-	
前立腺がん	5	11	
膀胱がん	-	-	
胆管がん	2	-	
脳ドック(脳動脈瘤等)	216	-	

巡回検診車で行う生活習慣病検診（巡回ドック）関連

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受診者数	7,412	7,560	7,607
男性	3,647	3,472	3,799
女性	3,765	4,088	3,808
十勝管内	4,663	4,097	4,539
釧路管内	1,571	1,666	1,487
根室管内	1,178	1,797	1,581
JA職員	740 (10.0%)	733 (9.7%)	669 (8.8%)
その他一般	6,672 (90.0%)	6,827 (90.3%)	6,938 (91.2%)
生活習慣病検診により発見された主な悪性腫瘍			
食道がん	-	2	/
胃がん	5	2	
大腸がん	5	13	
肺がん	5	3	
膵臓がん	-	1	
膀胱がん	-	-	
前立腺がん	2	10	

人間ドックも巡回検診も昨年までとほぼ同様の受診者を確保しています。スタッフの人数や施設・設備の数を考慮するとこれ以上受診数を増加させることは難しいようにみえます。オプション健診も堅調に推移しています。希望者の多い胃カメラ検査についてはスタッフ数の増加に伴い、今後増える見込みです。一方でPET健診については希望者が一巡したためか、減少傾向にあります。

人間ドックにおいても巡回検診においても毎年一定数の悪性腫瘍が発見されます。悪性腫瘍の早期発見はこの事業における最も意義のあることと考えていますのでこれからも力を入れていきたいです。

(文責／副院長 高橋 亨)

臨床研修センター

応募者数とマッチ数

出身大学名／ 募集年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
北海道大学	12	10	11	14	14	13	13	13	15	14	11	19	19
札幌医科大学	9	10	6	5	4	9	11	11	4	8	2	9	9
旭川医科大学	10	3	3	4	0	0	1	6	2	2	1	2	2
道内受験者数	31	23	20	23	18	22	25	30	21	24	29	30	30
道外受験者数	6	5	4	4	2	2	5	5	8	11	1	6	8
受験者数 合計	37	28	24	27	20	24	30	35	29	35	30	36	38
マッチ数/定員数	10/10	10/10	12/12	12/12	11/12	11/12	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14

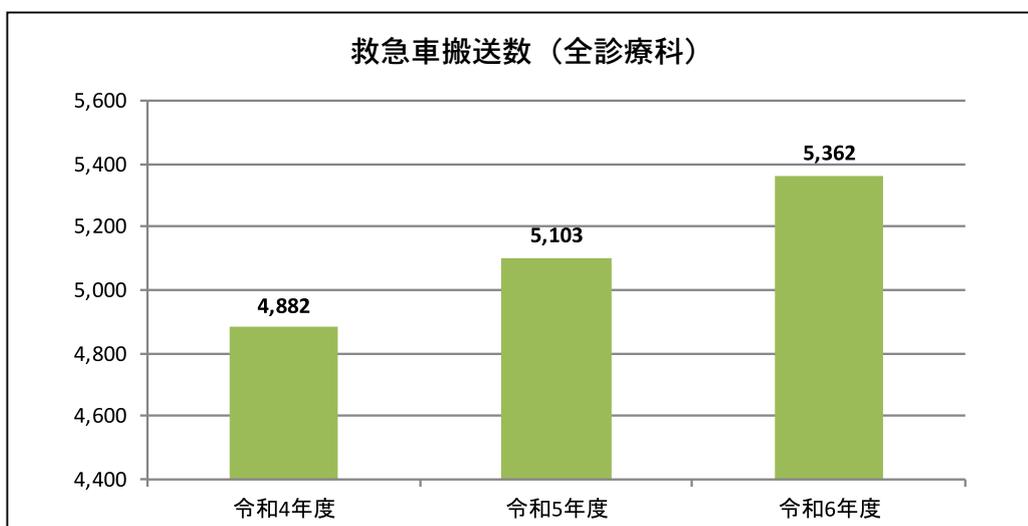
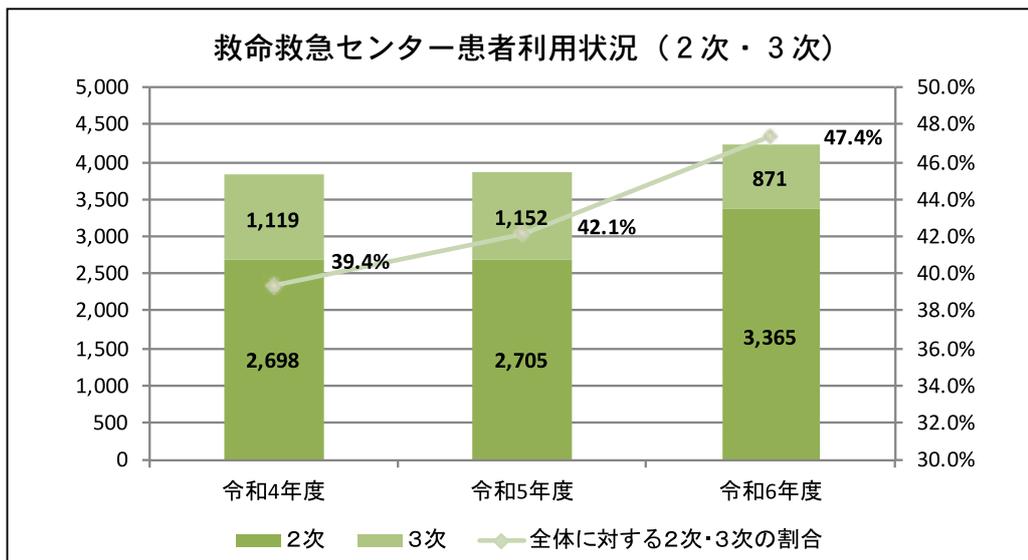
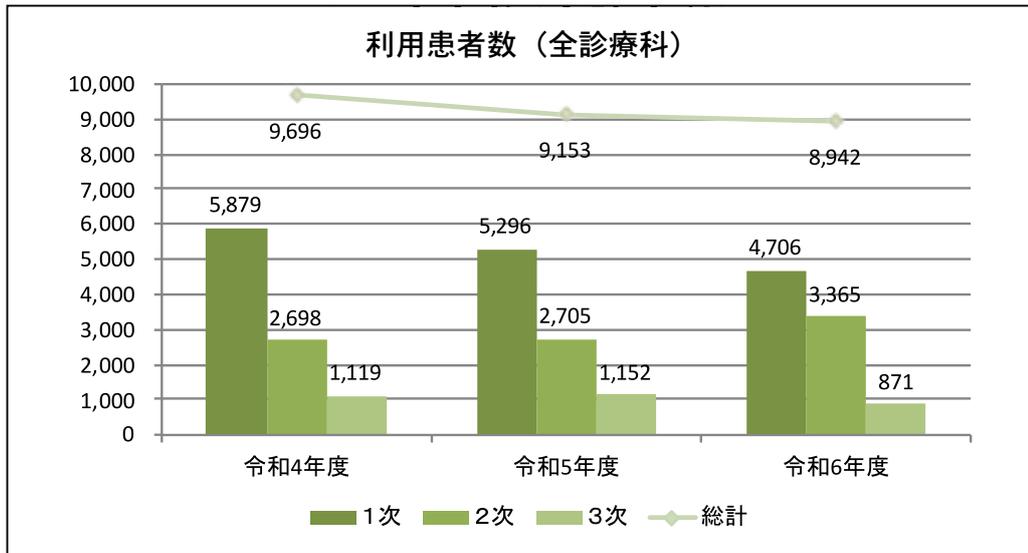
初期臨床研修修了後の専攻診療分野（3年目）

診療科／ 採用年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	計
呼吸器内科		2		1	2	1	2	2	2	1	1	1	15
循環器内科	1		1	1	1			1	1	1			7
免疫代謝	1	1	1			1						1	5
消化器内科						1	1	1	2				5
血液内科		1	1				1						3
神経内科	1		1	1	1	1					1		6
総合診療科					1	1		1	1				4
小児科				2	1		2	1		1	1	4	12
外科	2	2	1	1			1	1	1	1			10
心臓血管外科	1		1	1		1		1					5
呼吸器外科												2	2
乳腺外科											1		1
脳神経外科	1		2						1	1			5
整形外科			2		1		2		1	2	3	1	12
産婦人科				1	1			1	2	1			6
泌尿器科		2		1	1	1	1			1	1	1	9
形成外科				1					2	1	1	1	6
皮膚科												1	1
眼科							1				1		2
耳鼻咽喉科						1		1					2
精神科	2												2
放射線科		1		1	1	1		1			1		6
麻酔科	1	1			1						1	1	5
救急科					1				1	1	1	1	5
病理診断						1				1			2
統合生理学													
内科専攻医						1				1			2
未定								1					1
合計	10	10	10	11	12	11	11	12	14	13	13	14	141

令和6年度は受験者数が38名となり、過去最多を記録しました。施設・設備が充実していることに加え、各診療科の指導医・上級医の先生方による親身の指導が研修病院としての評判を呼んでいるものと認識しています。マッチングに関しても7年連続で定員に対してフルマッチを達成しました。今後も優秀な研修医確保に力を入れていきます。

初期臨床研修終了後の進路については内科系、外科系、その他の科でバランスが良く、特定の診療科に集中していないのが当院の特徴と言えます。2年間の初期臨床研修で幅広い分野を経験し、将来の方向性を決めることができているということでしょう。（文責／臨床研修センター長 高橋 亨）

救命救急センター



（文責／救命救急センター長 宮下 龍）

呼吸器内科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	18,641	18,799	20,136
	1日平均	51	52	55
外来患者数	年間	30,934	24,242	24,500
	1日平均	127	99	101
入院 主な内訳				
原発性肺癌		499	514	494
肺炎		137	148	240
慢性閉塞性肺疾患		15	29	25
気管支喘息		0	14	14
間質性肺炎		63	77	70
気胸		38	31	39
外来 主な内訳				
呼吸不全関連				
在宅酸素療法		135	104	95
在宅NPPV療法		5	7	7
nCPAP療法		164	149	131
癌関連				
外来化学療法（のべ数）		1,353	1,391	1,321
検査				
気管支内視鏡（stent）		120	126	164
EBUS-TBNA		65	75	63
EBUS-GS		213	175	107
胸腔鏡		10	1	4
右心カテーテル		4	2	1

入院患者数・外来患者数ともにほぼ同等であった。入院患者の内訳では肺癌、肺炎が多いのは例年通りである。外来化学療法数、検査数はほぼ横ばいで推移している。

（文責／呼吸器内科 主任医長 菊池 創）

循環器内科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	13,700	17,067	15,481
	1日平均	38	47	42
外来患者数	年間	38,755	35,684	31,981
	1日平均	159	146	132
循環器領域の検査				
経胸壁心エコー検査		5,183	5,504	4,612
経食道心エコー検査		14	15	12
トレッドミル検査		4	6	8
安静時心筋血流シンチ		73	95	89
負荷心筋血流シンチ		39	59	60
ホルター心電図		791	752	726
心臓カテーテル検査		444	481	440
心臓CT		298	461	385
循環器領域の治療				
経皮的冠動脈インターベンション (PCI)		202	239	202
急性心筋梗塞		44	71	45
不安定狭心症		36	34	40
補助循環 IABP		11	10	10
補助循環 PCPS		0	19	3
経皮的心筋焼灼術 (ABL)		17	39	62
ペースメーカー新規植え込み		51	63	51
ペースメーカー電池交換		17	20	18
ICD 新規植え込み		4	11	9
ICD 交換		4	4	9
CRT-D 新規植え込み		2	4	0
CRT-D 交換		0	4	5
CRT-P 新規植え込み		2	3	6
CRT-P 交換		1	1	0
血液透析部門				
年間患者総数		13,553	12,549	11,894
入院		3,325	3,773	3,830
外来		10,228	8,776	8,064
導入数		106	125	99
転入		237	233	250
転出		269	312	287
腹膜透析部門				
新規導入		4	3	6
CAPD 継続例		12	9	11

令和6年度は入院患者数、外来患者数ともに減少傾向となっております。

一方で、冠動脈疾患への経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカーなどのデバイス治療は例年と同程度で推移しております。令和4年度から当院で開始しましたカテーテルアブレーションに関しては、開始以降、順調に症例数を増やしております。

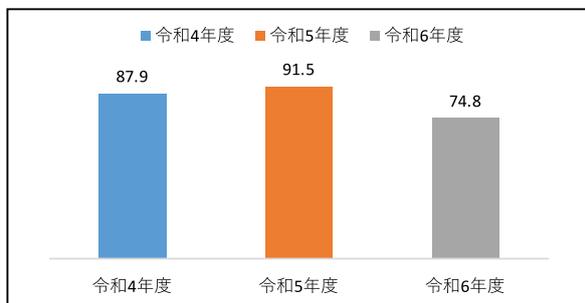
透析に関しては、血液透析患者数は新規導入も維持患者数も減少しております。腹膜透析患者数は、同程度で推移しております。

(文責／循環器内科 主任医長 村椿 真悟)

人工透析室

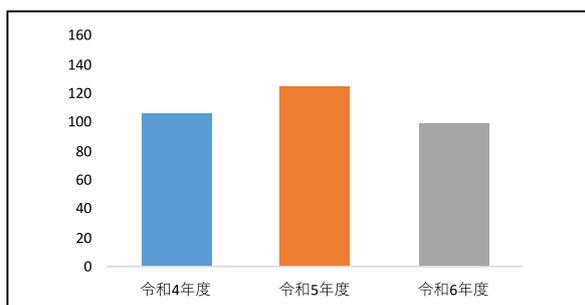
(1) 月平均血液透析在籍患者数の推移

令和4年度	令和5年度	令和6年度
87.9	91.5	74.8



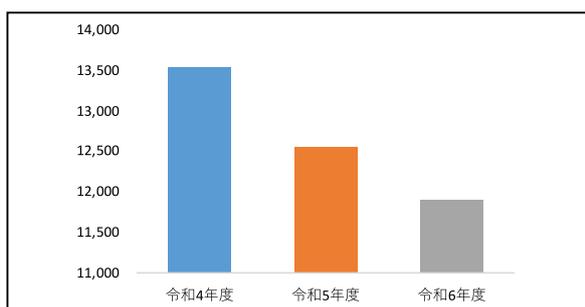
(2) 年度別透析導入患者数の推移

令和4年度	令和5年度	令和6年度
106	125	99



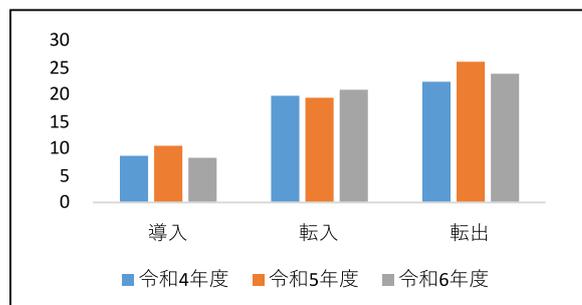
(3) 透析室治療実施回数

令和4年度	令和5年度	令和6年度
13,533	12,549	11,894



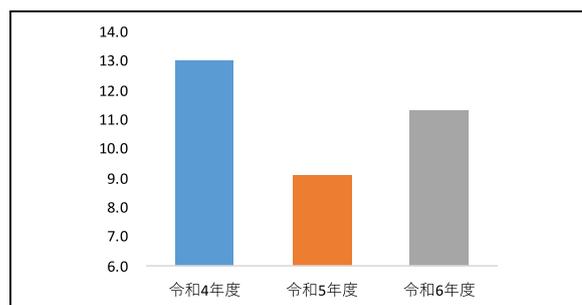
(4) 月平均患者移動状況の推移

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
導入	8.8	10.4	8.3
転入	19.8	19.4	20.8
転出	22.4	26.0	23.9



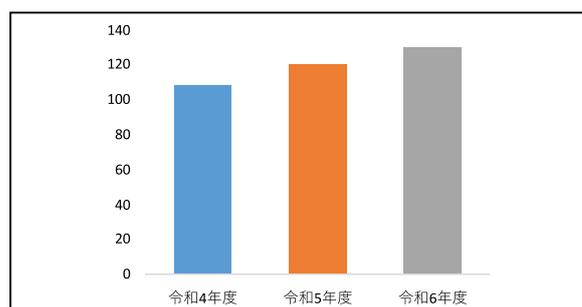
(5) 月平均腹膜透析患者数の推移

令和4年度	令和5年度	令和6年度
13.0	9.1	11.3



(6) 吸着・血漿交換等の件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度
108	120	130



血液透析在籍患者数に関して、全国的にも透析患者数は減少傾向となっており当院でも減少となっております。一方で腹膜透析患者数に関しては、近年いわれておりますSDM (Shared Decision Making) に基づく腎代替療法選択を外来で行う取り組みの影響もあると考えられますが、導入数、相対的割合は増加しております。

(文責/循環器内科 主任医長 村椿 真悟)

脳神経内科

患者数実績		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
のべ入院患者	年間	13,005		14,553		13,509	
	1日平均	36		40		37	
外来患者数	年間	15,272		14,662		15,834	
	1日平均	63		62		65	
入院患者内訳							
内 訳		患者数	%	患者数	%	患者数	%
パーキンソン病		36	8.1	34	7.5	46	7.8
パーキンソン症候群		10	2.3	12	2.6	7	1.2
運動ニューロン病		27	6.1	23	5.1	31	5.2
脊髄小脳変性症		3	0.7	5	1.1	8	1.3
多系統萎縮症		7	1.6	4	0.8	8	1.3
その他の変性疾患		17	3.8	7	1.5	4	0.7
脳血管障害		126	28.5	94	20.7	131	22.1
水頭症		5	1.1	15	3.3	10	1.7
脳炎		3	0.7	13	2.9	10	1.7
髄膜炎		17	3.8	10	2.2	10	1.7
多発性硬化症／視神経脊髄炎		10	2.3	8	1.8	16	2.7
ミエロパチー		0	0.0	7	1.5	8	1.3
脳神経障害		5	1.1	5	1.1	6	1.0
末梢神経障害		17	3.8	25	5.5	26	4.4
重症筋無力症		9	2.0	12	2.6	12	2.0
ミオパチー		17	3.8	22	4.8	36	6.1
てんかん		56	12.7	61	13.4	76	12.8
内科疾患に伴う		12	2.7	70	15.4	97	16.4
その他		65	14.7	27	5.9	51	8.6
合計		442		454		593	
外来患者（新患）内訳							
内 訳		患者数	%	患者数	%	患者数	%
頭痛							
筋緊張性頭痛		14	1.9	7	1.1	9	1.3
片頭痛		18	2.4	18	2.7	8	1.1
群発頭痛		2	0.3	1	0.2	1	0.1
その他の頭痛		7	0.9	6	0.9	7	1.0
脳血管障害		147	20.0	111	17.0	17	2.4
脳炎		3	0.4	7	1.1	2	0.3
髄膜炎		19	2.5	3	0.5	1	0.1
腫瘍		2	0.3	5	0.8	4	0.6
多発性硬化症／視神経脊髄炎		2	0.3	1	0.2	1	0.1
パーキンソン病		55	7.3	65	9.8	64	9.1

内 訳	患者数	%	患者数	%	患者数	%
パーキンソン症候群	34	4.5	25	3.8	27	3.8
脊髄小脳変性症	6	0.8	5	0.8	6	0.9
多系統萎縮症	3	0.4	3	0.5	0	0.0
認知症						
アルツハイマー型	16	2.1	15	2.3	14	2.0
その他の認知症	13	1.7	16	2.4	14	2.0
運動ニューロン病						
ALS	7	0.9	5	0.8	2	0.3
SPMA など	1	0.1	2	0.3	1	0.1
脊椎疾患	30	4.0	40	6.0	39	5.5
ミエロパチー	5	0.7	6	0.9	7	1.0
脊髄空洞症	0	0.0	1	0.2	0	0.0
脳神経障害	11	1.5	10	1.5	9	1.3
末梢神経障害						
糖尿病性	9	1.2	8	1.2	8	1.1
手根管症候群	3	0.4	5	0.8	5	0.7
その他	43	5.7	32	4.8	35	5.0
重症筋無力症	5	0.7	9	1.4	11	1.6
ミオパチー	25	3.3	19	2.9	16	2.3
てんかん	26	3.5	31	4.7	30	4.3
不随意運動						
眼瞼痙攣	6	0.8	1	0.2	2	0.3
片側顔面痙攣	4	0.5	3	0.5	2	0.3
本態性振戦	23	3.1	19	2.9	18	2.6
その他	15	2.0	22	3.3	21	3.0
内科疾患による						
代謝性脳症	10	1.3	10	1.5	7	1.0
その他	27	3.6	27	4.1	13	1.8
その他	161	21.0	124	19.0	302	43.0
合計	815		752		703	

十勝地方において脳から末梢神経に至る神経疾患全般を診療しており、頭痛などの一般的な症状から筋萎縮性側索硬化症などの神経難病、多発性硬化症などの神経免疫疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患まで幅広く診療しています。脳神経内科専門医の常勤している施設として多発性硬化症／視神経脊髄炎／重症筋無力症に対する生物学的製剤治療や診断困難な神経難病の診療、痙攣に対する持続髄注療法やパーキンソン病に対する持続皮下注療法や脳深部刺激療法など専門的医療を積極的に提供します。

(文責／脳神経内科 主任部長 加納 崇裕)

消化器内科

患者数実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
のべ入院患者数	年間	22,805	24,497	20,790
	1日平均	62	67	57
外来患者数	年間	59,591	59,256	51,297
	1日平均	244	243	211
〈消化器悪性疾患〉				
食道		20	39	38
胃		66	106	72
十二指腸・小腸		3	7	1
盲腸・虫垂		6	8	8
大腸		54	50	77
直腸・肛門		14	31	32
肝臓		38	55	28
膵臓		37	94	56
胆嚢		2	0	10
胆管		13	6	13
炎症性腸疾患		16	24	38
〈糖尿病〉				
		298	369	432
〈膠原病〉				
関節リウマチ		124	305	432
全身性エリテマトーデス		14	11	15
顕微鏡的多発血管炎		7	22	16
混合性結合組織病		1	1	3
強皮症		5	0	18
ベーチェット病		7	2	13
皮膚筋炎		22	15	10
シューグレン症候群		11	6	29
強直性脊椎炎		2	0	2
皮膚型結節性多発動脈炎		0	0	0
大動脈炎症候群		1	1	3
リウマチ性多発筋痛症		12	3	23
若年性関節リウマチ		0	0	1
悪性関節リウマチ		1	2	2
ウェゲナー肉芽腫症		2	6	1
アレルギー性肉芽腫性血管炎		1	5	6
抗リン脂質抗体症候群		-	1	1
痛風関節炎		-	0	2

令和6年度は消化器内科専門のスタッフ数が減となり、患者さんの受け入れ制限を行なったため、全体の数はかなり減少しておりましたが、糖尿病および膠原病の患者さんの数は増加しておりました。令和7年度からはスタッフ数も増えるため、受け入れられる患者さんの数は増えるものと考えております。

(文責／消化器内科 第1主任部長 吉田 晃)

内視鏡室

		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
内視鏡検査総合件数		7,592	8,452	6,902
消化器内科検査治療総数		7,166	8,105	6,534
呼吸器内科検査治療総数		426	347	368
消化器内科内視鏡検査治療総数		7,166	8,105	6,534
上部消化管内視鏡治療検査合計		3,949	4,582	3,904
上部消化管内視鏡検査合計		3,738	4,359	3,729
上部消化管内視鏡処置合計		211	223	175
内 訳	消化管止血術	49	38	48
	APC 焼灼術	24	23	12
	胃粘膜下層剥離術	53	69	38
	食道粘膜下層剥離術	5	16	7
	食道静脈瘤硬化療法 (EIS)	1	1	0
	食道静脈瘤結紮術	22	16	14
	内視鏡的胃瘻造設術	20	31	20
	他	37	29	36
大腸内視鏡治療検査合計		2,162	2,381	1,652
大腸内視鏡検査合計		1,759	1,934	1,313
大腸内視鏡検査処置合計		403	447	339
内 訳	大腸粘膜切除術 / 大腸ポリープ切除	371	386	297
	大腸粘膜下層剥離術	11	13	7
	大腸止血術	9	38	20
	大腸 APC 焼灼術			14
	他	12	10	1
超音波内視鏡検査合計		232	253	216
内 訳	上部消化管超音波内視鏡検査合計	144	150	136
	EUS-FNA	88	103	80
カプセル内視鏡・パテンシー合計		66	81	72
内 訳	カプセル内視鏡	40	48	45
	パテンシー	16	33	27
	大腸カプセル	0	0	0
TV 検査室 (消内) 合計		757	808	690
内 訳	ERCP	277	322	299
	食道静脈瘤硬化療法 (EIS)	17	27	31
	大腸内視鏡検査	34	45	42
	大腸 EMR	0	0	0
	上部消化管検査	49	33	28
	小腸内視鏡 (上)	9	17	6
	小腸内視鏡 (下)	7	12	6
	上部消化管拡張術	50	26	17

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
内 訳	上部消化管ステント留置術	26	28	20
	大腸ステント留置術	14	22	24
	PTCD	0	2	0
	PTGBD	1	0	0
	PEG 交換	53	58	60
	P-TEG 交換	2	2	2
	イレウス管挿入（経鼻）	54	60	63
	イレウス管挿入（肛門）	5	11	3
	イレウス管チューブ造影	17	22	14
	他	142	122	75
呼吸器内科内視鏡検査治療総数		426	347	368
気管支鏡合計		418	346	365
気管支鏡検査		35	13	17
気管支鏡検査処置		383	333	348
内 訳	気管支 APC	2	0	3
	気管支肺胞洗浄（BAL）	45	37	52
	気管内採痰	2	2	2
	気管支擦過細胞診	1	1	0
	経気管支肺生検（TBLB）	2	1	4
	気管支生検	0	0	0
	気管支異物除去	2	2	9
	気管支瘻孔閉鎖術	11	4	12
	EBUS-TBNA	60	81	59
	TBLB・BAL	16	15	14
	経気管支生検	8	16	14
	EBUS-GS	221	143	133
	金マーカー留置	9	3	3
	経気管肺生検法（仮想気管支鏡）	4	26	39
	気管支吸引細胞診	0	0	0
	気管支分泌物吸引	0	1	0
	他	0	1	4
胸腔鏡検査合計		8	1	3
胸腔鏡検査		4	0	0
胸腔鏡検査処置合計		4	1	3
内 訳	胸腔ドレナージ	0	0	0
	胸腔鏡下生検	4	1	3

令和6年度は前年よりも内視鏡件数は減少しました。令和7年度から消化器専門医が2名増えて内視鏡件数が増えておりますので、今後は内視鏡件数の増加が期待できます。

（文責／内視鏡室 主任部長 松本 隆祐）

血液内科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	9,769	13,463	13,597
	1日平均	27	37	37
外来患者数	年間	11,901	11,454	12,075
	1日平均	49	47	50
新規入院患者 主な内訳				
急性骨髄性白血病		9	23	18
急性リンパ性白血病		7	4	3
急性混合性白血病		-	-	-
慢性骨髄性白血病		-	1	5
慢性リンパ性白血病		-	-	1
非ホジキンリンパ腫		74	87	78
ホジキンリンパ腫		4	6	1
成人T細胞性白血病・リンパ腫		-	2	1
多発性骨髄腫		18	18	21
骨髄異形成症候群		11	10	17
再生不良性貧血		3	6	1
特発性血小板減少性紫斑病		7	3	8

疾患の内訳は概ね例年と大きな変化はありませんが、外来患者数は増えております。リンパ腫や多発性骨髄腫に対する二重抗体薬等の新薬の登場もあり、外来化学療法を行う患者が増えていることが背景として考えられます。

(文責/血液内科 主任部長 若狭 健太郎)

小児科

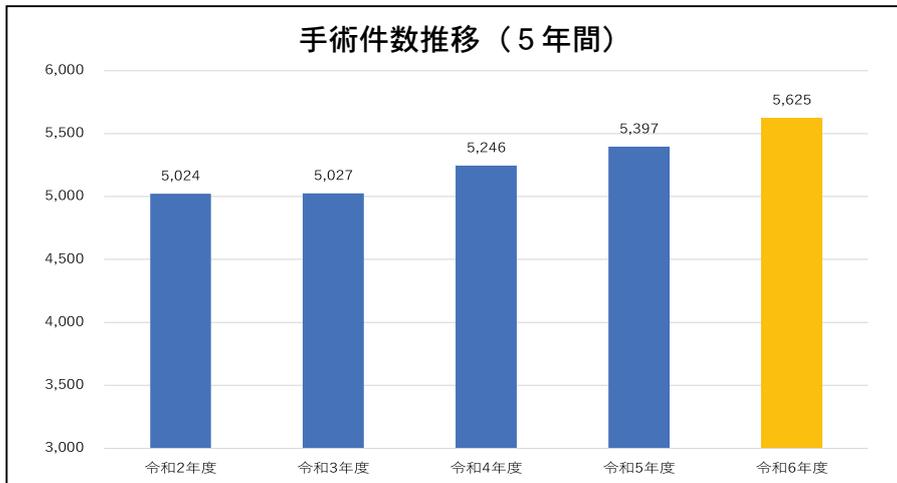
患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	8,482	7,783	7,698
	1日平均	23	21	21
外来患者数	年間	12,346	11,189	9,862
	1日平均	51	46	41
時間外平均外来患者数		3.2	2.4	2.3
小児科病棟入院患者数（入院患者の内、専門的医療を要する患者数）				
神経		55	55	44
心臓		8	9	21
内分泌		40	52	35
血液・腫瘍		16	11	15
免疫・膠原病		14	22	37
腎臓		24	15	12
NICU				
NICU入院患者数		122	108	99
低出生体重児（2,500g未満）		104	70	42
極低出生体重児（1,500g未満）		18	9	6
超低出生体重児（1,000g未満）		1	0	6
年間人工呼吸管理患者数		24	22	9

日本小児科学会専門医3名（うち1名は日本小児循環器学会専門医、1名は日本周産期・新生児学会専門医）が常勤しており、他に血液、神経、内分泌、免疫、腎臓、遺伝疾患については大学病院や専門病院から各専門委を招聘し、特殊外来を設けています。ICU管理が必要な重症疾患児やNICUでの低出生体重児、先天性疾患児など幅広く受け入れ可能な体制を取っています。

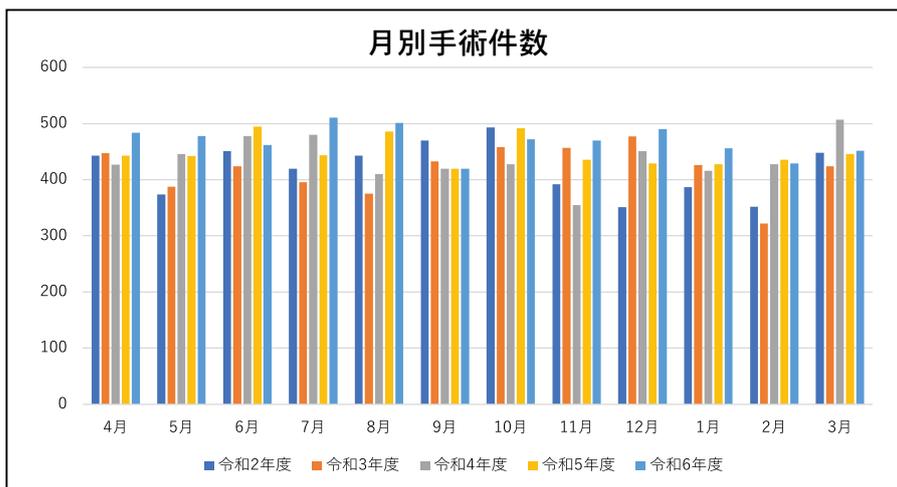
（文責／小児科 主任部長 八楸 聡）

手術室

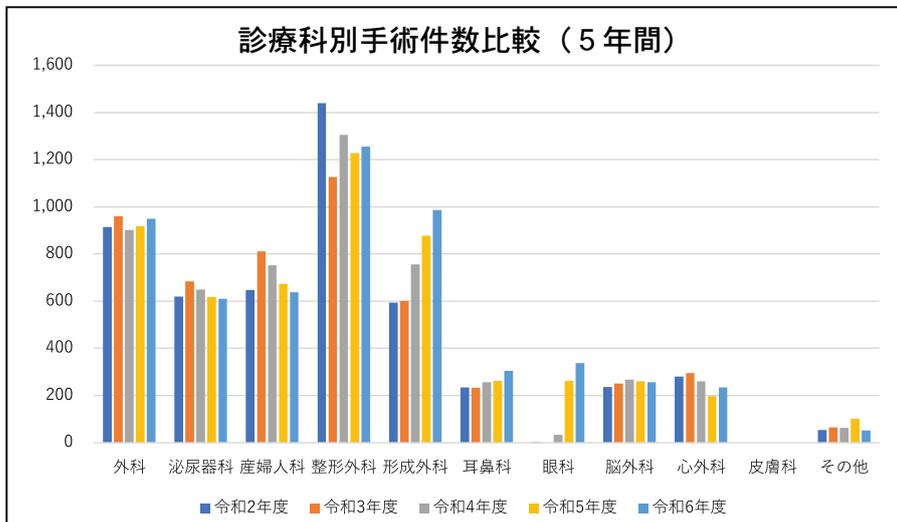
1. 手術総件数



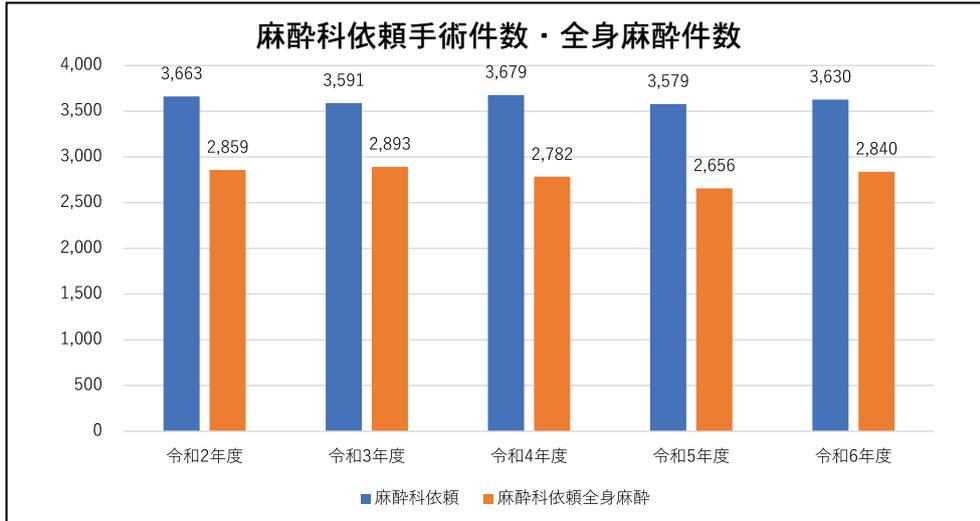
2. 月別手術総件数比較



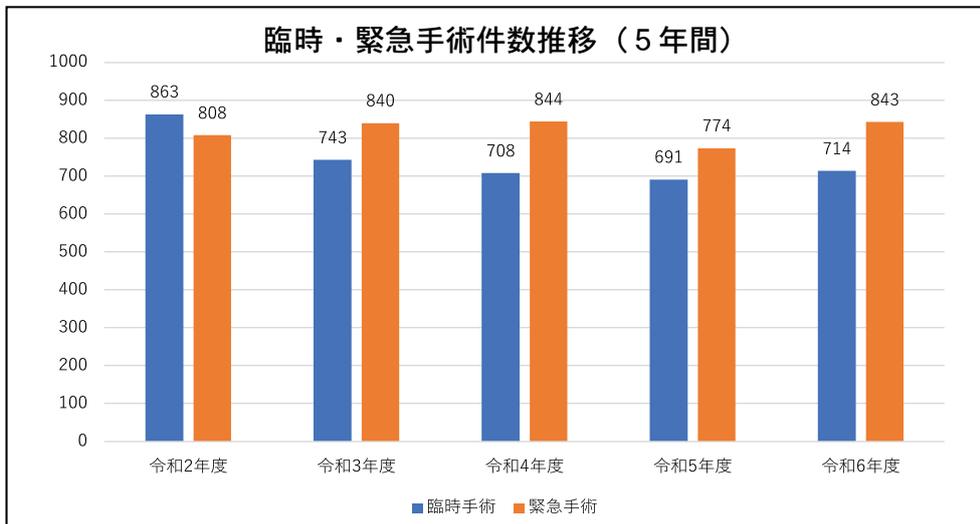
3. 診療科別手術件数比較



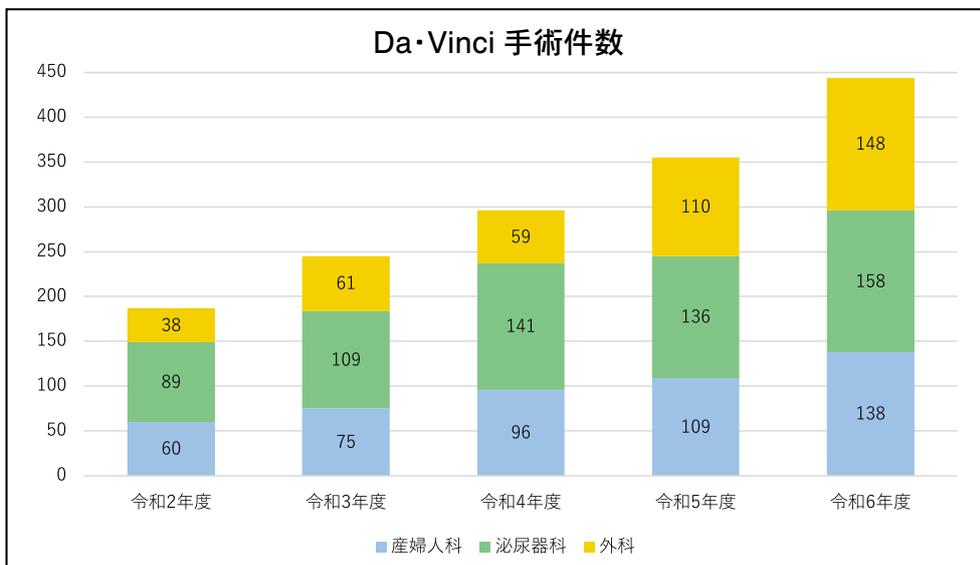
4. 麻酔科依頼件数



5. 臨時手術・緊急手術件数推移

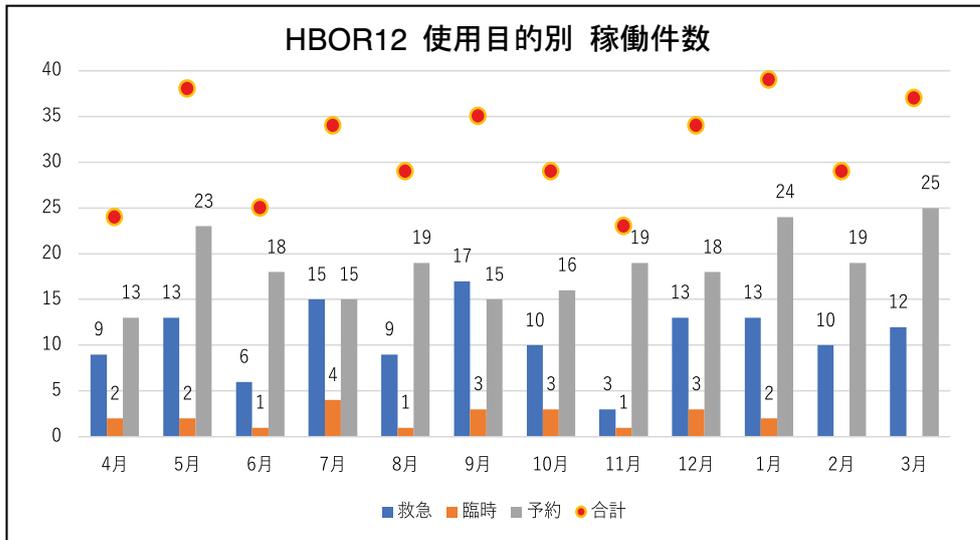


6. ロボット支援下内視鏡手術（Da・Vinci）手術件数推移

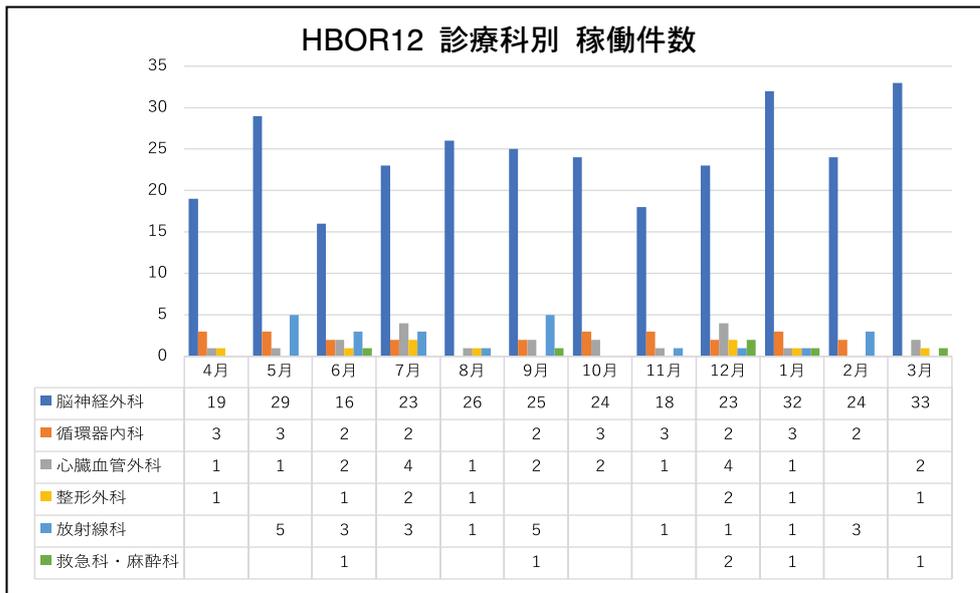


7. ハイブリッド手術室稼働推移

(1) 年間総稼働件数（休日夜間、検査手術を含めた総件数）：376件 月平均31.3件（23～39）
 内訳 救急患者：130件34.6%、臨時（入院患者当日追加）：22件5.9%、予約：224件59.6%



(2) 稼働件数：科別割合 脳神経外科（292件）で77.7%（昨年度：68.8%）を占める。



令和6年度の年間手術件数は5,625件で、コロナ後順調に回復しています。科別では形成外科の手術件数が急激に増加しており、他の科も大きな変動なく推移しています。麻酔科依頼全身麻酔症例数は2,840件で年間手術総件数の50%でした。臨時手術は714件で昨年と大きな変化はありませんでしたが、緊急手術は843件と昨年（774件）比69件の増加を認めました。

ロボット支援内視鏡手術は令和5年度からはdaVinci 2台体制となり、令和6年度は444件（泌尿器科158件、外科148件、婦人科138件）と前年（355件）比116%の結果で各科ともに手術件数を増やしています。ロボット手術運用に際しては、臨床工学技士の手術室補助業務などにより増加する需要に対応しています。

ハイブリッド手術室は年間376件の運用がなされました。内訳では救急患者に対する運用が脳外科、循環器内科を中心として130件（34.5%）ありました。科別では脳外科の症例が292件（77.7%）を占める結果でした。救命センターの3次多発外傷に対する複数科共同手術も1例あり、困難症例に対して積極的な取り組んでいます。

当院は十勝圏域の救急医療と高度な外科手術の需要に応える使命があります。R6年度からは医師のみならず医療者全体に働き方改革が求められるようになりました。これまで以上に手術室の効率的な運用を行い、拠点病院としての使命を果たしてまいります。

（文責／副院長兼手術室 主任部長 村川 力彦）

麻酔科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	339	408	414
	1日平均	1	1	1
外来患者数	年間	1,798	1,727	905
	1日平均	7	7	4
症例数				
総麻酔症例数		3,670	3,546	3,586
臨時麻酔		608	766	736
各科の麻酔				
外科		818	809	809
整形外科		761	702	691
耳鼻咽喉科		248	250	283
婦人科		684	639	604
産科				
泌尿器科		387	347	333
形成外科		295	327	372
心臓血管外科		240	188	200
脳神経外科		206	186	198
眼科		1	27	28
麻酔科		5	0	2
精神科		10	12	20
その他		15	59	46
	合計	3,670	3,546	3,586
北3病棟症例数				
ICU		330	506	504
CCU		229	330	314
HCU		398	385	549
	合計	957	1,221	1,367
麻酔科外来症例数				
症例数		1,431	1,488	598
新患数		469	335	397
救命救急センター				
一次救急患者		5,879	5,296	4,706
二次救急患者		2,698	2,705	3,366
三次救急患者		1,119	1,152	871
	合計	9,696	9,153	8,943
CPOA		191	220	242

麻酔科が担当した総麻酔症例数、臨時麻酔件数ともに、前年と同程度の症例数となっております。重症患者の入院加療を担う北3病棟症例数（ICU、CCU、HCU）、救命救急センターでの三次救急患者（集計の都合上、救急科での診療数との合算総数）も前年と同程度の症例数となっております。次年度も、ここ数年と同程度の症例数の水準で経過していくものと予想されます。

※ペインクリニック外来は令和6年6月をもちまして終了となりました。麻酔科外来では術前ハイリスク麻酔や問題症例の診察を継続して行っております。

（文責／麻酔科 主任部長 宮下 龍）

外科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	13,152	13,198	14,351
	1日平均	36	36	39
外来患者数	年間	17,315	17,249	17,010
	1日平均	71	71	70
手術件数				
手術件数		896	907	941
全身麻酔		808	822	800
腰椎・硬膜外麻酔・サドル		22	39	76
局麻件数		45	46	42
臨時手術		228	194	228
主な術式				
胸腔鏡下肺部分切除		32	39	46
肺葉切除		6	3	3
胸腔鏡下肺葉切除		60	63	67
甲状腺・副甲状腺手術		0	0	1
乳房切除		53	42	43
乳房温存		25	37	38
食道切除		8	1	8
胃全摘術		0	1	0
腹腔鏡補助下胃全摘術		14	6	9
胃切除		1	2	1
腹腔鏡下胃切除術		19	28	28
胃噴門部切除術		6	8	8
胃部分切除術		0	1	3
腹腔鏡下胃部分切除術		4	3	4
胃腸吻合		4	9	5
結腸切除		15	12	42
腹腔鏡下結腸切除術		94	90	45
直腸切除		2	3	2
腹腔鏡下前方切除術		30	32	26
直腸切断・人工肛門		6	5	4
ハルトマン手術		13	13	15
TEM		0	0	0
人工肛門		32	24	22
臍頭十二指腸切除		21	11	7
臍体尾部切除		16	7	6
肝切除（外側区切除）		1	1	0
肝切除（外側区除く区域以外）		6	1	4
肝切除（部分切除）		13	9	8

主な術式	令和4年度	令和5年度	令和6年度
肝 RFA	0	0	0
開腹胆摘術	5	4	2
腹腔鏡下胆摘術	35	33	60
イレウス手術	31	33	32
急性虫垂炎手術（成人）	44	48	47
小児急性虫垂炎手術	8	13	9
鼠径・大腿ヘルニア成人	32	75	96
小児鼠径・臍ヘルニア	21	30	20
小児外科疾患	32	43	35
術後縫合不全	3	5	2
術後出血	2	4	3
主な疾患別手術症例数			
甲状腺癌	0	0	1
甲状腺機能亢進症	0	0	0
甲状腺腫	0	0	0
副甲状腺疾患	0	0	0
肺癌	99	93	109
肺腫瘍	8	10	12
転移性肺腫瘍	12	11	14
縦隔腫瘍	6	9	13
自然気胸	6	6	16
乳癌	76	78	82
食道癌	8	3	9
食道胃接合部癌	5	3	2
胃癌十二指腸癌・悪性	40	49	48
胃十二指腸潰瘍・良性	5	5	2
結腸癌	106	98	67
直腸癌	51	48	35
痔核・痔瘻	0	1	7
胆管癌／胆嚢癌	11	6	3
膵癌	27	12	26
肝癌	8	4	4
転移性肝腫瘍	9	7	4
胆石症／総胆管結石症	27	36	41
脾疾患	2	1	2
イレウス	31	33	32
小児外科疾患	32	43	35
鼠径・大腿ヘルニア成人	32	75	93
小児鼠径・臍ヘルニア	21	30	29
急性虫垂炎成人	44	48	46
小児急性虫垂炎	8	13	9
急性胸部、腹部外傷	7	10	12

内視鏡手術症例数	令和4年度	令和5年度	令和6年度
胸腔鏡手術	142	151	156
肺部分手術	32	39	46
肺葉手術	57	65	67
肺区域切除	21	17	16
ブラ切除	3	6	16
膿胸手術	7	3	4
生検	8	7	3
縦隔腫瘍	6	10	10
食道切除	9	1	9
その他	8	3	2
腹腔鏡手術	348	368	361
食道裂孔ヘルニア	1	1	1
食道切除胃管作成	9	1	7
胃全摘術	14	7	9
胃切除術	26	38	36
胃部分切除術	4	5	5
大網充填術	1	3	3
結腸切除術	99	99	42
前方／低位前方切除術	31	33	28
直腸切断、人工肛門	9	5	18
虫垂切除	42	54	56
腹腔鏡下胆摘術	35	33	62
肝部分切除術	6	7	5
尾側膵切除術	0	2	1
脾摘	1	0	1
イレウス	7	10	7
ヘルニア（TAPP）	13	25	18
その他	35	28	56
小児外科腹腔鏡手術	15	20	15
虫垂切除	8	13	9
その他	7	7	6

（文責／呼吸器外科主任部長 大竹 節之）

リンパ浮腫外来

【予約状況】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予約枠数／予約率	192枠 /73%	187枠 /67%	183枠 /66%
実施枠数	189枠	187枠	180枠
1日平均予約枠数	8.7枠	7.8枠	7.9枠
1日平均実施枠数	8.5枠	7.8枠	7.8枠
予約外・臨時対応	2件	2件	0件

内 訳		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
婦 人 科	初 診	9件	6件	9件	+3
	再 診	103件	98件	92件	-6
乳 腺 外 科	初 診	2件	4件	4件	±0
	再 診	59件	58件	60件	+2
泌 尿 器 科	初 診	0件	0件	0件	±0
	再 診	4件	3件	4件	+1
総 件 数		177件	170件	169件	-1件
1日平均 受診者数		8.0人	7.0人	7.3人	±0人
延べ人数		72人	67人	71人	+4人

【初診13名のリンパ浮腫進行状況】

病 期 分 類	婦 人 科	外 科	泌尿器科	計	割合(%)
Stage 0期	5	0		5	38.5
Stage I期	2	3		5	38.5
Stage II期	2	1		3	23.1
Stage III期	0	0		0	0

topic

予約状況や受診総件数につきましては年々減少傾向となっております。初診患者は13名と例年同人数で推移しています。初診時のリンパ浮腫 Stage は0～I期が77%と、早期段階での受診相談となっております。当該部署でのリンパ浮腫予防指導による効果から、患者様のリンパ浮腫への意識づけと共に早期受診行動に繋がっていると考えられました。

(文責／乳がん看護認定看護師 太田 美幸)

心臓血管外科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	3,093	3,220	2,121
	1日平均	8	9	6
外来患者数	年間	4,702	4,364	4,137
	1日平均	19	18	17
手術件数				
総手術件数		287	272	217
心大血管疾患		72	66	52
体外循環使用		42	41	37
体外循環非使用 (OPCAB)		17	15	11
体外循環非使用 (TEVAR)		12	8	3
主な症例				
1 後天性心疾患				
冠動脈バイパス術				
単独 CABG		19	19	16
Off pump		17	15	11
末梢側吻合部		3.1	3.1	3.3
1枝		0	2	0
2枝		7	2	4
3枝		6	8	6
4枝以上		6	7	6
2 弁膜症疾患その他				
弁膜疾患		24	22	18
その他		6	5	3
3 大血管疾患				
大血管手術		23	19	15
解離性		14	9	7
非解離性		9	10	8
4 先天性心疾患				
先天性		0	1	0
5 末梢血管症例				
末梢血管手術他		215	206	188
腹部大動脈瘤 (破裂)		22(0)	36(0)	15(2)
胸部ステントグラフト		12	8	3
腹部ステントグラフト		9	21	11

昨年4月より当院へ赴任し、12月より前任の山内先生に代わり、主任部長になりました。
昨年度は、入院患者数、外来患者数ともに減少しており、それに伴い手術総数も減少しました。

(文責/心臓血管外科 主任部長 杉木 孝司)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
頸椎前方固定術		2	1
頸椎後方徐圧術	1		1
胸椎後方除圧			
腰椎手術			
AVM・AVF			
S-S shunt			
instrumentation・固定術			
その他			0
<シャント手術>	16	11	10
V-P shunt	7	4	3
V-A shunt			
S-P shunt			
L-P shunt	5	7	7
内視鏡下開窓術	2		
その他	2		1
<感染症手術>	5	0	6
脳膿瘍	2		2
硬膜上下膿瘍・頭蓋形成術	3		4
前頭蓋底形成術・粘液嚢腫			
その他			0
<機能的手術>	10	13	10
MVD	10	13	9
DCS、ITB			1
<その他の手術>	12	1	12
頭蓋形成術	6	1	6
ICP sensor 設置術			
その他	6		
脳神経外科手術合計	205	156	197
脳血管内手術および年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
血栓溶解回収療法			
内頸動脈閉塞症	7	15	16
中大脳動脈閉塞症	30	31	30
前大脳動脈閉塞症	1		0
後大脳動脈閉塞症		4	1
椎骨脳底動脈閉塞症	5	6	10
静脈洞血栓症			1
脳動脈瘤塞栓術（母動脈閉塞含）			
破裂	23	23	26
未破裂	24	13	30
AVM・AVF 塞栓術	3	2	3
頭蓋内腫瘍塞栓術	6		5
鼻出血・顔面外傷・MMA 塞栓術	2	3	5
頭頸部脊椎病変塞栓術			
PTA for atherosclerosis	2	4	1
Stenting			
CAS	17	16	12
intracranial	3	1	
others	1		0
脳血管攣縮エリル動注・PTA			
BOT			
その他（attemp 含む）			
脳血管内手術合計	124	118	134
総数	329	274	331

(文責／脳神経外科 主任医長 能代 将平)

整形外科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	22,500	20,104	19,292
	1日平均	62	55	53
外来患者数	年間	24,470	23,969	23,262
	1日平均	100	98	96
手術数		1,295	1,229	1,246
主な症例内訳				
上肢				
	外傷	281	370	364
	その他	273	274	255
下肢				
	外傷	385	287	306
	その他	263	200	221
脊椎				
	外傷	32	34	39
	その他	74	55	61

整形外科では運動器疾患の2本柱である変性疾患と外傷の治療に加え、がんの骨転移の診療にも取り組んでいます。変性疾患に対しては運動療法や薬物療法を主体としますが、治療抵抗例には従来の標準的手術に加え、関節温存型の手術、神経や腱の絞扼性疾患に対する内視鏡手術、低侵襲脊椎手術など患者さんに優しい新技術も積極的に取り入れています。一方、切断や高度挫滅などの重度四肢外傷に対してマイクロサージャリーの技術で患肢温存を目指しています。

(文責／整形外科 第1主任部長 安井 啓悟)

産婦人科

患者数実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間 14,308	12,183	11,638
	1日平均 39	33	32
外来患者数	年間 33,064	27,641	25,508
	1日平均 136	113	105
総分娩件数	696	485	459
帝王切開術	241	188	181
手術件数			
<悪性疾患>			
子宮頸癌手術			
広汎子宮全摘出術	3	3	2
拡大子宮全摘出術	1	3	4
単純子宮全摘出術	0	0	1
子宮体癌手術			
含；系統的リンパ節郭清	12	6	9
拡大子宮全摘＋両付摘	21	13	27
卵巣癌手術			
ステージング手術	18	12	16
腫瘍切除・基本術式	18	19	27
<良性疾患>			
子宮全摘術			
開腹	19	19	6
腔式	7	3	3
腹腔鏡下	115	124	141
子宮筋腫核出術			
開腹	1	0	1
腔式	1	1	0
腹腔鏡下	17	13	11
付属器（卵巣・卵管）腫瘍摘出術			
開腹	12	9	7
腔式	0	0	0
腹腔鏡下	36	60	52
子宮内膜症病巣除去術（含；チョコレートのお胞摘出）			
開腹	1	1	2
腹腔鏡下	22	25	17
子宮外妊娠手術			
開腹	0	0	0
腹腔鏡下	13	9	10
子宮脱手術			
腔式	39	28	20
鏡視下仙骨腔固定術	4	8	5
その他の婦人科手術			
開腹	3	0	0
腔式	12	7	16
腹腔鏡下	4	2	1
子宮腔部円錐切除術	46	61	34
子宮鏡下手術	19	16	8
子宮内膜搔爬術	23	14	18
産科手術			
帝王切開術	227	176	162
流産手術	45	23	22
その他の産科手術	3	11	10
合計	746	666	632

ロボット支援手術は令和元年度から導入し年々増加傾向にあり、令和6年度には130例に実施しました。婦人科の施設としては道内で最大の年間ロボット手術症例数となりました。また、悪性疾患に対しては31例に低侵襲手術（腹腔鏡・ロボット支援）を実施しています。

（文責／産婦人科 主任部長 森脇 征史）

形成外科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	4,383	5,357	6,190
	1日平均	12	15	17
外来患者数	年間	9,554	10,362	11,041
	1日平均	39	42	45
手術総件数		1,180	1,305	1,506
主な手術内訳				
外傷		227	284	318
先天異常		79	93	58
腫瘍		503	537	617
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド		25	33	19
難治性潰瘍		87	82	113
炎症・変性疾患		64	69	107
その他（レーザー治療等）		195	207	274

形成外科の治療対象は多岐にわたり、唇顎口蓋裂、小耳症や副耳、手足のゆびの変形といった先天異常、あるいは顔面の外傷や骨折、全身の皮膚軟部組織欠損、熱傷、皮膚の良性及び悪性腫瘍などの初期治療からその後の変形、機能不全に対するマイクロサージャリーなどの手技を用いた再建手術まで行っております。

（文責／形成外科 主任部長 北村 孝）

泌尿器科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	8,389	7,304	7,363
	1日平均	23	20	20
外来患者数	年間	24,556	23,604	22,981
	1日平均	101	97	95
手術総件数		979	999	986
主な手術術式と件数				
腎癌				
	鏡視下腎全摘除術	44	15	22
	開腹腎全摘除術	1	2	0
	腎部分切除術	29	22	21
	(ロボット支援腎部分切除術)	28	22	21
	(開腹腎部分切除術)	1	0	0
	腎生検	66	56	42
腎盂尿管癌				
	鏡視下腎尿管全摘除術	18	23	12
	開腹腎尿管全摘除術	0	0	0
前立腺癌				
	前立腺針生検	172	145	160
	前立腺全摘除術	91	88	95
	(ロボット支援前立腺全摘除術)	91	88	95
	(開腹前立腺全摘除術)	-		
膀胱癌				
	経尿道的膀胱腫瘍切除術	148	121	143
	膀胱全摘術+新膀胱	0	0	
	膀胱全摘術+回腸導管	12(11)	8(8)	9
	膀胱全摘術+尿管皮膚瘻	4(4)	1(1)	2
	膀胱全摘術；尿路変向なし (カック内はロボット支援)	1(1)	1(1)	2
	精巣悪性腫瘍手術	5	5	3
	経尿道的前立腺手術	17	28	28
	副腎腫瘍摘除術(鏡視下)	3	7	7
尿路結石手術				
	体外衝撃波結石破碎術	116	102	102
	経尿道的尿管結石碎石術	33	55	36
小児の手術				
	停留精巣手術	7	8	9
	陰嚢水腫根治術	1	5	14
	精巣捻転、精巣垂捻転	1	4	2
	その他	5	3	1
経膈の手術				
	経膈尿失禁手術	1	1	0
	膀胱瘤メッシュ手術	0	0	0

当科手術は、ほとんどが腹腔鏡手術・ロボット支援手術となっていますが、下大静脈進展例など必要な症例には開腹手術も行っています。低侵襲な経尿道的前立腺手術として経尿道的前立腺水蒸気治療を導入いたしました。

(文責/泌尿器科 主任医長 山田 修平)

眼科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	65	751	880
	1日平均	0	2	2
外来患者数	年間	1,956	3,487	4,676
	1日平均	8	14	19
手術総件数		2	262	328
主な症例				
蛍光眼底検査		9	24	29
水晶体再建術		21	230	297
硝子体茎頭微鏡下離断術		-	18	21
網膜光凝固術		10	44	27
網膜復位術		-	0	0
斜視手術		-	0	0
緑内障手術		-	0	3
硝子体切除術		-	2	4
増殖性硝子体網膜症手術		-	0	0
眼瞼内反症手術		-	0	0
硝子体注入・吸入術		-	1	1
網膜嚢形成手術		-	0	0
結膜腫瘍摘出術		-	0	0
眼球内容除去術		-	0	0
翼状片手術(弁の移植を要する)		-	0	1
角膜・強膜異物除去術		0	0	3
創傷処理		-	0	0
霰粒腫摘出術		-	0	0
眼瞼結膜腫瘍切除		-	0	0
結膜縫合術		-	0	0
眼窩内腫瘍摘出術(表在性)		-	0	0
角膜・強膜縫合術		-	0	1
角膜潰瘍搔爬術		-	0	0
角膜切開術		-	0	0
麦粒腫切開術		-	0	0
強角膜塵孔閉鎖術		-	0	0
毛様体光凝固術		-	0	0
前房・虹彩内異物除去術		-	0	0
後発白内障手術		-	12	24
未熟児網膜症患者数		12	11	4
未熟児網膜光凝固件数		-	2	2
硝子体内注射		14	39	61

二人体制になり、外来患者数が増えました。

(文責/眼科 主任医長 高橋 ありさ)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	5,023	4,888	6,886
	1日平均	14	13	19
外来患者数	年間	15,325	15,068	15,206
	1日平均	63	62	63
主な内訳				
鼻副鼻腔腫瘍切除		4	6	2
鼻腔悪性腫瘍切除（上顎全摘含み）		2	2	3
鼻内内視鏡副鼻腔手術（両側、片側こみ）		17	18	34
鼻中隔矯正手術		10	15	21
鼻甲介切除術		8	17	28
難治性鼻出血手術			2	3
眼窩内側骨折整復				
後鼻腔閉鎖症手術				
鼻外上顎洞開放		1		
鼓膜チューブ留置術（手術室）		7	29	28
鼓室形成術		2		4
鼓膜形成術		1		3
経乳突洞顔面神経減荷術		2	2	1
外耳道悪性腫瘍手術		1		2
中耳根治術				
外リンパ嚢閉鎖				
外耳道異物摘出			1	
外耳道 腫瘍・真珠腫切除		2	1	1
鼓室開放術				
中耳腫瘍摘出術				
口蓋扁桃摘出術		38	62	37
アデノイド切除術		14	22	24
軟口蓋形成術				
扁桃周囲膿瘍、咽後腫瘍切開術		3	1	
経口中咽頭腫瘍切除		2		
経口中咽頭悪性腫瘍切除		4	2	5
経口下咽頭腫瘍切除（良悪込み）		2	2	3
扁桃摘出後出血止血			1	
副咽頭間隙腫瘍切除		1		
下咽頭喉頭悪性全摘術（遊離空腸再建 or pmmc）		2		2
頸部食道憩室切除		1		
喉頭微細手術		10	17	30
喉頭悪性全摘術		2		3
喉頭悪性部分切除術			1	2
咽頭レーザー蒸散手術				

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
嚥下機能改善手術 (喉頭吊り上げ、輪状いんとう筋切断)	1	3	1
咽頭気管分離術	2	3	3
喉頭形成術（1型、披裂内転、声門開大）	2	4	1
披裂軟骨脱臼整復	5		
プロボックス挿入術	2		
気管切開術	23	25	36
気管孔開大手術	1	1	
気管孔肉芽除去			
食道異物摘出術			
咽頭異物摘出術複雑（手術室）		1	
気管孔閉鎖術	1		3
頸部リンパ節生検（摘出）	8	22	11
頸部膿瘍切開排膿	3	1	1
頸部のう胞摘出＋頸部腫瘍摘出	2	2	1
頸部神経鞘腫			
頸部郭清術（側）	16	9	21
頸部悪性腫瘍切除		2	1
光線化学療法			2
甲状腺悪性腫瘍切除術	11	12	7
甲状腺悪性腫瘍全摘術	9	6	11
甲状腺良性腫瘍切除術	42	12	14
バセドウ甲状腺全摘術	5	6	3
副甲状腺腫瘍摘出術	4	5	3
顎下腺摘出術	2	7	9
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1		
唾石摘出術	1	3	
耳下腺浅葉腫瘍切除術	3	12	10
耳下腺深葉腫瘍切除術	1		1
耳下腺悪性腫瘍切除			
舌口腔低悪性腫瘍全摘術（遊離・有茎皮弁）			1
舌口腔低悪性腫瘍切除術	4	3	6
舌良性腫瘍摘出術			2
頬粘膜悪性腫瘍切除			
頬粘膜腫瘍摘出			
頸部創処理（外傷など）	7	9	3
口唇腫瘍切除			
顎関節脱臼整復			
有茎皮弁術	5	2	5
遊離皮弁術			
その他	12	16	10
総手術件数			

(文責／耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任部長 吉岡 巖)

皮膚科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	969	838	595
	1日平均	3	2	2
外来患者数	年間	14,646	13,547	11,153
	1日平均	60	56	46
入院				
湿疹				
	アトピー性皮膚炎	0	0	0
	慢性湿疹	4	2	2
	その他	0	3	2
	血管炎	1	0	0
	血行障害	1	0	0
	潰瘍	1	0	0
	薬疹	5	5	5
	中毒疹	0	1	0
角化症				
	尋常性乾癬	0	0	0
	膿疱性乾癬	0	2	0
	水疱症	7	14	3
細菌性疾患				
	丹毒	1	1	1
	蜂窩織炎	16	21	21
ウイルス性疾患				
	带状疱疹	13	8	1
	成人水痘	0	0	0
	その他	4	1	1
	陥入爪	5	-	-
	じんま疹	0	-	-
	その他	9	5	6
検査・手術				
	生検	290	201	101

令和6年度は皮膚科が1人体制であったこともあり、やむなく診療規模を縮小していました。入院症例は蜂窩織炎が最も多く、その件数は例年通りとなっています。

(文責／皮膚科 主任医長 野原 拓馬)

精神科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	12,518	13,512	13,055
	1日平均	34	37	36
外来患者数	年間	17,810	20,207	21,328
	1日平均	73	83	88
退院患者数		172	226	250
内訳				
直接受診患者数		1,770	2,021	2,245
院内他科依頼患者数		353	362	628
他院依頼患者数		295	218	155
直接受診患者の疾患別割合				
F0	症状性を含む器質性精神障害	232	220	222
F1	精神作用物質使用による精神行動の障害	38	47	53
F2	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	557	597	622
F3	気分（感情）障害	599	725	875
F4	神経症性障害、ストレス関連障害および身体化障害	180	240	278
F5	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	4	8	11
F6	成人の人格および行動の障害	1	3	3
F7	精神遅滞	8	13	13
F8	心理的発達の障害	4	13	16
F9	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	6	13	15
G4	てんかん	121	117	107
	その他	21	25	30
院内他科依頼患者の疾患別割合				
F0	症状性を含む器質性精神障害	140	154	298
F1	精神作用物質使用による精神行動の障害	8	11	23
F2	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	28	33	65
F3	気分（感情）障害	92	70	100
F4	神経症性障害、ストレス関連障害および身体化障害	50	55	81
F5	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	3	1	4
F6	成人の人格および行動の障害	1	1	-
F7	精神遅滞	7	6	10
F8	心理的発達の障害	6	4	4
F9	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	5	7	8
G4	てんかん	4	1	3
	その他	16	19	32

他院依頼患者の疾患別割合	令和4年度	令和5年度	令和6年度
F0 症状性を含む器質性精神障害	29	19	12
F1 精神作用物質使用による精神行動の障害	2	4	-
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	35	39	56
F3 気分（感情）障害	127	102	52
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体化障害	69	42	20
F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2	1	-
F6 成人の人格および行動の障害	0	0	3
F7 精神遅滞	6	1	3
F8 心理的発達の障害	7	3	4
F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	3	2	5
G4 てんかん	6	1	-
その他	9	4	-
退院患者の疾患別割合（総数 人）			
F0 症状性を含む器質性精神障害	37	17	9
F1 精神作用物質使用による精神行動の障害	9	11	16
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	42	50	42
F3 気分（感情）障害	39	57	73
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体化障害	15	39	21
F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1	2	4
F6 成人の人格および行動の障害	2	5	2
F7 精神遅滞	12	12	16
F8 心理的発達の障害	5	8	10
F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	2	6	1
G4 てんかん	3	2	1
その他	5	17	55

令和4年度から医師が1名増員し、4名体制となったために患者数全体が増えています。ICDコードは、複数病名がある際には数字の少ないコードを優先しています。

（文責／精神科 主任部長 古瀬 研吾）

放射線科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	186	235	284
	1日平均	1	1	1
外来患者数	年間	11,504	11,037	11,525
	1日平均	47	45	47
画像診断読影件数				
CT		17,871	13,887	11,464
MRI		4,262	4,127	4,200
IVR 症例 総数		999	1,133	1,026
血管系 IVR				
CVport 留置		346	405	340
塞栓術 肝細胞癌化学塞栓術・動注 (TACE・TAI)		17	15	13
塞栓術 外傷		6	15	11
塞栓術 血管炎/SAM/MALS/胆膵炎症/特発性出血		6	5	7
塞栓術 消化管出血		15	11	12
塞栓術 産科出血		5	3	10
塞栓術 医原性/術後出血		5	1	8
塞栓術 喀血		2	2	5
塞栓術 子宮筋腫		1	1	0
塞栓術 肺動静脈奇形 (AVM)		3	1	2
塞栓術 内臓真性動脈瘤・動静脈奇形 (AVM)		3	11	7
塞栓術 肝腫瘍破裂		3	6	3
塞栓術 腎腫瘍 (血管筋脂肪腫など)		5	6	5
塞栓術 EVAR TEVAR 術前分枝塞栓		0	2	0
塞栓術 EVAR TEVAR 術後エンドリーク塞栓術		0	0	0
塞栓術 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 (BRTO)		4	10	4
塞栓術 経皮経肝の静脈瘤・門脈短絡路 塞栓・硬化療法 PTO (S)		0	3	2
塞栓術 部分的脾動脈塞栓術 (PSE)		6	7	4
副腎静脈サンプリング		1	0	2
留置術 大静脈ステント		0	2	0
留置術 動脈ステント/ステントグラフト		0	0	3
上腸間膜動脈 血栓吸引溶解		1	0	0
経皮的血管内異物除去		0	1	5
リンパ管造影・塞栓術		1	1	1
非血管系 IVR				
肝マイクロ波凝固療法 (MWA)		41	39	48
肺ラジオ波焼灼療法 (RFA)		0	0	4
腎ラジオ波焼灼療法 (RFA)		0	2	3
骨ラジオ波焼灼療法 (RFA)		0	1	2
腹腔内腫瘍ラジオ波焼灼療法 (RFA)		0	0	4

患者数実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度
骨盤内腫瘍ラジオ波焼灼療法 (RFA)	0	1	2
経皮的生検	120	143	143
経皮的ドレナージ (気胸、膿、胸水、液体、消化管 など)	70	71	85
胆嚢ドレナージ PTGBD	22	30	29
経皮経肝胆管ドレナージ PTBD	18	15	18
胆管ステント留置	6	4	4
経皮経肝的胆道結石除去	1	2	3
肝嚢胞固定 (ablation)	3	2	5
放射線治療 総数	8,510	7,852	
主な放射線治療内訳			
外部照射総数 (人)	443	453	530
特殊照射件数 (件)	167	163	218
定位脳照射	14	19	22
定位体幹部照射	50	32	40
強度変調放射線治療 (IMRT)	103	112	156
原発部位別 (人)	443	453	530
脳・脊髄腫瘍	4	2	5
頭頸部腫瘍 (甲状腺腫瘍を含む)	17	17	25
食道癌	11	12	19
肺癌・気管・縦隔腫瘍	131	141	133
(うち、肺癌)	129	137	126
乳癌	92	107	109
肝・胆・膵癌	18	16	29
胃・小腸・結腸・直腸癌	18	20	33
婦人科腫瘍	22	20	25
泌尿器系腫瘍	91	81	110
(うち、前立腺癌)	79	71	89
造血器リンパ系腫瘍	20	19	16
皮膚・骨・軟部腫瘍	7	3	12
その他 (悪性腫瘍)	5	5	7
良性腫瘍	7	10	7
15歳以下の小児例 (上記と重複)	0	1	1

IVRは各臓器のRFAが少しずつ行われるようになってきた。他院からの緊急TAEは救急科とも連携し対応している。放射線治療部門は例年と比べて患者数が大幅に増加しました、特にIMRTの増加が顕著でした。

(文責/放射線科 第1主任部長/第2主任部長 宮本 憲幸/井上 哲也)

総合診療科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	2,462	2,393	2,257
	1日平均	7	7	6
外来患者数	年間	3,769	2,594	2,068
	1日平均	15	11	9
入院患者数内訳（重複あり）				
発熱患者		75	67	64
感染症		61	55	54
	敗血症	6	11	1
	肺炎	20	21	20
	尿路感染症	13	10	5
	伝染性単核症	0	1	1
	皮膚・皮下組織感染症	3	1	2
	中枢神経感染症	0	0	0
	化膿性関節炎	8	4	4
	感染性心内膜炎	0	1	0
	その他	11	6	21
非感染症		14	12	10
	悪性疾患	1	2	4
	薬剤熱	0	0	0
	その他	13	10	6
非発熱患者		36	32	
	悪性腫瘍	5	1	2
	悪性リンパ腫	0	0	2
	MDS	0	1	0
	糖尿病	0	0	1
	精神疾患	5	2	0
	神経性食欲不振症	0	0	0
	不安・抑うつ状態	0	0	0
	その他	26	28	25
外来				
新患数		528	272	141

令和6年度は病院総合医として自科他科の入院診療、院内のチーム医療に重点をおいて活動した。外来は紹介患者さんを地域連携室経由の予約制とした。外来新患の数は減少したが、入院はほぼ同数であった。上記に反映されない実績として、病院産業医活動や、全初期臨床研修医への外来研修指導、脳神経外科一般病棟患者の内科管理全般について介入する病院総合医活動（Co-management）、ICT/AST活動への参加も継続している。

（文責／総合診療科 主任部長 山本 浩之）

緩和支援治療科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	4054	5328	5224
	1日平均	11	14	14
往診患者数(入院中)	年間	73	66	179
外来患者数	年間	328	369	484
内訳				
緩和ケア病棟への入院患者・診療科別				
呼吸器内科		38	32	42
循環器内科		0	0	0
神経内科		0	0	1
消化器内科		39	32	47
血液内科		5	7	7
外科		22	23	32
脳神経外科		0	3	2
整形外科		1	1	1
産婦人科		12	9	6
皮膚科		0	0	1
形成外科		1	0	2
泌尿器科		12	6	4
耳鼻咽喉科		1	3	3
総合診療科		1	1	0
合計		132	119	148
(複数回入院除く)				
住診患者数(緩和ケアチームの紹介患者数)・診療科別				
呼吸器内科		10	5	45
循環器内科		3	0	0
消化器内科		22	23	60
血液内科		1	0	11
神経内科		0	0	2
外科		10	19	28
神経外科		0	0	1
整形外科		2	0	2
産婦人科		13	12	15
形成外科		1	2	2
泌尿器科		6	3	10
耳鼻咽喉科		2	1	3
精神科		2	0	0
総合診療科		1	0	0
合計		73	66	179
非がん4例含む				
往診患者依頼主訴				
疼痛		47	34	50
疼痛以外の身体症状		27	16	19
精神症状		11	9	16
その他		2	7	135

(文責／緩和支援治療科 主任部長 木村 陽)

救急科

患者数実績		令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ入院患者数	年間	347 (うち集中治療室入室172)	419 (うち集中治療室入室314)	677 (うち集中治療室入室303)
	1日平均	0.97	1.15	0.83
外来患者数	年間	5,383	4,990	5,466
	1日平均	14.75	13.67	14.97
救急車 (うち3次救急)		2768 (667)	1653 (406)	2,337 (237)
	Walk in	2615	3337	3,129
入院加療を行った疾患 (重複あり)				
心肺停止蘇生後		27	43	33
呼吸不全		56	59	77
うち重症 Covid-19		12	12	9
ショック		71	89	105
うち敗血症		51	47	54
外傷		105	86	165
うち交通外傷		38	24	37
中毒		35	44	45
治療 (重複あり)				
人工呼吸管理		76	110	101
うち腹臥位療法		17	15	13
ECMO		9	17	18
人工透析		42	44	37
気管切開		18	12	10

令和6年度は、専従医6名の体制で救急診療および重症患者管理にあたっています。入院患者数はさらに増加しており、救急患者の入院管理に加えて、他科が担当する疾患についても一時的に入院を受け入れる体制を拡大しています。今後も救急診療を通じて、十勝地域の住民の健康に貢献していく所存です。

(文責/救急科 主任部長 加藤 航平)

病理診断科

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病理組織検査総数	6,000	5,934	5,825
消化器科	1,297	1,466	1,064
産婦人科	1,063	939	925
外科	818	745	904
形成外科	478	611	647
泌尿器科	656	555	589
耳鼻咽喉科	308	270	382
呼吸器科	307	332	319
皮膚科	296	153	148
血液内科	379	434	426
放射線科	158	162	147
脳神経外科	91	93	100
整形外科	48	72	52
心臓血管外科	40	34	20
その他	47	41	66
院外	14	27	36
細胞診検査総数	14,450	13,363	13,368
産婦人科	8,437	7,346	7,117
健康管理科	3,602	3,567	3,541
呼吸器科	479	473	497
泌尿器科	1,170	1,138	1,407
放射線科	142	129	163
外科	96	69	91
消化器科	188	181	157
神経内科	150	234	200
血液内科	42	74	48
耳鼻咽喉科	6	5	3
循環器科	14	16	22
総合診療科	12	5	7
眼科	0	0	0
その他	19	21	34
院外	93	105	81
術中迅速検査	227	195	191
術中迅速細胞診検査	6	15	37
剖検総数	6	5	5
呼吸器科	2	1	1
循環器科	0	0	0
消化器科	0	1	0
血液内科	1	2	2
外科	0	0	0
整形外科	0	0	0
神経内科	2	0	1
脳神経外科	0	0	0
泌尿器科	0	0	0
小児科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
心臓血管外科	1	0	0
耳鼻咽喉科	0	1	0
救急科	0	0	1
院外	0	0	0

昨年度と比較して、病理組織検査総数がやや減少したが、その他は概ね同様の件数だった。

看護部

看護部：2024年度年報：専門看護師・認定看護師

I. 定義

1. 専門看護師（Certified Nurse Specialist：CNS）とは

日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、ある特定の専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいう。

《専門看護師の役割》

実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を果たす。

2. 認定看護師（Certified Nurse：CN）とは

ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する者として、日本看護協会の認定を受けた看護師をいう。

《認定看護師の役割》

実践・指導・相談の3つの役割を果たす

3. 認定看護管理者（Certified Nurse Administrator）とは

日本看護協会の認定看護管理者認定審査に合格し、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有すると認められた者をいう。

II. 専門・認定看護師の活動について

1. 専門・認定看護師活動部会（スペシャリスト活動部会）の目的

- 1) 専門・認定看護師が、各専門性を活かし院内外の活動を実践し、看護の質向上に寄与する。
- 2) 専門・認定看護師として、活動できるよう相互にサポートし、それぞれが抱える問題の検討や知識技術を補完しあう。

2. 活動内容

1) 看護フェア（WEB開催）：十勝管内の医療・介護・福祉従事者を対象

- ・11月19日 テーマ：「高齢者への専門性のある看護を学んでみよう」
- ・参加数：43名（職種：看護師・准看護師・薬剤師）

2) 院内看護技術体験研修会：

- ・6月13日・18日 新人看護師対象（参加人数44人）
【内容】フィジカルアセスメント・ポジショニング・環境整備
- ・10月1日 3年以上の経験ある看護師対象（参加人数8人）
【内容】フィジカルアセスメント・小型シリンジポンプ取り扱い・麻薬量計算方法・抗がん剤投与時の末梢血管の選択について

3) CNS/CN ガイダンス：

- ・10月18日 開催
【内容】専門・認定看護師に期待すること、厚生連の支援体制、専門・認定、特定行為に係る看護師への道のり、専門・認定看護師の体験談、情報交換
- ・参加数：看護師9人、看護学生12人、看護学校教員4名（合計25名）

2. 個人活動報告

1) 実践

分野	氏名	活動内容
慢性疾患看護専門看護師	伊藤 史	<p>実践件数：計79件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器ケア看護外来 41件 ・退院支援・退院前カンファレンス 30件 ・患者カンファレンス 8件 <p>委員会在籍：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会 ・看護研究支援部会 <p>その他：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護研究支援（院外発表）2件
がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	小田島 綾子	<p>実践件数：計1,157件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん看護外来 93件 ・カンファレンス 78件 ・緩和ケア外来 253件 <p>チーム活動：計826件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームコンサルテーション 826件 ・緩和ケアチームラウンド100件（メンバーと共に）、225件（単独） <p>委員会在籍：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会 ・緩和ケア部会 ・緩和ケアリンクスタッフ会
感染症看護専門看護師 感染管理認定看護師	原 理加	<p>実践件数：計736件（総件数を記入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液培養陽性者カンファレンス（平日毎日）355件 ・ASTカンファレンス（1回/週）284件 ・ICTラウンド（1回/週+臨時）89件（2024.1-12集計） ・保健所からの依頼にて中札内施設ラウンド（O-157関連） ・とかちICTネットワーク会議（3施設）3件 ・地域連携カンファレンス（20施設）4件 <p>チーム活動：計98件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT（Infection Control team）49件 ・AST（Antimicrobial Stewardship Team）49件 <p>委員会在籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT委員会 12件 ・スペシャリスト活動部会 ・感染リンクスタッフ会議 12件
皮膚・排泄ケア認定看護師	大 椋 友 美	<p>実践件数：計1,114件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキンケア外来 35件 ・ストーマ外来 377件 ・病棟及び外来での創傷関連の実践件数 702件 <p>チーム活動：計153件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟褥瘡回診 153件 <p>委員会在籍：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療の質マネジメント委員会 ・褥瘡予防対策部会（事務局） ・NSTコア部会 ・スペシャリスト活動部会 <p>その他：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防対策リンクナース会議（事務局）

分野	氏名	活動内容
摂食嚥下障害看護認定看護師	河本友香	<p>実践件数：計327件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護外来（飲み込み・口腔ケア）13件 ・口腔ケアラウンド 220件 ・嚥下機能評価 28件 ・食支援 57件 ・嚥下訓練 9件 <p>チーム活動：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミールラウンドラウンド（2回/週） <p>委員会在籍：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NST コア部会 ・スペシャリスト活動部会 ・ホームページ作成部会 <p>その他：計26件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定行為の実践 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 15件 ・気管カニューレ交換 11件
集中ケア認定看護師	須永弘美	<p>実践件数：計30件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CCOT ラウンド 30件 <p>チーム活動：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸ケアチーム <p>委員会在籍：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸管理チーム部会 ・スペシャリスト活動部会
集中ケア認定看護師	加治ますみ	<p>実践件数：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種カンファレンス（倫理検討事例/3北病棟） <p>委員会在籍：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会
乳がん看護認定看護師	太田美幸	<p>実践件数：計448件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん看護外来 145件 ・カンファレンス 118件 ・乳がん看護認定看護師院内ラウンド 16件 ・リンパ浮腫外来 169件 <p>委員会在籍：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会 ・緩和ケアリンクナース会 ・キャンサーボード部会
乳がん看護認定看護師	河合美紀	<p>実践件数：計23件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科カンファレンス 10件 ・意思決定支援 23件 ・リンパ浮腫予防指導 2件 <p>委員会在籍：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会
がん性疼痛看護認定看護師	黒川文吾	<p>実践件数：計101件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん性疼痛看護外来 35件 ・がん性疼痛ラウンド 66件（個人） <p>チーム活動：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチーム <p>委員会在籍：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会

分野	氏名	活動内容
がん化学療法看護認定看護師	尾谷 優子	<p>実践件数：計34件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法看護外来 18件 ・がん化学療法看護認定看護師院内ラウンド 16件 <p>チーム活動：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・irAE チーム <p>委員会在籍：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学療法委員会 ・レジメン小委員会 ・スペシャリスト活動部会 ・緩和ケアリンクナース会
がん化学療法看護認定看護師	西川 真紀	<p>委員会在籍：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャリスト活動部会
認知症看護認定看護師	和淵 ゆかり	<p>実践件数：計1,971件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症看護外来 2件 ・精神科リエゾンカンファレンス 1,096件 ・身体拘束最小化ラウンド 873件 <p>チーム活動：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科リエゾンチーム ・身体拘束最小化ワーキンググループ（チーム立ち上げ準備） <p>委員会在籍：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止小委員会 ・スペシャリスト活動部会 ・医療保護入院者退院支援委員会／精神科身体拘束最小化委員会
手術看護認定看護師	佐伯 猛	<p>実践件数：計160件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術前看護外来 160件 <p>チーム活動：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術室災害小集団チーム（12/27手術室災害訓練企画・実施） ・手術室臓器提供小集団チーム（12/27臓器摘出手術準備シミュレーション企画・実施） <p>委員会在籍：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臓器提供検討委員会 ・手術室運営委員会（拡大含む） ・手術室適正使用小委員会 ・スペシャリスト活動部会
新生児集中ケア	佐藤 ゆかり	<p>チーム活動：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習班チーム <p>委員会在籍：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防対策リンクナース ・スペシャリスト活動部会

2) 教 育

分野	氏名	活動内容
慢性疾患看護専門看護師	伊藤 史	<p>院内：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター）2件 ・スペシャリストナビ「専門看護師」（講師）1件 ・がん患者サロン「ACPは対話のプロセスです」（講師）1件 ・看護研究セミナー（企画・運営）1件

分野	氏名	活動内容
		<p>院外（十勝圏内）：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア「高齢者と慢性病のはなし」（講師） ・小規模施設間交流研修「慢性病を持つ人への在宅療養支援～暮らしを見るコツを学ぶ」（講師） ・大谷短期大学看護学科2学年講義（講師）2件 ・北海道緩和ケア研修（ファシリテーター） <p>院外（十勝圏外）：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川医科大学医学部看護学科第2学年講義（講師） ・慢性疾患看護専門看護師研究会事例検討会（企画・司会）3件
がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	小田島 綾子	<p>院内：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター）2件 ・第7回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育研修（企画責任者・講師・ファシリテーター） ・9南病棟学習会臨床倫理（講師） ・9南学習会 IPOS（講師） <p>院外（十勝圏内）：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（講師） ・帯広高等看護学校（講師） ・帯广大谷短期大学（講師） ・令和6年度NST 専門療法士実地修練カリキュラム（講師） ・小規模施設間交流研修（講師）
感染症看護専門看護師 感染管理認定看護師	原 理加	<p>院内：計26件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター）2件 ・コメディカル新入職員オリエンテーション（講師） ・中途採用者オリエンテーション（講師）7件 ・新入医師オリエンテーション ・新任科長・係長オリエンテーション（講師） ・NST 専門療法士臨床実地修練（講師）2件 ・ICT 研修会（講師） ・看護研究部会看護研究研修（講師） ・ラダーⅢ 看護研究（講師） ・ラダーⅣ 看護研究（講師） ・感染リンクスタッフ会議ミニレクチャー8件 <p>院外（十勝圏内）：計8件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（講師） ・帯広高等看護学院 講義（講師）4件 ・出張出前講座 帯広記念病院、高齢者施設（講師）2件 ・帯広保健所主催感染症予防研修会（ファシリテーター） <p>院外（十勝圏外）：計10件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摩周厚生病院及び特養摩周ラウンドと学習会（講師）各2件 ・滝上リハビリテーションセンターラウンド及び学習会 ・市立釧路総合病院院内感染対策研修会（講師） ・北海道医療大学認定看護師研修センター講義（講師）2件 ・北海道医療大学大学院看護福祉学研究科感染看護専攻実習生2名 臨地実習4単位（実習指導） ・釧路市医師会看護専門学校特別講演（講師） ・第55回日本看護学会学術集会（座長）
皮膚・排泄ケア認定看護師	大 椋 友 美	<p>院内：計17件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（司会・ファシリテーター）2件 ・新任看護職員研修「スキンケア・褥瘡予防対策について」（講師）

分野	氏名	活動内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・中途採用者看護職員研修「スキンケア・褥瘡予防対策」(講師) 7件 ・医療安全学習会「皮膚損傷事例と褥瘡予防」(講師) ・NST 専門療法士臨床実地修練(講師) 2件 ・7北病棟学習会(講師) ・新任科長・係長オリエンテーション(講師) ・介護福祉士部会研修会「皮膚の観察/皮膚障害及び褥瘡予防」(講師) 2件 <p>院外(十勝圏内):計19件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア(司会・講師) ・出前講座 特別養護老人ホーム太陽園「褥瘡ケア」(講師) ・出前講座 音更病院「高齢者のスキンケア」(講師) ・出前講座 広尾国保病院「ストーマケア」(講師) ・小規模施設間交流研修「褥瘡予防とスキンケア」(講師) ・看護学校(帯広高等看護学院・帯広医師会看護専門学校・帯広大谷短期大学)非常勤講師12件 ・エンボックル(講師) ・花王プロフェッショナルセミナー「IADの予防とケア」(講師) <p>院外(十勝圏外):計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摩周厚生病院及び特養摩周ラウンドと学習会 各2件 ・弟子屈町老人ホーム倅和園 学習会
摂食嚥下障害看護認定看護師	河本友香	<p>院内:計14件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人看護職員オリエンテーション(食事援助・口腔ケア)(講師) ・院内看護技術体験研修(ファシリテーター) 2件 ・NST 専門療法士臨床実地修練(講師) 2件 ・NST コア部会 研修医セミナー(講師) 1件 ・中途採用者オリエンテーション(講師) 6件 ・介護福祉士研修(講師) 2件 <p>院外(十勝圏内):計11件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア(司会・講師) 1件 ・出張出前講座(講師) 市民向け(老人クラブ) 2件 ・出張出前講座 病院・施設向け(音更病院・第一病院)(講師) 2件 ・小規模施設間交流研修(講師) 1件 ・帯広高等看護学院 基礎看護技術 講義(講師) 2件 ・帯広市医師会看護専門学校 講義(講師) 1件 ・花王プロフェッショナルセミナー(講師) 1件 ・摂食嚥下障害看護認定看護師の活動見学 1件 <p>院外(十勝圏外):計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害看護研修 倶知安厚生病院(講師) 1件 ・新人看護職員研修(食事援助・口腔ケア) 遠軽厚生病院(講師) 1件 ・摩周厚生病院 特養摩周 学習会(講師) 1件 ・旭川厚生看護専門学校 老年看護学援助論(食事)(講師) 1件 ・摂食嚥下障害看護認定看護師の活動見学 1件
集中ケア認定看護師	須永弘美	<p>院内:計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修(ファシリテーター) 2件 ・新入職員オリエンテーション(講師)

分野	氏名	活動内容
		<p>院外（十勝圏内）：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア ・小規模施設間交流研修（講師）：「人工呼吸器の基礎」 ・帯広高等看護学校：フィジカルアセスメント演習 <p>院外（十勝圏外）：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠軽厚生病院新人看護研修（講師）：フィジカルアセスメント
集中ケア認定看護師	加 治 ますみ	<p>院内：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3北病棟：人工呼吸器装着中の看護、動脈ライン、清潔ケア ・6南病棟：酸素療法（高流量）、人工呼吸器装着中の看護（講師） <p>院外（十勝圏内）：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（講師） ・小規模施設間交流研修（講師）
乳がん看護認定看護師	太 田 美 幸	<p>院内：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター）2件 ・ラダー1パート8タッチング研修（講義・演習）1件 ・プレスト・アウェアネス学習会（講師）1件 <p>院外（十勝圏内）：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（司会・講師） ・出張出前講座（講師） ・小規模施設間交流研修（講師） ・ELNEC-J研修（講師・ファシリテーター） ・帯広市医会看護高等学校講義（講師） <p>院外（十勝圏外）：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道乳がん看護研究会（講師）
がん性疼痛看護認定看護師	黒 川 文 吾	<p>院内：計8件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（司会・ファシリテーター）2件 ・ELNEC-J研修（講師）1件 ・病棟学習会（講師）5件 <p>院外（十勝圏内）：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（司会・講師） ・小規模施設間交流研修（講師） ・帯広高等看護学院 講義（講師）
がん化学療法看護認定看護師	尾 谷 優 子	<p>院内：計7件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター・講師）2件 ・新入職員研修（講師） ・オンライン がんサロン エンボックル（講師） ・中央治療 学習会（講師）3件 <p>院外（十勝圏内）：計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（講師） ・小規模施設間交流研修（講師） ・帯広高等看護学院 講義（講師） ・大腸がん治療セミナー in OBIHIRO（講師）
がん化学療法看護認定看護師	西 川 真 紀	<p>院内：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター） ・病棟化学療法学習会（講師）2件 <p>院外（十勝圏内）：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（講師） ・ELNEC研修（ファシリテーター）

分野	氏名	活動内容
認知症看護認定看護師	和 淵 ゆかり	<p>院内：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人看護職員研修パートI 講義 講師 ・院内看護技術研修（司会・ファシリテーター） ・J A北海道厚生連看護師会看護職員技交流研修会（ファシリテーター） <p>院外（十勝圏内）：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯広高等看護学院（講師） ・看護フェア1件（講師） ・出張出前講座（講師）2件 ・小規模施設間交流研修（講師）
手術看護認定看護師	佐 伯 猛	<p>院内：計11件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内看護技術研修（ファシリテーター）2件 ・術後訪問学習会（講師） ・中央材料室管理学習会（講師） ・手術室臓器提供学習会（講師） ・手術室臓器摘出手術準備アクションカード学習会（講師） ・手術室新人・異動者オリエンテーション（講師）3件 ・初期研修医事前オリエンテーション ・臨床工学技士器械出し業務研修（講師） <p>院外（十勝圏内）：計7件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護フェア（講師） ・帯広協会病院手術看護研修（講師） ・帯広市医師会看護専門学校「成人看護学方法論Ⅴ周術期看護」（講師）5件 <p>院外（十勝圏外）：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回日本手術看護学会年次大会（教育セミナー企画・司会）
新生児集中ケア	佐 藤 ゆかり	<p>院内：計7件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術研修（ファシリテーター） ・新生児蘇生法講習会（インストラクター）6件 <p>院外（十勝圏内）：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模施設間交流研修（講師） 「少し気になる新生児の所見*正常からの逸脱を見抜く*」 ・帯広高等看護学院第54期生講義 小児看護学Ⅱ（講師）

3) 相 談

分野	氏名	活動内容
慢性疾患看護専門看護師	伊 藤 史	<p>相談：計5件（院内：外来2件／病棟3件 院外：3件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅移行支援、ACPに関すること
がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	小田島 綾 子	<p>相談：緩和ケアチーム計179件（院内：病棟179件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛、疼痛以外の身体的苦痛症状、精神的苦痛症状等への対応
感染症看護専門看護師 感染管理認定看護師	原 理 加	<p>相談：計820件（院内：757件 院外：63件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内外ともに感染症の感染対策の実施方法、実施期間に関するものが多くみられる。
皮膚・排泄ケア認定看護師	大 椋 友 美	<p>相談：計393件（院内：外来 件／病棟 件 院外： 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷及び褥瘡、ストーマ、失禁関連皮膚炎や瘻孔管理に関する相談

分野	氏名	活動内容
摂食嚥下障害看護認定看護師	河本友香	相談：計108件（院内：外来9件／病棟97件院外2件） 院内： 外来（食事形態について4件／嚥下機能評価2件／口腔ケア3件） 病棟（嚥下機能評価8件／口腔ケア57件／食支援13件特定行為関連19件） 院外：摂食嚥下障害看護認定看護師の活動について 2件
集中ケア認定看護師	須永弘美	相談：計5件（院内：外来5件） ・マスクフィッティング、呼吸器設定について、人工呼吸器装着患者の看護について
集中ケア認定看護師	加治ますみ	相談：計1件（院内：外来0件／病棟1件 院外：0件） ・NPPV装着中の看護（8南病棟）
乳がん看護認定看護師	太田美幸	相談：計53件（院内：外来24件／病棟27件 院外：2件） ・自壊創ケアに関すること、むくみに関すること、アピアランスケア
乳がん看護認定看護師	河合美紀	相談：計0件（院内：外来 件／病棟 件 院外： 件）
がん性疼痛看護認定看護師	黒川文吾	相談：計39件（院内：外来3件／病棟36件 院外：0件） ・疼痛コントロール、薬剤使用方法、PCAポンプなどの機器取り扱いに関する相談
がん化学療法看護認定看護師	尾谷優子	相談：計34件（院内：外来22件／病棟10件 院外：2件） ・レジメンについて、投与経路について、副作用症状について、アイスグローブの使い方、アピアランスケア *相談内容を簡潔に記載
がん化学療法看護認定看護師	西川真紀	相談：計50件（院内：病棟50件） ・主に8北病棟スタッフから投与管理に関する相談、他病棟からの投与管理に関する相談も1件あり
認知症看護	和淵ゆかり	相談：計25件（院内：外来1件／病棟24件） ・精神科受診について、身体拘束カンファレンス、ケースワーク（認知症独居高齢者）、高齢者虐待、介護保険について、離院しそうなケース
手術看護認定看護師	佐伯猛	相談：計81件（院内：外来6件／病棟48件 院外：27件） ・術後皮膚、神経トラブル ・術前準備に関すること ・中材管理について・周術期の入院前について ・カンファレンス ・手術室の感染管理関係 ・手術室医療安全関係 ・移植医療について

4) 研究・研鑽

分野	氏名	活動内容
慢性疾患看護専門看護師	伊藤史	研究活動：計1件（共同1件） ・北海道農村医学会「A病院における専門看護師・認定看護師の地域連携に関する実態調査」 研修参加：計1件 ・北海道専門看護師の会慢性疾患看護領域学習会 学会参加：計4件 ・第18回日本慢性看護学会学術集会 ・第59、60、61回慢性疾患看護専門看護師研究会

分野	氏名	活動内容
がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	小田島 綾子	<p><u>研究活動：計1件（発表1件）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第74回北海道農村医学会「A病院における専門看護師、認定看護師の地域連携に関する実態調査」（発表） <p><u>研修参加：計4件</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修：がん患者の意思決定支援に必要ながんゲノムの知識 ・研修：がんゲノム医療コーディネーター研修会 ・学習会：第3回ふくろう cafe ・セミナー：十勝地域のがん患者さん支援の充実に向けたセミナー2024 <p><u>学会参加：計5件</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29回日本緩和医療学会学術集会 ・第39回日本がん看護学会学術集会 ・第74回北海道農村医学会 ・第47回日本死の臨床研究会年次大会 ・日本認知症の人の緩和ケア学会
感染症看護専門看護師 感染管理認定看護師	原 理加	<p><u>研究活動：計4件（発表1件／共同3件）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第39回日本環境感染学会学術集会「当院におけるMRSA検出の現状と課題」発表 ・第39回日本環境感染学会学術集会 2演題（共同） ・第74回北海道農村医学会「A病院における専門看護師、認定看護師の地域連携に関する実態調査」（共同） <p>※第40回日本環境感染学会学術集会「当院における血液培養陽性患者の中間報告時での介入についての検討」抄録提出→演題採択（令和7年発表予定）</p> <p><u>研修参加：計12件</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川感染セミナー ・札幌医科大学医療教育支援センターオンラインセミナー 5件 ・COVID-19に関するオンラインセミナー 2件 ・インフルエンザに関するオンラインセミナー ・臨床微生物学会ウェビナー適切な血液培養の在り方を考える ・感染症 Up to Date（4学会合同オンラインセミナー） ・北海道感染症セミナー <p><u>学会参加：計3件</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道農村医学会 ・第39回日本環境感染学会学術集会 ・第55回日本看護学会学術集会 <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会看護学会誌 査読 原著論文 2題 査読
皮膚・排泄ケア認定看護師	大 椋 友 美	<p><u>研究活動：計1件（共同1件）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道ストーマリハビリテーション研究会学術集会「術後に腹壁変化に対する装具選択に難渋した1事例」（共同） <p><u>研修参加：計3件</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ストーマ アクセサリーの基本と合併症の予防」WEB研修 ・「終末期の褥瘡～チームでかかわる褥瘡対策」WEB研修 ・ダンサックセミナー「ストーマケア」東京現地参加

分野	氏名	活動内容
		<p>学会参加：計6件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 ・日本褥瘡学会学術集会 ・北海道農村学会 ・北海道ストーマリハビリテーション研究会学術集会 ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 ・日本褥瘡学会 北海道地方会学術集会
摂食嚥下障害看護認定看護師	河本友香	<p>学会参加：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会 学術集会 ・日本嚥下医学会 学術集会
集中ケア認定看護師	須永弘美	<p>研究活動：計1件（発表1件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回日本集中治療医学会北海道地方会 シンポジウム「PICS看護について」 <p>研修参加：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海RST協会のセミナー ・第39回神奈川呼吸療法カンファレンス ・第12回実践呼吸療法セミナー <p>学会参加：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本集中治療医学会学術集会学会 ・日本クリティカルケア看護学会
集中ケア認定看護師	加治ますみ	<p>研究活動：計1件（発表1件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回日本集中治療医学会北海道地方会 シンポジウム「働き方改革」（発表） <p>研修参加：計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修：認定看護師を対象としたキャリアアップ研修会 ・セミナー：集中ケア認定看護師会主催～口腔ケア <p>学会参加：計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会：第8回日本集中医学会北海道地方会
乳がん看護認定看護師	太田美幸	<p>研修参加：計43件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回AYA世代がんサポート研修会 ・がん相談支援センター相談員基礎研修（3） ・日本がん相談研究会研修 ・第39回札幌冬季がんセミナー ・日本乳癌学会教育セミナー、プレミーティング ・がん相談関連セミナー 3件 ・HBOC、ゲノム関連セミナー 7件 ・第4回家族性膵癌サミット ・アピランス・妊孕性関連セミナー 5件 ・乳がん治療関連（製薬会社）セミナー 18件 ・自殺予防関連 2件 ・十勝女性患者の会 ピンクリボン講演会 <p>学会参加：計5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第32回日本乳癌学会学術総会 ・日本乳癌学会北海道地方会 ・第4回JOHBOC学術総会（WEB） ・がんサポーターケア学会 in 京都（WEB） ・Best of SABCS 2024 in Kyoto（WEB）
乳がん看護認定看護師	河合美紀	<p>学会参加：計3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本乳がん看護研究会 ・日本がん看護学会 ・日本乳癌学会北海道地方会

分野	氏名	活動内容
がん化学療法看護認定看護師	尾谷 優子	研修参加：計17件 ・2024年アピアランスケア e-learning 研修（国がん） ・化学療法関連（製薬会社）セミナー16件 学会参加：計2件 ・第39回日本がん看護学会学術集会（WEB） ・第4回 JOHBOC 学術総会（WEB）
がん化学療法看護	西川 真紀	学会参加：計2件 ・リンパ網内学会 ・がん治療学会
認知症看護認定看護師	和淵 ゆかり	研修参加：計2件 ・看護師のための不眠診療 WEB セミナー-in 道東（Web） 2件 学会参加：計1件 ・精神科看護学会（Web）
手術看護認定看護師	佐伯 猛	研究活動：計2件（発表1件／共同1件） ・第74回北海道農村医学会「当院における術前看護外来に対する術後訪問での患者評価」（発表） ・第74回北海道農村医学会「A病院における専門看護師、認定看護師の地域連携に関する実態調査」（共同） 研修参加：計1件 ・高感度脳波ハンズオンセミナー 学会参加：計2件 ・第38回日本手術看護学会年次大会 ・第74回北海道農村医学会
新生児集中ケア	佐藤 ゆかり	研修参加：計2件 ・北海道新生児集中ケア認定看護師会 2件 学会参加：計3件 ・第74回北海道農村医学会 ・第33回新生児看護学会 ・第60回日本周産期新生児医学会学術集会

5) 社会活動

分野	氏名	活動内容
慢性疾患看護専門看護師	伊藤 史	社会活動：計3件 ・スペナビ ・日本慢性看護学会評議員 ・慢性疾患看護専門看護師研究会副会長
がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	小田島 綾子	社会活動：計2件 ・スペナビ ・帯広厚生病院医誌「総合病院に所属する専門看護師、認定看護師の地域連携に関する実態調査」（執筆）
感染症看護専門看護師 感染管理認定看護師	原 理加	社会活動：計4件 ・スペナビ ・日本看護協会看護学会誌査読委員 ・北海道医療大学大学院非常勤講師 ・釧路工業高等専門学校感染症対策に関するアドバイザー委託
皮膚・排泄ケア認定看護師	大椋 友美	社会活動：計1件 ・スペナビ

分野	氏名	活動内容
摂食嚥下障害看護認定看護師	河本友香	社会活動：計2件 ・スペナビ ・日本摂食嚥下障害看護研修会 委員
乳がん看護	太田美幸	社会活動：計2件 ・スペナビ
乳がん看護	河合美紀	社会活動：計1件 ・スペナビ
がん性疼痛看護	黒川文吾	社会活動：計1件 ・スペナビ
がん化学療法看護	尾谷優子	社会活動：計1件 ・スペナビ
がん化学療法看護	西川真紀	社会活動：計1件 ・スペナビ
手術看護	佐伯 猛	社会活動：計7件 ・第38回日本手術看護学会年次大会（研究査読） ・麻酔領域におけるタスクシフトセミナー（企画・実施） ・北海道移植医療推進財団主催 院内コーディネーター進捗報告会（講師） ・帯広厚生病院医誌執筆「当院における術前看護外来に対する術後訪問での患者評価」（執筆） ・北海道移植医療推進財団コアメンバー ・北海道移植医療推進財団道東支部会委員 ・帯広厚生病院中学生看護師体験（手術室）
新生児集中ケア	佐藤 ゆかり	社会活動：計1件 ・スペナビ

4. 研修受講実績

1) 認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）

令和6年度	合計
5名	41名

2) 認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）

令和6年度	合計
2名	12名

3) 認定看護管理者教育課程（サードレベル）

令和6年度	合計
1名	2名

4) 保健師助産師看護師実習指導者講習会

令和6年度	合計
2名	34名

（文責／看護部長 小野 悦子）

薬剤部

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
処方箋枚数			
外 来	191,484	185,544	174,313
1日平均	784	761	704
入 院	105,349	114,454	112,783
1日平均	288	313	309
薬剤情報提供			
合 計	147,012	143,258	136,830
月平均	12,251	11,938	11,403
お薬手帳記載			
合 計	82,473	84,260	83,524
月平均	6,873	7,022	6,960
薬剤管理指導			
合 計	3,944	5,137	6,739
月平均	329	428	562
麻薬管理指導			
合 計	298	432	620
月平均	25	36	52
退院時服薬指導			
合 計	693	1,239	1,445
月平均	58	103	120
TPN調製			
合 計	204	128	53
月平均	17	11	4
抗悪性腫瘍剤調製			
合 計	15,459	17,072	16,264
月平均	1,288	1,423	1,355
術前面談数			
合 計	135	141	132
月平均	11.2	11.8	11.0

薬剤管理指導業務以外は僅かながらに減少しました。お薬手帳記載件数の減少は電カル更新の影響を受けていますが、下半期以降は前年度比100%を超えており、利用した服薬管理に継続して取り組んだ成果が表れてると言えます。昨年度より病棟薬剤師1名を専従化したことで、薬剤管理指導、麻薬管理指導、退院時服薬指導といずれも増加しており、入院から退院までの業務の継続性が維持され、病棟拡大の成果も表れています。医療の質の向上や安全な医療の提供に貢献できた1年と考えています。

(文責/薬局長 鈴木 千波)

放射線技術科

		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		外来件数	入院件数	外来件数	入院件数	外来件数	入院件数
画像診断							
X線検査	単純撮影	61,168	34,213	62,909	35,459	62,476	34,856
	乳房撮影	1,036	12	1,021	7	941	4
	ポータブル撮影(再掲)	861	17,898	956	16,747	839	16,846
	特殊撮影	120	3	97	4	74	7
核医学検査	RI・SPECT	695	535	622	628	628	559
	PET-CT	1,141	37	1,128	37	1,117	23
CT検査	単純	11,184	3,918	11,167	4,150	11,310	4,062
	造影	10,281	2,034	10,497	2,328	9,875	2,132
MRI検査	単純	7,626	2,819	7,452	2,967	7,904	3,138
	造影	2,306	509	2,390	539	2,315	518
造影・透視							
X線TV	検査	3	33	2	62	1	32
	手術	243	351	194	365	166	388
	画像診断	657	689	587	766	492	735
血管造影	検査	21	281	21	272	14	209
	手術	546	944	604	1,116	550	1,081
	画像診断	32	449	16	460	26	464
検査							
超音波検査	胸腹部(単純)	2,987	560	3,222	692	2,568	583
	胸腹部(造影)	51	8	94	10	77	3
	その他(乳腺、表在、他)	5,653	1,187	5,676	1,552	5,394	1,472
	心臓超音波	3,248	1,948	3,440	2,064	3,203	2,027
	パルスドプラー加算	972	1,075	1,327	1,409	1,214	1,360
骨塩定量	D E X A法(腰椎)	1,039	138	1,074	246	1,039	202
	大腿骨同時加算	950	121	974	222	955	182
	その他	1	1	4	0	0	2
内視鏡検査	X線TV室	46	62	42	69	30	50
その他		635	119	457	166	395	121

放射線治療							
体外照射	リニアック	6,148	2,303	5,674	2,089	6,247	3,145

人間ドック・健診							
単純撮影	胸部	16,227		16,338		16,361	
	乳房撮影	3,820		3,842		3,788	
造影検査	胃部	12,573		12,085		11,588	
	腹部	14,178		14,446		14,495	
超音波検査	頸動脈	1,471		1,602		1,601	
	脂肪肝ドック						
骨塩定量	その他(前腕)	1,533		1,515		1,486	
P E T - C T	撮影	186		115		111	
CT撮影	肺ドック	573		561		603	
	脂肪肝ドック	5		72			
M R I	撮影	1,365		1,328		1,368	
巡回検診							
単純撮影	胸部	7,736		7,705		8,009	
造影撮影	胃部	2,999		2,927		2,853	
骨塩定量	その他(前腕)	753		533		0	

令和6年度は、診療放射線技師44名、医療助手6名にて業務を実施した。CT造影検査件数は前年比94.1%と減少、US検査件数は腹部、表在、心臓の全ての領域で減少となる。一方、放射線治療は外来110.1%、入院150.6%と増加し好調であった。

核医学検査の入院SPECT件数は前年比89.0%に減少しており、次年度の課題となった。

学術活動は例年通り各種学会にて研究発表や講師などに積極的に取り組んだ。資格取得についても放射線治療専門技師や第一種作業環境測定士、胃がん検診専門技師などを取得した。また学生実習は2大学から4名の学生を受け入れ指導を行った。

(文責/放射線技術科 技師長 中村 俊一)

臨床検査技術科

(単位：件)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
臨床検査分野別			
尿検査	158,397	160,907	154,433
糞便検査	1,519	1,480	1,334
穿刺液・採取液	2,423	2,116	2,056
免疫学的検査	555,512	598,938	567,691
生化学的検査（Ⅰ）	2,930,059	3,058,782	2,964,805
生化学的検査（Ⅱ）	200,885	200,670	184,820
免疫学的検査	300,688	315,195	300,422
微生物学的検査	91,847	74,731	70,336
病理学的検査	31,134	28,332	27,655
負荷試験	183	128	229
生理学的検査	32,966	33,943	31,474
その他			
人間ドック（検体検査）	450,680	416,176	424,235
人間ドック（生理検査）	53,721	50,202	52,608
巡回ドック（検体検査）	122,948	122,773	125,123
巡回ドック（生理検査）	7,119	7,077	7,086
事業所健診	23,051	16,875	17,203
その他の検診	211,787	160,089	141,165
受託検査	426	271	272

臨床検査技師37名、医療助手5名の要員体制にて各種検査業務・外来採血業務などに従事した。検査実績は、健診業務以外の殆どの分野において前年度実績と比較すると減少傾向を示す実績となった。外部審査では、臨床検査の国際規格ISO15189のサーベイランスと合わせて最新版への移行審査も受審し認定を受けた。今後も検体検査・病理検査・生理検査の各検査領域におけるQMSや検査技術の品質向上を目標に活動を取り進める予定である。学術関連では、日本臨床衛生検査技師会の認定心電検査技師の資格を1名が取得した。また、学会関連では日臨技北日本支部検査学会に2名、日本臨床細胞学会秋期大会に1名、北海道医学検査学会に2名が演題発表を行った。

(文責／臨床検査技術科 技師長 菅原 昌章)

令和6年度 診療科別血液製剤・アルブミン製剤使用状況

	赤血球製剤 (単位)	自己血 (単位)	血漿製剤 (単位)	血小板製剤 (単位)	アルブミン製剤(g)		FFP/RBC比 (0.54未満)	ALB/RBC比 (2.0未満)
					等張	高張		
呼吸器内科	314	0	4	175	0.0	0.0	0.01	0.0
循環器内科	292	0	292	110	837.5	1000.0	0.55	1.1
消化器内科	1184	0	130	245	0.0	1250.0	0.08	0.4
血液内科	2858	0	726	13275	0.0	487.5	0.15	0.1
神経内科	56	0	200	130	6237.5	375.0	1.93	2.2
小児科	45	0	11	90	262.5	750.0	0.24	5.7
外科	596	0	56	185	500.0	650.0	0.09	0.6
心臓血管外科	252	110	232	455	50.0	637.5	0.64	0.6
整形外科	760	82	62	100	25.0	62.5	0.07	0.0
脳神経外科	218	0	32	40	0.0	187.5	0.15	0.3
産婦人科	546	42	138	260	237.5	362.5	0.23	0.3
眼科	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00	0.0
泌尿器科	134	0	18	110	0.0	62.5	0.13	0.2
耳鼻咽喉科	94	0	72	95	37.5	925.0	0.76	3.2
形成外科	98	0	10	55	37.5	25.0	0.10	0.2
皮膚科	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00	0.0
精神科	6	0	0	0	0.0	0.0	0.00	0.0
麻酔科	386	0	396	390	37.5	250.0	1.00	0.2
放射線科	4	0	2	0	0.0	0.0	0.50	0.0
総合診療科	74	0	4	85	0.0	0.0	0.05	0.0
緩和支援科	26	0	0	0	0.0	37.5	0.00	0.5
救急科	736	0	1094	370	87.5	25.0	1.28	0.1
計	8,679	234	3,479	16,170	8,350.0	7,087.5	0.31	0.3
					15,437.5			

- ・アルブミン製剤の使用量は、使用重量(g)を3で除して得た値を単位数とする。
- ・自己血は、輸血量200mℓを1単位相当とみなす。
- ・新鮮凍結血漿は、輸血量120mℓを1単位相当とみなす。

FFP/RBC比、ALB/RBC比の計算方法

$$\text{FFP/RBC比} = (\text{②} - \text{③}) / \text{①} \quad \text{アルブミン/RBC比} = (\text{④} - \text{⑤}) / \text{①}$$

- ①赤血球濃厚液(RBC)の使用量 ②新鮮凍結血漿(FFP)の使用量
 ③血漿交換療法における新鮮凍結血漿の使用量 ④アルブミン製剤の使用量
 ⑤血漿交換療法におけるアルブミン製剤の使用量

topics

安全に輸血を実施出来るよう、輸血検査や血液製剤管理を24時間体制で臨床検査技師(認定輸血検査技師3名含む)が行っています。また、クリオプレシピレート製剤の院内導入など患者救命のための体制を構築しています。輸血管理体制も日本輸血細胞治療学会の第三者評価である輸血機能評価認定(I&A)を取得し、より一層、血液製剤の適正使用を推進しています。

(文責/臨床検査技術科 係長 久保田 基路)

理学療法技術科・作業療法技術科

疾患別リハビリテーション実施単位数

	疾患別リハビリテーション	令和4年度	令和5年度	令和6年度
理学療法	脳血管疾患	19,598	20,191	19,523
	廃用症候群	12,192	13,488	13,049
	運動器	22,312	22,277	22,020
	呼吸器	8,326	10,735	11,302
	心大血管疾患	5,805	7,773	5,379
	がん患者	8,352	8,868	9,800
	計	76,585	83,332	81,073
作業療法	脳血管疾患	17,125	16,350	16,908
	廃用症候群	2,860	3,935	3,317
	運動器	12,953	12,820	15,285
	呼吸器	1,350	1,576	3,916
	心大血管疾患	252	565	435
	がん患者	2,443	2,940	3,738
	計	36,983	38,186	43,599
言語聴覚療法	脳血管疾患	6,293	11,771	10,601
	廃用症候群	891	2,566	2,494
	呼吸器	1,030	2,602	2,950
	がん患者	245	467	704
	計	8,459	17,406	16,749
総計		122,027	138,924	141,421

整形外科・脳外科・脳内科を中心に急性期からのリハビリ介入を継続しました。PTは期中の複数駐在応援業務で人員が少ない時期もあったが、実施単位数は微減にとどまり一人当たり単位数は同等から微増で経過しました。OTでは呼吸器リハ分野での介入が増加し呼吸器疾患患者さんへのADL指導等で実施単位数を増加する事が出来ました。STは昨年度同様の実施単位数となりましたが、がん患者リハビリへの関りが増加傾向となりました。来年度は実施単位数の増加以外に、各科カンファレンスへの参加拡大や時間外業務の削減、各種書類作成の簡素化などにも取り組むたいと考えています。

(文責/理学療法技術科 技士長 高山 学)

臨床工学技術科

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
血液浄化業務			
血液透析	13,087	12,286	11,703
病棟透析	143	224	192
持続緩徐式血液濾過	326	343	321
血漿交換療法	137	124	119
吸着式血液浄化法	7	2	0
血球成分除去療法	136	126	93
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	0	8	5
心臓検査治療関連業務			
ペースメーカー関連	1,334	1,275	1,301
検査関連	298	292	224
治療関連	223	247	242
補助循環関連	84	148	124
手術関連業務			
内視鏡下手術装置操作	1,168	1,014	942
(ロボット支援手術:da Vinci操作)	(297)	(358)	(405)
眼科手術装置操作	25	245	294
レーザー照射装置操作	130	135	199
心臓血管外科装置操作	320	327	280
整形外科装置操作	208	122	114
脳神経外科装置操作	168	152	155
ラジオ波焼灼装置操作	31	57	58
その他の手術装置操作	9	0	0
高気圧酸素治療	604	640	636
医療機器保守点検件数			
MEセンター	27,099	28,996	28,811
ICU・CCU・NICU	7,475	8,381	7,655
手術室	38,298	37,023	38,215
人工呼吸器	3,774	4,213	4,656

血液浄化業務については、全国的に慢性維持透析患者が減少している背景もあり、十勝においても年々減少傾向となっております。また、心臓検査治療関連業務につきましては、ほぼ例年同様の推移となっております。

手術関連業務では、十勝圏で唯一ロボット支援手術（ダビンチ）が、受けられる施設として、2台体制で多くの手術に対応できるよう取り組んで成果が件数増に繋がったと考えております。

我々臨床工学技士は最先端の高度医療機器をはじめ、院内で使用される全ての医療機器が安全かつ効率的に運用されるように、24時間体制で保守管理に努めております。

(文責／臨床工学技術科 技士長 柴田 貴幸)

栄養科

(1) 栄養指導実績

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
個人栄養指導件数	入院栄養食事指導	2,624	4,117	4,314
	外来栄養食事指導	3,009	2,629	2,556
	合計	5,633	6,746	6,870

管理栄養士が入院早期から患者の栄養状態の維持・改善を目指し積極的に介入したことで、令和6年度は入院栄養食事指導件数が増加。入院患者の栄養管理においては、ICU入室早期から栄養介入を行い、感染症予防や早期離床に努めている。また、周術期栄養管理の取り組みとして、体成分分析装置（測定機器 InBody）を使用し術前から筋肉量や体脂肪量などの体成分を評価。適切な介入を行うことで、術後の早期回復、合併症発症予防にも努めている。

(2) フードサービス

当院の給食及び調乳業務は委託会社㈱日総に全面委託している。クックチルシステムを採用し、徹底した衛生・温度管理を行っている。また、クックチルメニューを全てレシピ化し、調理技術の標準化に努めている。年間1回の喫食者アンケートを実施し、嗜好や食事に対する要望等を把握、食事満足度の向上を目指している。委託会社と連携し、患者個々の病状や栄養状態に合わせ食事量の調整やメニューの工夫を行っている。

令和6年度行事食 提供回数 (25回)	その他の取り組み
祝日、節句などの行事食	17 出産された方への祝い膳の提供
地産地消メニュー	4 年始やクリスマスなどにメッセージカードを配布
日本・世界のグルメの日	4 誕生日にメッセージカードと折り鶴の配布

(3) 栄養に関する情報の提供

栄養科が事務局を務め、多職種協働で集合型のイベント「健康ひろば」を開催。地域住民を対象に様々な医療に関する情報提供を行っている。また、病院ホームページ、SNS (Instagram、X、YouTube等) を利用した情報発信も積極的に行っている。

(文責/栄養科 科長 森 多喜子)

医療社会事業科

1 医療福祉相談室

1) 令和6年度相談件数

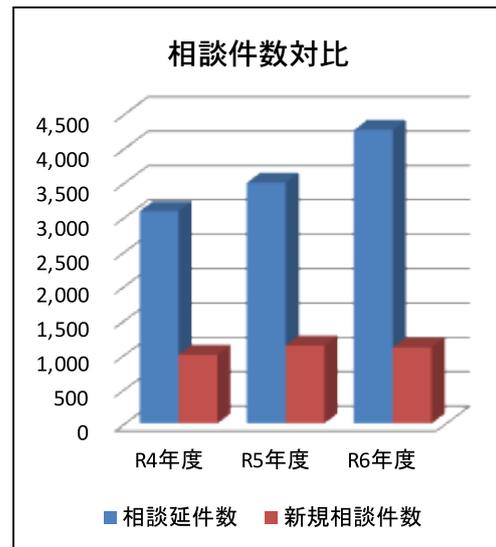
	件数
相談延件数	4,270
新規相談件数	1,109

2) 令和6年度相談分類別件数

	件数
経済問題の解決・調整援助	244
心理社会的問題援助	92
受診・受療相談援助	41
社会復帰（退院）援助	1,676
家族問題調整援助	1
社会資源の紹介・活用援助	2,023
就労・教育援助	4
日常生活の支援・援助	189
合計	4,270

3) 相談件数対比

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
相談延件数	3,090	3,503	4,270
新規相談件数	1,000	1,135	1,109



医療福祉相談室実績について

新規の相談件数は、前年度と同程度ですが、相談延件数については大幅に増加しております。

これは1件のケースに対して、複数回相談対応していることであり、それだけ手間のかかるケースが増えていると言えます。

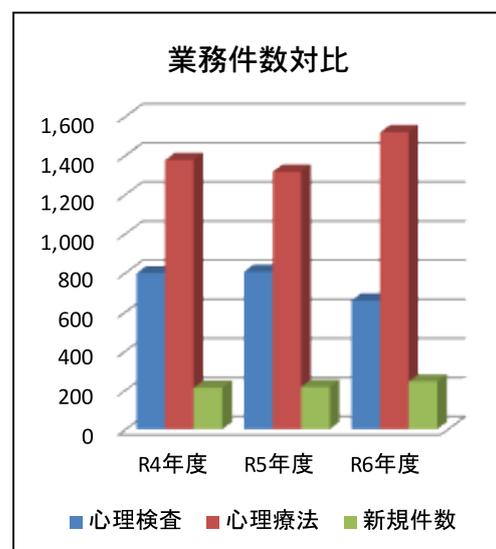
2 心理相談室

1) 令和6年度業務件数

	件数
心理検査（実施人数）	659
心理療法（延べ件数）	1,519
新規件数	245

2) 業務件数対比

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
心理検査	799	807	659
心理療法	1,378	1,318	1,519
新規件数	212	217	245



心理相談室実績について

心理検査の実施件数は、認知機能検査の依頼が減り減少しております。

心理療法は個人・集団療法共に依頼件数が増加しております。

(文責/医療社会事業科 科長 樺澤 康裕)

がん相談支援科

I. 相談件数について

件

	2022年（R4）		2023年（R5）		2024年（R6）	
	がん相談	医療相談	がん相談	医療相談	がん相談	医療相談
相談員（専従・専任）	638	155	628	66	585	104
臨床心理士	43	2	41	0	14	0
M S W	515	—	356	—	387	—
総件数	1,196	157	1,025	66	986	104

II. がん相談の概要

1. 相談人数・性別・年代について

1) 相談人数

人（%）

	初回				以前より継続		計	
	1回のみ		2回目以降も継続		2023年	2024年	2023年	2024年
	2023年	2024年	2023年	2024年				
相談員	140	164	69	63	51	58	260	285
臨床心理士	4	1	3	1	4	1	11	3
M S W	144	142	42	59	22	14	208	215
計人	288	307	114	123	77	73	479	503
%	60.1	61.0	23.8	24.5	16.1	14.5	100.0	100.0

2) 性別

人（%）

	男性		女性		不明		計	
	2023年	2024年	2023年	2024年	2023年	2024年	2023年	2024年
相談員	132	118	127	161	1	6	260	285
臨床心理士	3	1	8	2			11	3
M S W	112	135	96	80		0	208	215
計人	247	254	231	243	1	6	479	503
%	51.6	50.5	48.2	48.3	0.2	1.2	100.0	100.0

3) 年代別

人

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明
相談員	(20歳未満2)	4	18	45	65	70	29	52
臨床心理士	(20歳未満1)			1		1		
M S W	(20歳未満1)	3	13	38	66	61	27	6
計人	(20歳未満4)	7	31	84	131	132	56	58
%	(20歳未満0.8)	1.4	6.2	16.7	26.0	26.2	11.1	11.5

2. 相談方法

(件)

	2022年（R4）		2023年（R5）		2024年（R6）	
	件	%	件	%	件	%
対面	956	79.9	800	78.0	808	81.9
電話	240	20.1	224	21.9	178	18.1
その他	0	0.0	1	0.1	0	0.0
計	1,196	100.0	1,025	100.0	986	100.0

3. 相談者について

1) 相談者

(件)

相談者	2022年（R4）		2023年（R5）		2024年（R6）	
	件	%	件	%	件	%
患者本人のみ	586	49.0	516	50.3	514	52.1
患者とその付き添い	236	19.7	211	20.6	206	20.9
患者以外の方のみ	374	31.3	298	29.1	261	26.5
不明		0.0		0.0	5	0.5
計	1,196	100.0	1,025	100.0	986	100.0

2) 相談者の「患者以外の方のみ」の内訳 (件)

主たる相談者	2022年 (R 4)		2023年 (R 5)		2024年 (R 6)	
	件	%	件	%	件	%
家族・親戚	359	96.0	268	89.9	248	95.0
友人・知人	4	1.1	4	1.3	5	1.9
医療関係者 (院内)	5	1.3	14	4.7	2	0.8
医療関係者 (院外)	4	1.1	10	3.4	4	1.5
その他	2	0.5	2	0.7	2	0.8
計	374	100.0	298	100.0	261	100.0

4. 相談者からの相談内容 (複数選択) (件)

	2022年 (R 4)		2023年 (R 5)		2024年 (R 6)	
	件	%	件	%	件	%
がんの治療	368	13.0	359	13.5	310	12.1
がんの検査	54	1.9	66	2.5	17	0.7
症状・副作用・後遺症	202	7.1	102	3.8	157	6.1
妊孕性・生殖機能	0	0.0	5	0.2	3	0.1
セカンドオピニオン	134	4.7	232	8.7	192	7.5
在宅医療	29	1.0	22	0.8	20	0.8
介護・看護・養育	85	3.0	67	2.5	36	1.4
就業	10	0.4	0	0.0	5	0.2
治療と仕事の両立	30	1.1	31	1.2	40	1.6
医療費・生活費・社会福祉制度	651	22.9	453	17.1	514	20.0
生きがい・価値観	158	5.6	222	8.4	209	8.1
不安・精神的苦痛	513	18.1	509	19.2	527	20.5
医療者との関係	55	1.9	43	1.6	34	1.3
患者・家族間の関係	60	2.1	69	2.6	78	3.0
その他	492	17.3	472	17.8	427	16.6
計	2,841	100.0	2,652	100.0	2,569	100.0

5. 相談の対応内容 (複数選択) (件)

	2022年 (R 4)		2023年 (R 5)		2024年 (R 6)	
	件	%	件	%	件	%
傾聴・語りの促進支持的対応	631	27.7	599	37.2	581	35.1
助言・提案	388	17.1	213	13.2	220	13.3
情報提供	773	34.0	411	25.5	469	28.3
自施設受診の説明	41	1.8	49	3.0	6	0.4
他施設受診の説明	71	3.1	171	10.6	133	8.0
自施設他部門への連携	299	13.1	115	7.1	174	10.5
他施設への連携	64	2.8	38	2.4	64	3.9
苦情・要望への対応	2	0.1	3	0.2	3	0.2
その他	6	0.3	11	0.7	7	0.4
計	2,275	100.0	1,610	100.0	1,657	100.0

6. がんの部位 (人)

	2022年 (R 4)		2023年 (R 5)		2024年 (R 6)	
	人	%	人	%	人	%
肺	95	16.8	99	20.7	102	20.3
大腸・小腸	80	14.2	54	11.3	64	12.7
乳房	57	10.1	58	12.1	79	15.7
子宮・卵巣	45	8.0	45	9.4	39	7.8
胃	35	6.2	18	3.8	14	2.8
すい臓	39	6.9	38	7.9	37	7.4
肝臓・胆	15	2.7	24	5.0	17	3.4
前立腺	26	4.6	11	2.3	22	4.4
腎・尿管・膀胱	50	8.9	32	6.7	32	6.4
その他	122	21.6	100	20.9	97	19.3
計	564	100.0	479	100.0	503	100.0

Ⅲ. がん患者サロン「エンボックル」について

毎月第3水曜日	開催方法	講 話	参加数 (件)	
			来場	オンライン
4月17日	第1回 オンライン	何だか落ち着かない、最近眠れない、などのお悩みについて対処方法をお伝えします 公認心理師 築田昌明	4	0
5月15日	第2回 ハイブリット	がんの治療による外見の変化とケア がん化学療法看護認定看護師 尾谷優子	3	0
6月19日	第3回 ハイブリット	皮膚や爪の変化とケア 皮膚・排泄ケア認定看護師 大椋友美	4	1
7月17日	第4回 ハイブリット	睡眠障害ってなんだろう ～より良い睡眠をとるために今日からできること～ 精神科 主任部長 古瀬研吾	11※	0
8月21日	第5回 ハイブリット	リンパ浮腫ってどんなむくみ？～今日からできるセルフケア～ 作業療法技術科 作業療法 高野紗希	5	2
9月18日	第6回 ハイブリット	アドバンス・ケア・プランニングは対話のプロセスです 慢性疾患看護専門看護師 伊藤 史	4	1
10月16日	第7回 ハイブリット	アピアランス（外見）ケアについて／理容室さかがみ 坂上竜平 乳がん看護認定看護師 太田美幸	10	0
11月27日	第8回 ハイブリット	帯広厚生病院におけるがん診療と在宅医療連携 副院長 大野耕一	8	0
12月18日	第9回 ハイブリット	放射線治療と日常生活における注意点 中央治療 放射線治療室 高田都子	3	1
1月15日	第10回 ハイブリット	抗がん剤の副作用 薬剤部 薬剤科 久保萌美	8	0
2月19日	第11回 ハイブリット	がんと口腔ケアについて 摂食嚥下障害看護認定看護師 河本友香	4	0
3月19日	第12回 ハイブリット	がんと運動療法 作業療法技術科 木本優士郎	6	1
計			70	6

Ⅳ. 地域住民公開講座について

<2024年度(R6) 動画配信内容・視聴数>

公開日から2025年3月末現在

開催	配信月	講 師	講 座 内 容	視聴回数
第59回	R7・2	泌尿器科 主任医長 山田 修平	前立腺癌の診断から治療	407
録音できずR6再撮予定		脳外科 主任医長 能代 将平	脳腫瘍	

<2020年度(R2)・2023年度(R5)>

公開日から2025年3月末現在

開催	配信月	講 師	講 座 内 容	視聴回数	
R2	第46回	R2・9 産婦人科 医長 松宮 寛子	卵巣がんの診断と治療	8,498	
	第47回		新型コロナウイルスの影響により中止		
	第48回	R3・2	消化器内科 部長 松本 隆祐	膵がんについて／内科の立場から	6,116
			外科 主任部長 松本 譲	膵がんの外科的治療	12,961
第49回	R3・3	放射線科 部長 井上 哲也	放射線治療 最先端の照射技術も含めて	943	
R3	第50回	R3・4 呼吸器内科 医長 菊池 創	肺癌薬物療法の進歩	4,163	
	第51回	R3・7 精神科 医長 佐藤謙太郎	がん患者さんの診療に精神科医はどのように関わるのか	2,062	
	第52回	R3・7 薬剤部 薬局長代理 三本松泰孝	抗がん剤の作用・副作用について	9,195	
	第53回	R3・12 形成外科 医師 林 翔平	皮膚癌・軟部腫瘍の診断と治療	1,701	
	第54回	R4・3 外科 診療部長 村川 力彦	胃がんについて	814	
R4	第55回	R4・6 呼吸器内科 医長 菊池 創	アスベストとその関連疾患について	1,100	
	第56回	R5・1 血液内科 主任部長 若狭健太郎	悪性リンパ腫について	16,360	

開催	配信月	講師	講座内容	視聴回数	
R5	第57回	R6・1	緩和支援治療科 主任部長 木村 陽	緩和ケア 生命を脅かす病にかかった時のために	1,499
	第58回	R6・4	産婦人科 医長 秋江惟能	子宮がんについて	1,126

V. 治療と仕事の両立支援（出張）相談窓口について

1) 「両立支援（出張）相談窓口」の相談件数 (件)

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	総計
	0	0	0	0	0	0	0	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
	0	1	0	0	0	0	1	

2) 両立支援に関する相談件数 (件)

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	総計
	1	7	8	2	1	2	21	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
	4	9	3	1	1	1	19	

3) 年度推移 (件)

	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)
両立支援(出張)相談窓口	1	0	1
両立支援に関する相談	30	31	40

VI. セカンドオピニオンについて

1) セカンドオピニオン 依頼・受入件数 (件)

			2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	
依頼	がん	セカンド	36	38	35	<紹介先医療機関>北海道がんセンター・北海道大学病院・協会病院・北斗病院・国立がん研究センター中央病院・恵佑会札幌病院・恵佑会第2病院・札幌医科大学付属病院・札幌南三条病院・富山大学付属病院・東京ミッドタウンクリニック・宇都宮セントラルクリニック・がん研有明病院・札幌厚生病院・九州大学病院
		セカンドから受診・中止等に変更		7	5	恵佑会札幌病院（協会病院に入院し中止）・札幌南三条病院（入院により中止）・斗南病院（検査必要により依頼病院より受診に変更）・北海道がんセンター（がんセンターより受診に変更）・北海道大学病院（中止）
	がん以外	セカンド	3	1	8	北海道大学病院（形成・整形）・札幌医科大学付属病院（神内・婦人科）・札幌北楡病院（血内）・KKR札幌医療センター（呼内）・北海道医療センター（神内）・中村記念病院（脳外）
		受診・中止等に変更		2	2	札幌内科リウマチ膠原病クリニック（自身で受診し中止）・日本医科大学付属病院（血内、中止）
受入	がん	セカンド	11	11	9	<依頼医療機関>協会病院・第一病院・北斗病院・中央病院
		受診・中止等に変更			2	第一病院（死亡により中止・受診に変更）
	がん以外	セカンド	1	2	5	北斗病院（神内・脳外）・北斗クリニック（整形）・協会病院（泌尿器）・第一病院（外科）
総計			51	61	66	

2) 診療科別 セカンドオピニオン 依頼・受入件数 (件)

診療科／依頼・受入	依頼				受入			計
	がん		がん以外		がん		がん以外	
	セカンド	受診等に変更	セカンド	受診等に変更	セカンド	受診等に変更		
呼吸器内科	10	1	1		1			13
消化器内科	7	1		1	4	2		15
消化器内科・整形外科			1					1
外科	11	2			2		1	16
血液内科	1		1	1				3
産婦人科	4		1		1			6
泌尿器科	1	1					1	3

診療科／ 依頼・受入	依 頼				受 入			計
	が ん		が ん 以 外		が ん		が ん 以 外	
	セカンド	受診等に変更	セカンド	受診等に変更	セカンド	受診等に変更		
耳鼻咽喉科	1							1
神経内科			2				1	3
脳神経外科			1				1	2
整形外科							1	1
循環器内科								
放射線科					1			1
形成外科			1					1
計	35	5	8	2	9	2	5	66

VII. 北海道対がん協会からの調査依頼について

2023年度 精密検査結果通知の記入依頼・がん患者の追及調査件数

(件)

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	総計
	22	16	12	14	10	12	86	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
	6	8	8	7	7	8	44	

VIII. 十勝地域のがん患者さん支援の充実に向けたセミナー2024

日 時：令和6年9月24日（火） 18：30～20：00

対 象：医療・保健・福祉・介護・行政従事者、患者さんの療養支援に関わっている方

参加方法：会場（帯広厚生病院 KoseiHall）・オンライン（Zoom）

参 加：106名（会場：32名 ・ オンライン：74名）

内 容：① 講 演

- ・十勝地域でがん患者さんご家族を支えるために
帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 教授 渡邊清高
- ・帯広厚生病院におけるがん診療と在宅医療連携
帯広厚生病院 副院長 大野耕一
- ・在宅緩和ケア充実診療所における在宅がん診療
さかい総合内科クリニック 院長 酒井俊

- ・在宅看取りを支える在宅医療連携
更別村国民健康保険診療所
所長 山田健介
- ・がんの治療中から終末期までを支える
在宅医療の取り組み
帯広協会病院 腫瘍内科
主任部長 杉山絢子

② ディスカッション：会場参加のみグループワーク

IX. ワコールリマンマ相談会

乳がん術後の下着やパッドを適切に選択し、手術創部を保護しながらボディイメージや身体のバランスを整えられるよう、相談会を開催する

日 時：令和6年11月11日（月） 9：45～15：45

場 所：総合支援センター 相談室 01・02

対 象：十勝管内の乳がん術後の患者・予約制

参 加：15名（当日参加1名）／当院・協会病院・めぐみ乳腺クリニック・上徳乳腺外科

内 容：株式会社ワコールのアドバイザーが採寸、試着など行い下着やパッドなどの相談に応じる

(文責／がん相談支援科 常山 純子)

医療安全管理科

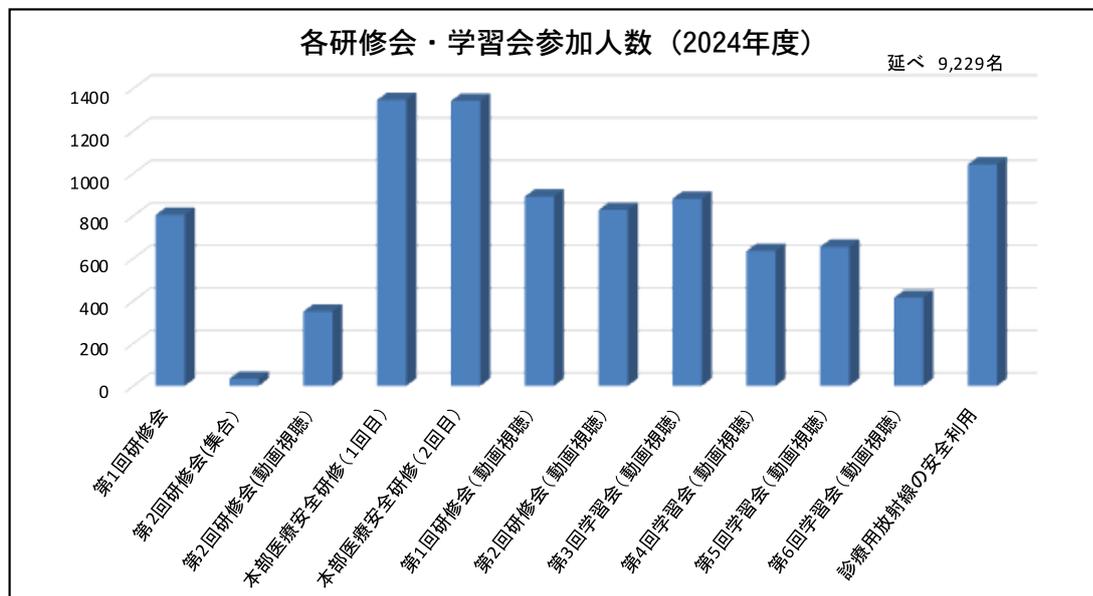
1) 安全担当

- ①セーフティマネージャー会議：マニュアル検討・改定、内部監査、心電図モニター適正使用、転倒・転落防止、医療機器適正使用WGでの活動
- ②セーフティマネージャー・リーダー研修：医療安全活動推進の研修、要因分析演習 など

医療安全主催の研修会・学習会

- ・医療安全推進研修会 2企画／2回開催
- ・医療安全学習会 6企画／6回開催
- ・研修会・学習会動画視聴 8回開催

コロナ禍以降、受講のしやすさから動画視聴を基本に実施しているが、第2回医療安全推進研修のみ集合形式と動画視聴とした。延べ9,229名が参加した。



2) 相談担当

【主な業務内容】

- 苦情・クレーム、相談（職員・疾患支援）対応
- 診療記録（カルテ）の開示対応
- 医事紛争・医療事故対応 等

【2024年度 患者支援カンファレンス 開催実績】

- 年間51回開催（毎週水曜日開催）

診療記録（カルテ）開示の実績

一 般	裁判所・ 弁護士経由	警察・ 検察経由	合計（件）
36	80	68(※)	184

※閲覧、口頭による回答等を除く

3) 保安担当

各種取扱件数	①院内暴力報告件数	2023年度／38件	2024年度／27件
	②警察照会	2023年度／160件	2024年度／108件

（文責／医療安全管理科長 谷川 和広）

地域医療連携室

1. 年度別紹介率

紹介患者数 / (初診患者数 - (夜間休日受診 + 救急搬送 + 健診精検患者数)) × 100 (%)

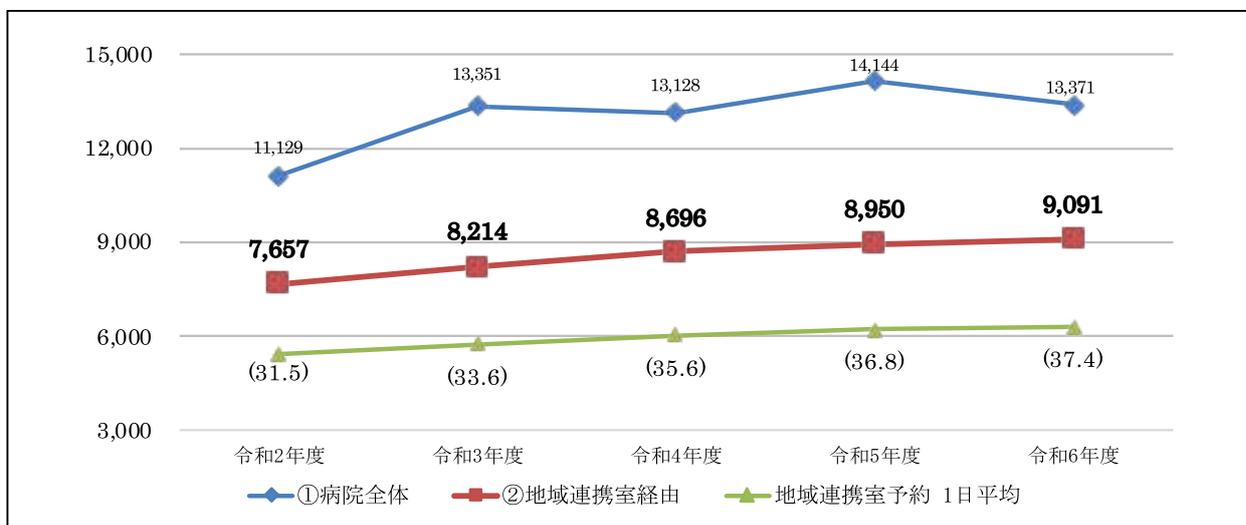
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
紹介率	86.1%	76.6%	78.6%	93.4%	98.3%

2. 年度別逆紹介率

逆紹介患者数 / (初診患者数 - (夜間休日受診 + 救急搬送 + 健診精検患者数)) × 100 (%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
逆紹介率	91.1%	73.1%	87.3%	105.2%	113.7%

3. 地域連携室経由 紹介患者件数実績



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予約割合(②/①)	68.8%	61.5%	66.2%	63.3%	68.0%

令和5年度 地域別紹介数			①病院全体		②地域連携室経由	
			③件数	割合	④件数	④/③
北海道	十勝管内	帯広市	9,191	68.7%	6,608	71.9%
		東十勝	616	4.6%	379	61.5%
		西十勝	639	4.8%	411	64.3%
		南十勝	376	2.8%	204	54.3%
	北十勝	1,204	9.0%	663	55.1%	
	札幌市	425	3.2%	306	72.0%	
	その他	468	3.5%	319	68.2%	
北海道外			180	1.3%	116	64.4%
健診精密検査			272	2.0%	85	31.3%
合計			13,371	100%	9,091	68.0%

4. 高額医療機器共同利用実績

検査項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
CT	217	295	319	272	257
MRI	132	134	168	216	254
RI	58	77	66	53	60
骨密度	2	1	1	5	2
PET	7	31	23	22	32

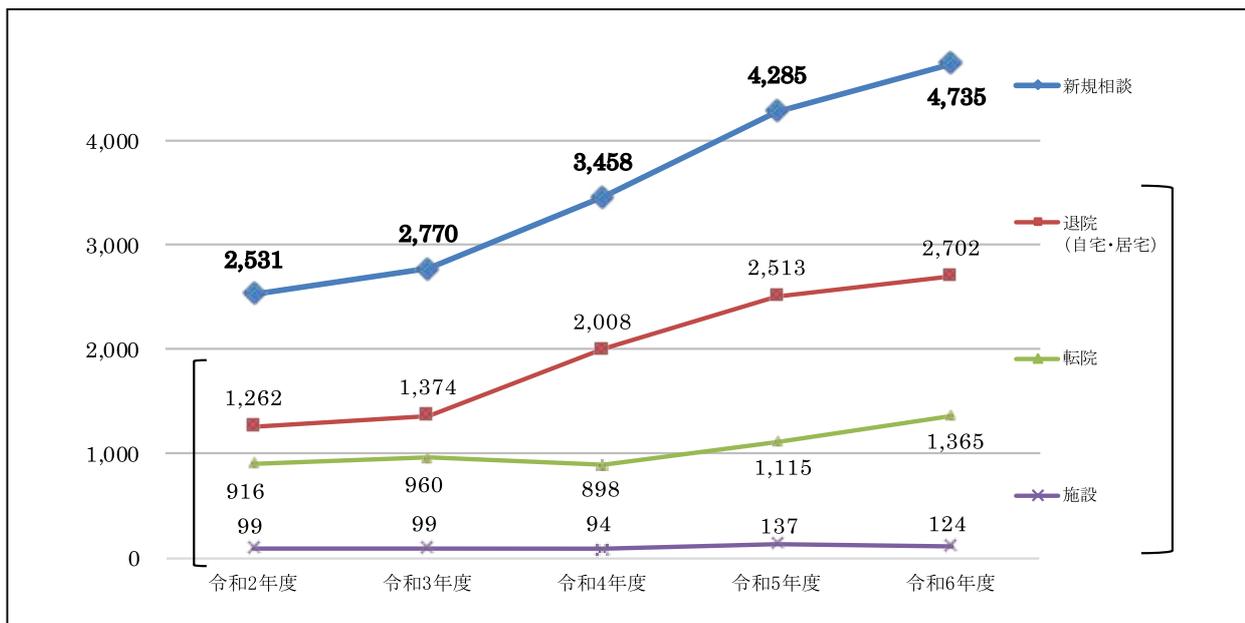
5. 十勝メディカルネットワーク（はれ晴れネット）公開実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公開施設数	67	68	68	66	54
公開件数	10,442	12,133	13,422	14,112	10,886
月平均	870	1,011	1,119	1,176	907

6. セカンドオピニオン実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入件数	6	9	12	13	14
	呼吸器内科3件 外科2件 血液内科1件	呼吸器内科2件 消化器内科5件 脳神経外科2件	呼吸器内科3件 消化器内科4件 外科4件 精神科1件	呼吸器内科1件 消化器内科3件 外科5件 産婦人科2件 脳神経内科2件	呼吸器内科1件 消化器内科4件 外科3件 産婦人科1件 脳神経内科1件 泌尿器科1件 脳神経外科1件 整形外科1件 放射線科1件
依頼件数	14	34	39	48	43

7. 退院支援・転院支援



※ [] は新規相談の再掲

8. 地域連携クリティカルパス

(1) 脳卒中連携パス

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用数	131	176	147	161	189

(2) 大腿骨近位部骨折連携パス

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用数	67	42	62	56	64

9. 地域医療連携室について

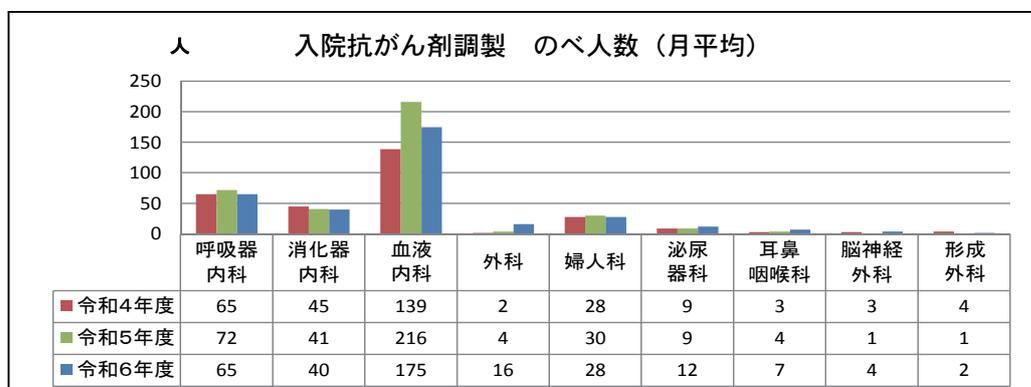
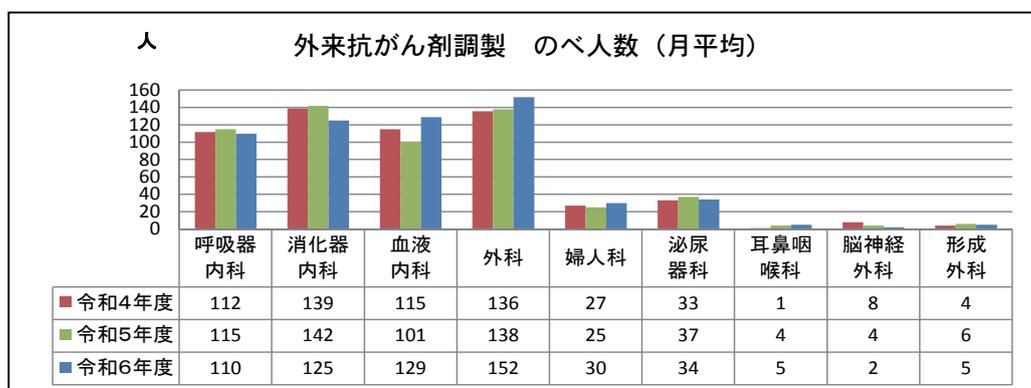
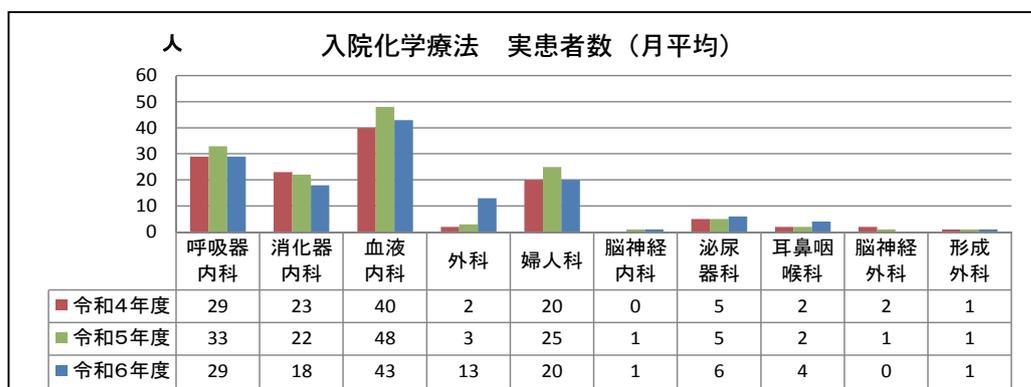
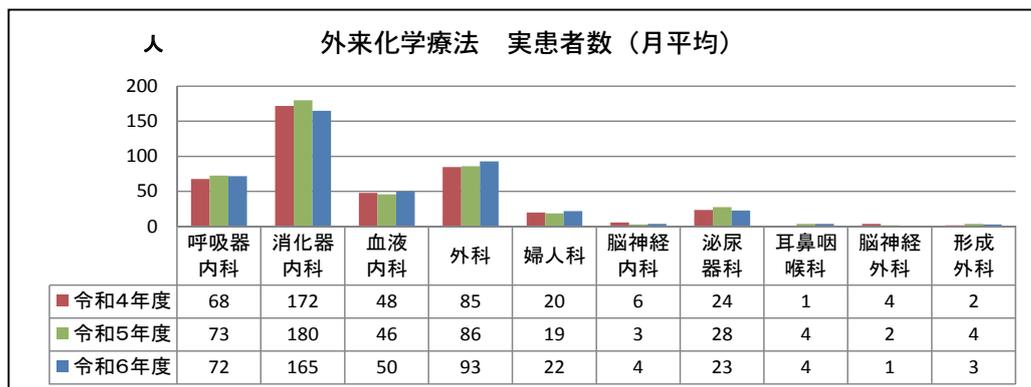
地域医療連携室は、当院が「地域医療支援病院」に承認されていることから、地域の医療機関との医療提供において、紹介予約・逆紹介・高額医療機器共同利用による検査予約の機能を持ち、地域のかかりつけ医等の支援を担っております。

前年まで、紹介患者数は増加しておりましたが、令和6年度は消化器内科医師・皮膚科医師欠員の影響があり、前年度比で減少となりました。地域医療連携室経由の紹介予約は増加しております。検査予約は前年より多くご利用頂き、特にMRIの件数が増加しております。今後も関係医療機関と情報共有し、医療連携しやすい環境づくりに努めて参ります。

入退院支援および在宅療養支援については、新規相談は増加しており、独居高齢者など、社会福祉的課題から退院困難要因を抱えておられる患者様が増えている印象です。急性期治療と同時進行で、患者・家族の意思決定支援を行い、早く住み慣れた環境に戻れるよう、院内多職種、地域の多職種の方々と連携し支援を繋いでいきます。

(文責／地域医療連携室 看護科長 酒井 利佳)

化学療法室



外来化学療法実患者数は令和5年度と比較し98%、外来抗がん剤調製延べ人数についても103%と、ともに前年度と比較し同等であった。入院においては、実患者数は令和5年度と比較し96%、延べ人数は92%となり、ともに前年度と比較し減少傾向となった。

（文責／薬剤科 淵上 俊介）

入退院支援センター

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入退院支援センター対応患者数	5,418	5,424	5,658
全予定入院患者数	6,086	6,691	6,485
割合	89.0%	81.1%	87.2%

(文責/医事課長 西村 卓也)

感染制御チーム (ICT : Infection control team)

1. 院内ラウンド

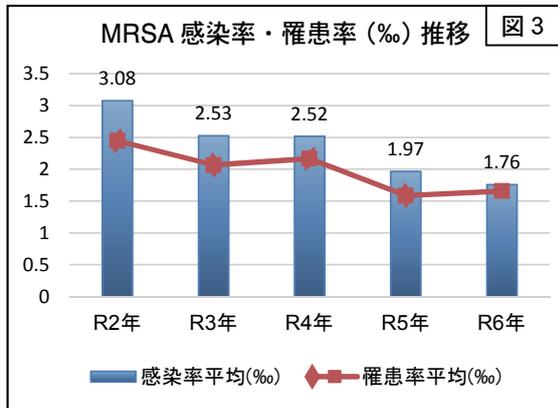
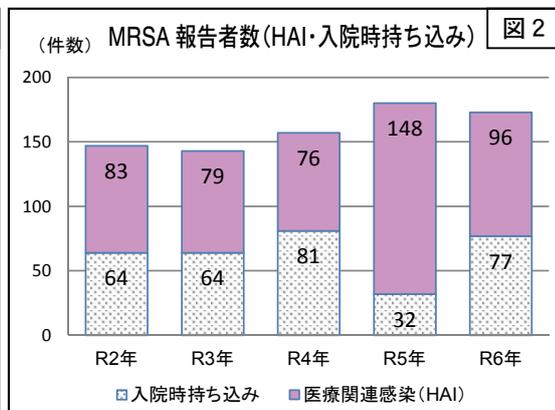
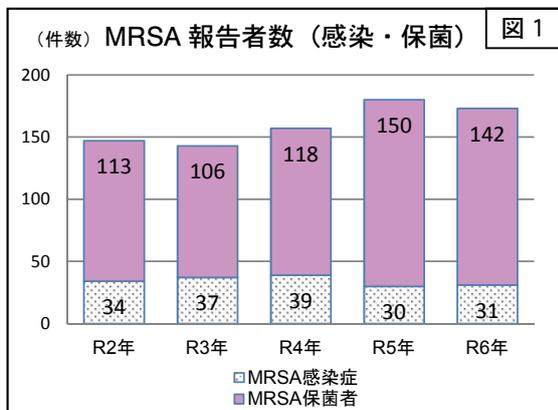
1) ICT ラウンド : 1回/週 合計 60回

- ・医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師の4職種が、各病棟、外来、医療技術部門、事務、医局などのラウンドを実施している。
- ・病棟ラウンドは毎週行い、病棟代表者と共に手指衛生や個人防護具の適切な着脱を中心に確認と指導を実施。耐性菌など感染症の発生状況に応じた臨時ラウンドも実施している。
- ・2024年度より各部門の手指衛生回数や手指消毒剤使用量など各種実施状況の調査を各部門のリンクスタッフに依頼している。

2. サーベイランス

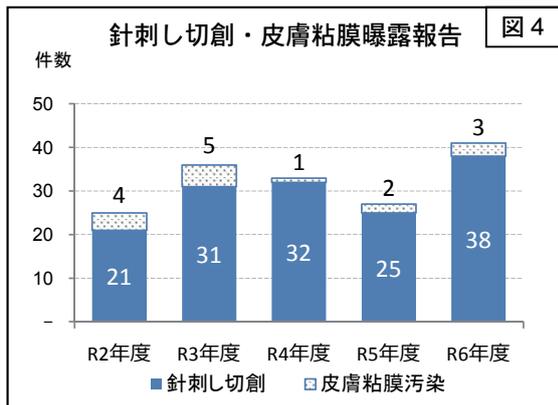
1) 院内感染症情報収集・分析・対策

MRSA 検出報告数・割合



- ・報告数173(-7)件、感染症は142(-8)件、保菌31(+1)件であった。HAI、持ち込みもR元年～4年度と同様の割合であった。感染率・罹患率による評価を今年度新たに行ったが(図3)、年次推移は減少傾向にあることが明らかになった。

2) 針刺し・切創、血液・体液曝露事故報告件数



- ・件数は38(+13)件と2015年以降最多(図4)であった。4年未満の看護師が多いのが同様(57%)だが、今年度は5～9年の増加を認め、経年的に増加傾向である。医師の報告(10件、うち研修医4)も多い。

- ・安全装置付き器材による受傷は前年+4の7件であった。翼状針の使用状況の詳細では、患者要因は1件で他の6件は手技の未熟や使用方法を知らないなどで、使用方法やルールの再確認が必要と考えられた。

3. 抗菌薬適正使用支援チーム活動（AST：Antimicrobial Stewardship Team）

1) 抗MRSA薬・カルバペネム薬*届け出制実施 *H28年10月～開始

*2019年7月1日より、注射オーダー時に届け出が可能なシステムへ変更し、届け出率は100%で経過している。

2) 抗菌薬使用数の把握：3か月毎に委員会報告実施

3) AST介入状況

①カンファレンス（ラウンド）：木曜日+α/週 合計90回

②ラウンド回数・延べ患者数・介入率など

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
回数	83	78	84	89	90
延べ患者数	1384	804	1077	1184	1295
コメント人数	172	118	69	76	284
介入率(%)	12.4	14.7	6.4	6.4	21.93
コメント数※	344	300	256	343	360
変更数※※	186	200	166	225	249
変更率(%)	54.1	66.7	64.8	65.6	69.2

※ ラウンド結果表を用いてフィードバックを実施した件数

※※ ラウンド結果表でフィードバック後、1週間以内にASTのコメントに則った変更があった件数

・AST介入の延べ患者数、介入率は増加している。ASTからのコメントに対する支持変更状況も、変更数の増加がみられている（変更率は横ばい）。

③相談件数（件）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
院内	282	331	411	536	515
院外	10	7	4	2	0
合計	292	338	415	538	515

④血液培養：複数採取率

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
複数セット率	88.1%	89.8%	89.6%	89.9%	79.1%
陽性率	12.6%	14.0%	14.3%	12.9%	12.8%
コンタミ率	1.5%	2.1%	2.2%	2.0%	1.7%
小児除く複数セット率	95.9%	95.4%	94.8%	96.7%	84.0%

※ 適切な血液培養が実施されている場合、陽性率は5～15%の間になると言われている

※2 CUMITECHでは2～3%以下、CLSIでは3%以下推奨

⑤ASTニュースの発行

院内広報誌へ職種ごとに記事を掲載。

今年度は、臨床検査技師、薬剤師、感染対策科看護師による3回/年の発行となった。

4. 感染対策に関するコンサルテーション件数

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
院内	278	283	136	950	757
院外	29	42	118	69	63

5. 職業感染予防対策

1) 流行性ウィルス疾患抗体価検査・ワクチン接種	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
①新規採用者・異動者、在職者の抗体価検査実施	179名	183名	176名	179名	
②新規採用者・異動者、在職者のワクチン接種者	151名	154名	141名	90名	
2) インフルエンザワクチン接種	合計	1372名	1351名	1341名	1317名
	接種率	94.0%	94.2%	92.4%	88.5%
3) B型肝炎ワクチン接種者	合計	136名	135名	94	105
4) 三種混合(百日咳)ワクチン接種	合計	0名	0名		
5) 新型コロナウイルスワクチン接種(3回接種)	合計	1340名			
	接種率	89.3%※2			
6) 新型コロナウイルスワクチン接種(4回接種)	合計		959名		
	接種率		65.1%※3		

※計算式＝ $\frac{\text{ワクチン2回接種した人数(4月以降も勤務継続者)}}{\text{3月末の在職者(4月以降も勤務継続者+3月末で異動・退職者)}}$

※2計算式＝ $\frac{\text{ワクチン3回接種した人数}}{\text{3月末在職者数(1,500名)}}$

※3計算式＝ $\frac{\text{ワクチン4回接種した人数}}{\text{3月末在職者数(1,473名)}}$

6. 感染症情報の発行(不定期)

発行日	内 容
4月18日	ビーフリード輸液管理の運用に関する周知とお願い
4月24日	新型コロナウイルス抗原定性検査活用並びに4月26日以降のスクリーングについて
4月26日	COVID-19感染対策(PPE)変更の確認
4月26日	バンコマイシン投与時の採血について
5月13日	面会制限緩和に伴う説明用紙の運用中止について
5月13日	8南病棟 COVID-19クラスター発生!
6月12日	セフトリアキソンナトリウムとカルシウム含有製剤の同時投与注意について
6月28日	急な発熱・感冒様症状出現時の対応及びコロナ罹患時の職員の勤務制限期間の変更について
7月4日	「BDバクテック血液培養ボトル」流通障害について
8月2日	「BDバクテック血液培養ボトル」流通障害について(第2報)
10月8日	「BDバクテック血液培養ボトル」供給制限解除について
12月12日	ICTメイト(感染制御支援システム)をご活用ください!
12月13日	インフルやコロナの発生増加!改めて感染対策を
12月17日	新型コロナウイルス感染症、職員大量発生!!
12月20日	感染対策としての面会制限開始について
12月23日	【臨時】面会制限開始についての補足
12月26日	COVID-19診療について
1月9日	医療関連感染(HAI)多数発生!手指衛生遵守の再確認を!
3月4日	3月は『針捨てBOXの蓋を閉めましょう』強化月間です
3月28日	2024年のアンチバイオグラムが完成しました

・感染症の発生・対策周知のため、情報誌を発行している。

7. 地域連携: 地域全体の感染管理発展のための活動を行っている。

1) 十勝管内医療機関19施設との合同カンファレンス開催: 4回/年

- ①感染対策加算2取得施設: 7施設 ②感染対策加算3取得施設: 5施設
 ③加算準備施設: 4施設 ④外来感染対策向上加算: 2施設
 ⑤介護施設: 1施設

2) 感染対策連携施設ラウンド実施: 5施設

3) 十勝管内感染対策加算1取得施設(2施設)との相互院内ラウンド実施 1回/年

- ・十勝管内の連携施設と、カンファレンスを行い、感染防止対策に関する情報交換を行っている。尚、連携している感染防止対策加算2・3または外来加算の施設内ラウンドを行い、課題の共有や改善策について情報共有を行っている。
- ・2024年度は、管内35施設が一堂に会し、新興感染症を想定する合同訓練を行った。

(文責/感染対策室長(ICD) 高村 圭)

褥瘡チーム

I. 褥瘡有病率・褥瘡推定発生率

1. 褥瘡患者数・有病率

表1. 月別有病率 (%)

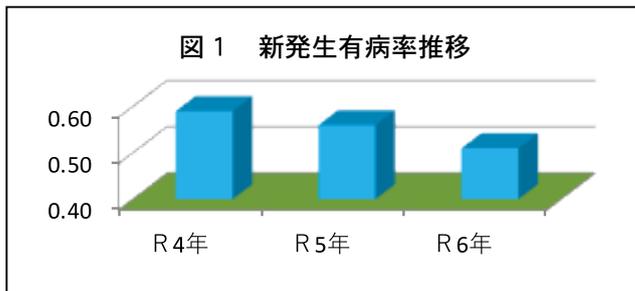
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R4年	2.21	3.02	3.09	3.20	2.50	2.72	1.72	2.73	2.86	2.92	3.43	3.96	2.55
R5年	2.77	3.61	2.99	2.23	3.82	3.04	2.67	2.43	1.56	2.40	2.20	1.61	2.61
R6年	1.79	1.90	1.86	1.44	2.00	2.11	2.66	2.25	2.06	3.90	2.50	2.21	2.22

表2. 月別新発生(入院後発生)有病率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R4年	0.28	0.66	0.55	0.73	0.53	0.88	0.21	0.20	0.98	0.86	0.89	0.32	0.59
R5年	0.37	0.60	0.62	0.66	0.68	0.78	0.47	0.84	0.23	0.13	0.69	0.61	0.56
R6年	0.24	0.83	0.49	0.44	0.42	0.85	0.2	0.31	0.59	0.95	0.45	0.39	0.51

(当院) 褥瘡有病率 (%)

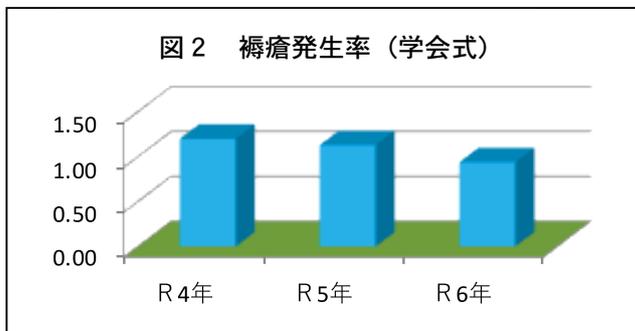
$$\frac{\text{褥瘡患者累計数(1カ月)}}{\text{延べ入院患者数(1カ月)}} \times 100$$



2. 褥瘡発生率

表3. 月別発生率 (%) 日本褥瘡学会式

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R4年	0.41	0.95	1.02	0.77	0.82	1.61	1.20	1.34	1.51	1.12	2.41	1.25	1.20
R5年	1.27	1.25	1.36	0.78	0.99	1.96	0.89	1.45	1.56	0.55	1.14	0.46	1.13
R6年	0.42	1.18	1.36	1.23	0.61	0.61	0.44	0.64	2.09	1.31	0.58	0.62	0.94



1) 褥瘡発生率(日本褥瘡学会式)は、1.13%→1.20%→0.94%に減少しているが、全国調査の値には至っていない。

2021年 全国調査

一般病院 0.84%

療養病床有 一般病院 0.87%

大学病院 0.64%

(日本褥瘡学会) 褥瘡推定発生率 (%)

$$\frac{\text{調査日に褥瘡を保有する患者数}-\text{入院時すでに褥瘡保有が記録されていた患者数}}{\text{調査日の施設入院患者数}} \times 100$$

II. 褥瘡新発生患者

1. 診療科別褥瘡新発生数

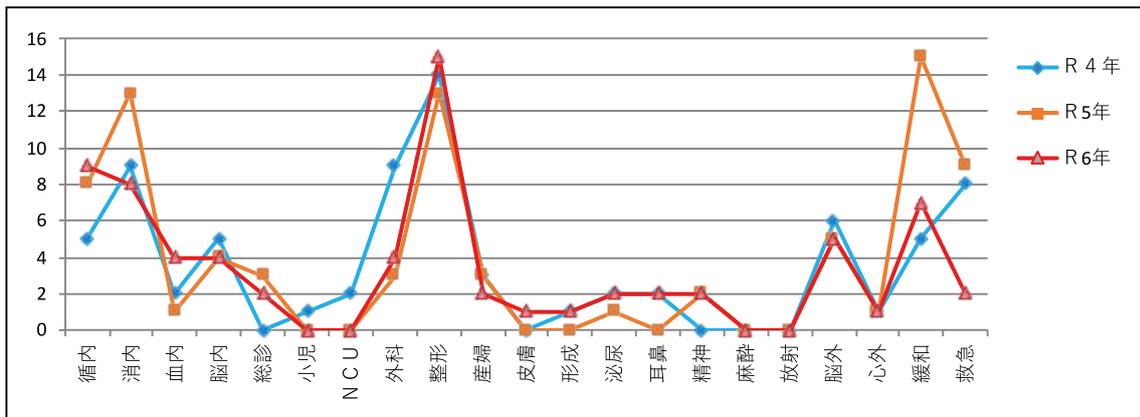
表4. 診療科別新発生数 (名)

	呼内	循内	消内	血内	脳内	総診	小児	NCU	外科	整形	産婦	皮膚	形成	泌尿	耳鼻	精神	麻酔	放射
R 4年	9	5	9	2	5	0	1	2	9	14	3	0	1	2	2	0	0	0
R 5年	16	8	13	1	4	3	0	0	3	13	3	0	0	1	0	2	0	0
R 6年	8	9	8	4	4	2	0	0	4	15	2	1	1	2	2	2	0	0

	脳外	心外	緩和	救急	合計
R 4年	6	1	5	8	86
R 5年	5	1	15	9	97
R 6年	5	1	7	2	79

令和4年 救急科が新設された。褥瘡新発生件数は、96件→86件→97件→79件と減少、令和3年は96件であり近年4年間は年間100件以下を維持している。

図3 診療科別 褥瘡新発生推移



年間褥瘡新発生10件／年を超えている診療科は整形外科、続いて循環器内科→呼吸器内科・消化器内科の順である。

2. 褥瘡新発生患者の日常生活自立度

表5

n=97

自立	準寝たきり	寝たきり			
		車いす		ベット上	
J	A	B 1	B 2	C 1	C 2
0	0	3 (3.7%)	5 (6.3%)	21 (26.5%)	50 (63.2%)

3. 褥瘡新発生総褥瘡の保有部位

表6. 部位別 褥瘡新発生数

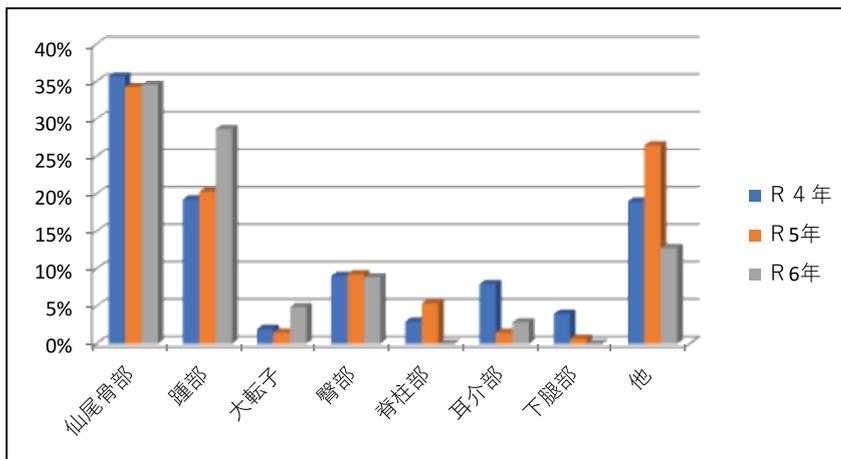
	仙骨部	尾骨部	踵部	耳介部	後頭部	大転子	背部	足部	肘部	坐骨部	下腿部	肩甲骨	膝部	腸骨部	胸部	脊椎部	外内踝	臀部	他	合計
R 4年	35	19	8	3	2	0	3	2	2	4	0	0	1	0	3	2	9	5	98部位	
R 5年	44	26	2	0	2	0	5	0	5	1	1	0	1	2	7	6	12	14	128部位	
R 6年	35	29	3	1	5	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	9	13	101部位	

表 7. 部位別 総褥瘡新発生 (%)

	仙尾骨部	踵部	大転子	臀部	脊柱部	耳介部	下腿部	他
R 4 年	36%	19%	2%	9%	3%	8%	4%	19%
R 5 年	34%	20%	2%	9%	5%	2%	1%	27%
R 6 年	35%	29%	5%	9%	0%	3%	0%	13%
2021(令和3年) 全国実態調査	56.4%	16.3%	2.1%		5.4%	1.4%		18.4%

いずれの年度も当院は全国調査と比較しても、踵部の発生割合が高く、仙骨尾骨部の発生割合は少ない傾向にあります。

図 4. 部位別褥瘡発生推移



4. 褥瘡深達度 (褥瘡新発生者)

表 8. 新発生褥瘡 深達度 (DESIGN-R®2020)

	d 1	d 2	D 3	D 4	D 5	D T I	U	合計
R 4 年	43 (43.8%)	54 (55.1%)	0	0	0	0	1 (1.0%)	98部位
R 5 年	50 (39.0%)	75 (58.5%)	1 (0.7%)	0	0	0	2 (1.5%)	128部位
R 6 年	24 (23.7%)	74 (73.2%)	1 (0.9%)	0	0	1 (0.9%)	1 (0.9%)	101部位

topic

週 1 回 褥瘡患者のラウンドを形成外科医、形成外来看護師、病棟看護師、理学療法士、特定行為研修修了者、皮膚・排泄ケア認定看護師の他職種で行っています。外来看護師の参加により、外来⇄入院と退院後も切れ目のないケアと理学療法士と褥瘡部位への負荷の少ないリハビリ方法の検討などを話し合っています。過去 3 年のデータから褥瘡新発生件数及び褥瘡発生部位数も減少傾向にあります。

(文責/皮膚・排泄ケア認定看護師 大椋 友美)

栄養サポートチーム (NST)

当院は、効果的な栄養療法を選択・実施することにより、治療成績・患者のQOL向上、合併症の減少など診療の質を高めることを目的とし、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士など多職種が連携し、栄養サポートチーム（以下、NST）活動を行っている。

➤ NST稼働施設認定

- ・ J S P E N（日本栄養治療学会）

（1）NST介入実績

平成17年度よりNST活動を開始。栄養管理の重要性は広く院内に認知され、NST加算の有無にかかわらずNST活動は定着している。NST加算は、算定要件を満たす職種が揃ったことにより、令和5年度から算定割合が上昇傾向にある。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
NST件数	1,469件	1,579件	2,216件
NST加算割合	1%	15%	36%

（2）NST専門療法士のための臨床実地修練の開催・受け入れ実績

道東唯一の「NST専門療法士認定教育施設」として、院内・院外を問わず広くNSTの人材育成に貢献している。

平成27年度より毎年、実地修練生の受け入れを行っているが、令和2・3年度はCOVID-19感染拡大のため開催を中止している。令和5・6年度は希望者多数のため2回に分けて開催し、21名の受け入れを行っている。

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
0名 受け入れ中止	0名 受け入れ中止	10名	21名	21名

（3）NST啓蒙活動実績（令和6年度）

院内スタッフ・研修医の栄養管理に関する知識向上、NST活動の啓蒙を目的に、セミナー・勉強会を開催し、院内広報誌にNSTニュースを掲載している。

研修医対象NSTセミナー(全1回)	NSTラウンド・周術期栄養管理・口腔ケアについて
「NSTニュース」の発行(6回/年)	栄養管理に関する内容

(文責/NST事務局 栄養科 笹嶋 真衣)

緩和ケアチーム

1. 活動概要

- (1) チームメンバー：緩和支援診療科医師、精神科医師、放射線科医師、外科医師、総合診療科医師、緩和薬物療法認定薬剤師、公認心理師・臨床心理士、管理栄養士、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん相談員
- (2) 緩和ケアチーム回診：平日毎日回診（主に緩和支援診療科医師、緩和ケア専従看護師が対応）、週に1回チームメンバー全員でチームカンファレンス・回診を実施している。
- (3) 対象者：一般病棟の入院患者とその家族（外来患者は、緩和支援診療科外来にて対応）
- (4) 依頼内容・依頼件数（がん）：症状対応と緩和ケア病棟（PCU）申し込みについての依頼があった。症状対応の内容としては、疼痛23%（50件）、疼痛以外の身体症状9%（19件）であった。また、抗がん治療終了後の依頼が多くを占めており、ECOGのPerformance Status3の依頼が44%、PS4での依頼が42%であった。

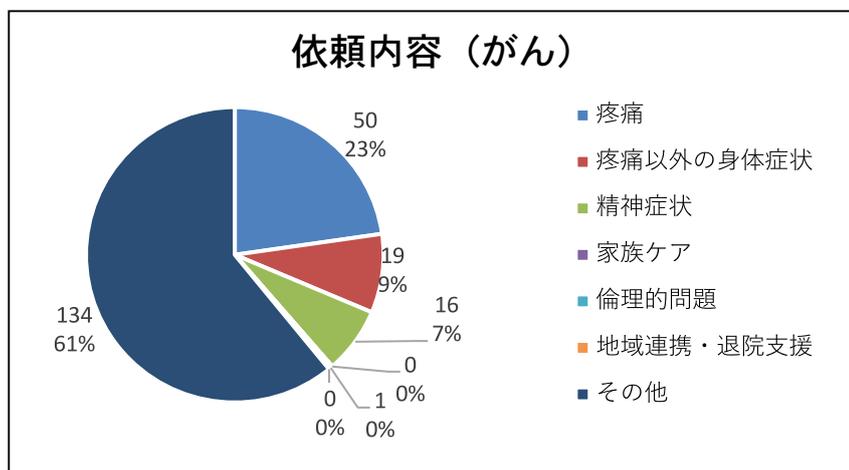
2. 緩和ケアチーム依頼内容について

- (1) 入院患者の緩和ケアチーム依頼件数・診療科別

がん患者179名の依頼があった

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
呼吸器内科	10	48	45
循環器内科	3	0	0
消化器内科	22	46	60
血液内科	1	6	11
脳神経内科	0	0	2
外科	10	22	28
脳神経外科	0	3	1
整形外科	2	1	2
産婦人科	13	19	15
形成外科	1	1	2
泌尿器科	6	13	10
耳鼻咽喉科	2	4	3
精神科	2		
総合診療科	1		
小児科			
皮膚科		1	
計	70	164	179

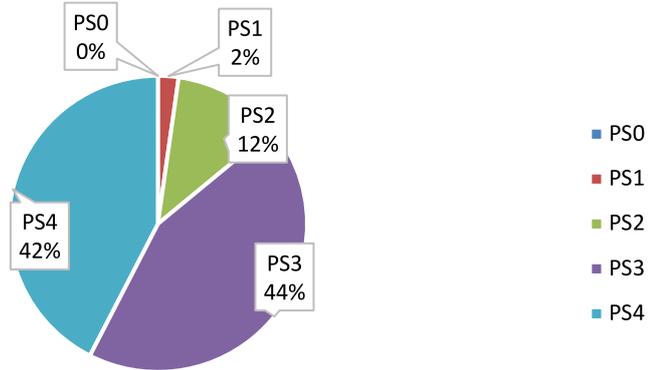
- (2) 依頼内容（がん）



(3) 依頼時期と依頼時の Performance Status (ECOG)

診断から初期治療前	1
がん治療中	15
がん治療終了後	163

依頼時の Performance Status (ECOG)



(4) 依頼終了時の転帰 (がん)

介入終了 (生存)	0
退院	19
在宅ケア	8
死亡	23
緩和ケア病棟転棟	134
その他の転院	3

3. その他

(1) 緩和ケア病棟申し込み面談の実施状況

面談を週3回(1日2枠)設けて、緩和支援診療科医師、緩和ケア担当看護師が緩和ケア外来あるいは入院病棟にて面談を実施している。外来・入院あわせて診療科別の実施状況は以下となる。

緩和ケア病棟申し込み面談実施件数 (診療科・年度別)

*実際に入棟した件数とは異なる

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
呼吸器内科	46	72	80
循環器内科	0	0	0
消化器内科	53	77	95
血液内科	8	14	11
神経内科	0	0	0
外科	28	40	34
脳神経外科	0	3	2
整形外科	2	0	2
産婦人科	22	17	18
形成外科	1	3	3
泌尿器科	15	12	8
耳鼻咽喉科	3	4	3
精神科	0	0	0
脳神経内科	0	0	1
総合診療科	1	0	0
緩和支援診療科	0	0	0
計	179	244	257

4. 教育・啓蒙活動

- (1) 施設内の全てのがん患者を対象とした緩和ケアスクリーニングの普及啓発活動を継続している
- (2) 緩和ケアリンクスタッフ会事務局としての企画・運営を実施：定例会は年に6回開催し、定例会内での研修会を行った。また、ホスピス緩和ケア週間には、緩和ケアに関する相談窓口を紹介したリーフレットを患者・家族へ配布した。また、患者・家族を対象に緩和支援診療科医師、緩和ケア担当看護師、がん相談員によるミニ講話とパネル展示を行った。
- (3) がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催 (2025/2/22)
- (4) ELNEC-J (End-of-Life Nursing Education Consortium Japan) コアカリキュラム看護師教育プログラム研修を開催 (2024/9/14-15)：合計42名 (施設内13名、施設外29名) が受講修了した。

(文責/がん看護専門看護師 小田島 綾子)

在宅療養支援科

1. 月別訪問看護実施状況及び利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数	医療保険	29	32	35	33	30	27	26	27	29	26	23	26	343
	介護保険	9	8	8	7	6	6	7	7	7	5	4	3	77
	利用者総数	38	40	43	40	36	33	33	34	36	31	27	29	420
訪問延べ件数	医療保険	144	137	147	161	139	132	137	128	139	141	115	162	1682
	介護保険	41	41	23	22	18	25	29	27	23	23	12	14	298
	訪問延べ件数	185	178	170	183	157	157	166	155	162	164	127	176	1980
24時間対応	緊急訪問	9	5	11	12	8	8	5	6	2	5	1	9	81
	電話対応	23	27	32	28	26	13	17	33	13	28	18	33	291
転 帰	訪問継続	29	31	27	28	24	25	28	25	28	21	26	25	317
	入院中	8	6	10	5	8	3	4	8	2	5	0	1	60
	死亡(病院/施設)	0	2	3	4	4	0	0	1	4	3	1	1	23
	死亡(在宅)	0	0	1	1	0	4	0	0	0	1	0	1	8
	訪問終了	1	1	2	2	0	1	1	0	2	1	0	1	12
主な疾患	悪性新生物	17	20	22	19	17	14	11	12	14	11	8	11	176
	心疾患	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	脳血管疾患	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10
	呼吸器疾患	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1	0	16
	腎疾患	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	難病	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	39
	精神疾患	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	その他	10	9	9	9	8	8	9	10	10	10	10	10	112

2. 新規利用者推移

新規利用者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
医療保険	0	3	6	4	3	1	4	2	3	1	0	3	30	
介護保険	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
指示元内訳	呼吸器		1		1			1		1			4	
	循環器			1									1	
	消化器			4	2	1	1	1		2			12	
	血液内科		1										1	
	脳神経内科							1					1	
	緩和と支持科				1	1							1	3
	総合診療科													0
	外科			1					1					3
	泌尿器科							1			1			2
	婦人科		1						1					2
	形成外科													0
	小児科					1		1						2
その他													0	

3. 訪問看護利用開始年月（令和6年3月現在訪問継続利用者）

年度	平成8~15年度	平成16~20年度	平成21~25年度	平成26~28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	男女合計
医療 男	0	0	1	0	1	0	0	0	5	1	0	2	10
医療 女	1	0	0	0	0	2	1	0	0	2	2	5	13
介護 男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
介護 女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

(文責/在宅療法支援科 看護科長 川原 麻妃)

メディアセンター

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
所蔵図書数（冊）	3,089	3,571	2,607
ライブラリーしらかば（患者図書数）（冊）	1,239	1,275	1,015
年間購読タイトル（和雑誌）	45	45	40
電子ジャーナル（洋雑誌）	49	45	37
院外医療者利用状況（人）	3	1	3
貸出件数（個人）	30	18	9
文献複写（依頼数）	142	55	91
文献複写（受付数）	48	12	7
メディカルオンライン（ダウンロード数）	10,493	7,174	6,838
医学中央雑誌 Web（アクセス数）	4,705	3,934	3,281
UpToDate（アクセス数）	4,782	3,353	3,652
医書.jp（アクセス数）	16,632	17,613	13,316

（文責／メディアセンター管理部会長 安井 啓悟）

講演会・研修会 実施記録

対象	名	称	テ	マ	講	師	開	催	日	会	場	事	務	局
一 般	十勝地域のがん患者さん支援の充実に向けたセミナー2024	大空と大地の中でがんの在宅療養支援を考える			帯広大学医学部内科学講座腫瘍内科 教授 渡邊 清高 帯広厚生病院 副院長 大野 耕一 さかい総合内科クリニック 院長 酒井 俊 更別村国民健康保険診療所 所長 山田康介 帯広協栄病院 腫瘍内科 主任部長 杉山 桐子		2024年9月24日			Kosei Hall		北海道がんセンター 支援センター 帯広厚生病院 医事課・総務課 がん相談支援科	がん相談	
	令和6年度公立私立保育所所長・園長研修会	こころの健康の保ち方～支援者こそ気を付けたいポイント～			帯広厚生病院 医療社会事業科心理相談室 築田 昌明	昌明	2024年10月30日			帯広保険福祉センター		公立私立保育所所長・園長研修会		
	令和6年度十勝管内高等学校教育研究会 研究会学校保健推進部会第2回研究協議会	思春期のメンタルヘルス～医療での取り組み・支援のポイント～			帯広厚生病院 医療社会事業科心理相談室 築田 昌明	昌明	2024年11月21日			十勝プラザ		十勝管内高等学校教育研究会 学校保健推進部会		
	令和6年度芽室町こころの健康講演会	今日からできるこころのセルフケア			帯広厚生病院 医療社会事業科心理相談室 築田 昌明	昌明	2024年12月7日			芽室町中央公民会館		芽室町健康推進課		
	令和6年度帯広市多分野合同研修会 生きるを支える相談支援	帯広市他分野合同研修会第二回			帯広厚生病院 医療社会事業科心理相談室 築田 昌明	昌明	2024年12月23日			帯広保険福祉センター		帯広市健康推進課		
	地域住民公開講座	子宮がんについて			産婦人科 医長 秋江 惟能		2024年4月22日			Web配信 (帯広厚生病院 公式 YouTube チャンネル)		がん相談支援センター がん相談支援科		
	地域住民公開講座	前立腺癌の診断から治療			泌尿器科 主任医長 山田 修平		2025年2月25日 火曜日			Web配信 (帯広厚生病院 公式 YouTube チャンネル)		がん相談支援センター がん相談支援科		
	ICT研修会	感染対策の基本は標準予防策 Do you remember Infection Control?			感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師 原 理加 感染対策室長(副院長) 高村 圭	理加	2024年5月1日 2024年5月21日			Kosei Hall A・B・C Kosei Hall B・C		ICT委員会 ICT委員会		
	第1回 医療安全推進研修	セーフティレポートを手エックして感じたこと セーフティレポート報告 医療安全相談担当の業務			1. 医療安全管理科 室長 保前 英希 2. 医療安全管理科 専従医療安全管理者 泊澤 優子 3. 医療安全管理科 科長 谷川 和広		2024年6月17日～7月12日			動画配信		医療安全管理科		
	ICT研修会	HIV感染症と針刺し切創(曝露)時の対応			血液内科 主任部長 若狭 健太郎		2024年7月22日 月曜日			Kosei Hall A・B・C		ICT委員会		
職 員	第1回(本部主催)医療安全推進研修	裁判例に学ぶ「説明義務」			SOMPO リスクマネジメント株式会社 1. 医療安全管理科 構澤 寛 2. 皮膚・排泄ケア認定看護師 大原 友美		2024年8月19日～10月19日			動画配信		医療安全管理科		
	第1回 医療安全学習会	皮膚損傷に関するセーフティ事例 当院の褥瘡の現状と予防策			1. 皮膚・排泄ケア認定看護師 大原 友美 2. 皮膚科 横澤 寛		2024年8月28日～10月5日			動画配信		医療安全管理科		
	第2回 医療安全学習会	MR1検査に関連した事例報告 MR1の金属吸着、持ち込み事例 患者と自分、仲間を守る為に			1. 医療安全管理科 横澤 寛 2. 放射線技術科 木村 佳江 3. 中央検査室 看護科長 木村 りえ		2024年10月1日～10月31日			動画配信		医療安全管理科		
	A S T 研修会	血液培養のおはなし			臨床検査技術科 高道 豪紘		2024年10月16日 水曜日			Kosei Hall A・B		ICT委員会		
	第2回(本部主催)医療安全推進研修	裁判例に学ぶ「診療記録(診療録、看護記録等)の重要性」			SOMPO リスクマネジメント株式会社		2024年10月28日～12月28日			動画配信		医療安全管理科		
	A S T 研修会	AMRアクションプラン			薬剤科 蝦名 勇樹		2024年11月5日 火曜日			Kosei Hall A・B		ICT委員会		
	第3回 医療安全学習会	クレームと院内暴力の対応～悪質不当要求は明白な暴力～ 院内暴力対応マニュアルの積極活用			医療安全管理科 保安担当 高橋 慈明		2024年11月11日～12月11日			動画配信		医療安全管理科		
	第4回 医療安全学習会	酸素療法 酸素投与に関する報告事例と酸素ボンベの取り扱い			1. 集中ケア認定看護師 須永 弘美 2. 医療安全管理科 横澤 恵		2024年12月27日～2025年1月31日			動画配信		医療安全管理科		
	ICT研修会	結核のお話 2023-2024			呼吸器内科(副院長) 高村 圭		2025年1月21日 火曜日			Kosei Hall A・B		ICT委員会		

ICT研修会	抗菌薬適正使用のためのグラム染色診療のススメ	前橋赤十字病院 林 俊誠 医師	2025年2月7日 金曜日	Kosei Hall A・B	ICT委員会
第5回 医療安全学習会	採血後の検体の取り扱いの注意点	臨床検査技術科 畑 菜由	2025年2月14日～3月14日	動画配信	医療安全管理科
第2回 医療安全推進研修	「紹介元・紹介先医療機関、施設との情報連携に潜む法的リスク」	弁護士法人はくと総合法律事務所 坂本 大蔵 弁護士	①2025年3月3日 ②2025年3月7日～3月31日	① Kosei Hall (りモート) ② 動画配信	医療安全管理科
第6回 医療安全学習会	転倒・転落予防	医療安全管理科 専従医療安全管理者 泊澤 優子	20225年3月12日～3月31日	動画配信	医療安全管理科
ICT研修会	手指衛生トレーニング (体験型)	榎ノルモ	2025年3月18日	Kosei Hall A・B	ICT委員会

出前講座 実績

題名	演者名	開催日	依頼機関名
1 褥瘡の予防とケアの基本A・B・C	大橋 友美	2024年8月7日 水曜日	特別養護老人ホーム 太陽園
2 乳がん検診と自己検診について	太田 美幸	2024年8月16日 金曜日	助産師職能委員会
3 お家でできる誤嚥性肺炎の予防	河本 友香	2024年9月5日 木曜日	帯広市老人クラブ連合会
4 性教育	畑野 祥子	2024年9月6日 金曜日	帯広市立緑園中学校
5 性教育	畑野 祥子	2024年9月6日 金曜日	帯広市立緑園中学校
6 スキンケアの予防と管理	大橋 友美	2024年9月11日 水曜日	荏更病院
7 性教育	三守 田記	2024年9月12日 木曜日	帯広市立緑園中学校
8 高齢者の介護 (認知症のケア)	和淵 ゆかり	2024年9月13日 金曜日	おひひろ記念病院
9 食事援助のポイント	河本 友香	2024年9月25日 水曜日	普更病院
10 口腔ケアのポイント	河本 友香	2024年10月16日 水曜日	帯広第一病院
11 看護ケアにおける感染予防	原 理加	2024年10月30日 水曜日	帯広記念病院
12 医療安全活動に必要な取り組み	泊澤 優子	2024年10月30日 水曜日	士幌町立特別養護老人ホーム
13 転倒予防から考える運動のススメ	宮崎 啓史	2024年11月13日 水曜日	J・A十勝清水町 そよかぜの会
14 お家でできる誤嚥性肺炎の予防	河本 友香	2024年11月27日 水曜日	川西地区老人クラブ連合会
15 性教育	三守 田記	2024年11月27日 水曜日	中札内高等養護学校
16 認知症を引き起こす疾患とその看護	和淵 紗也	2025年12月10日 水曜日	特別養護老人ホーム 太陽園
17 性教育	岡田 紗也	2024年12月13日 金曜日	帯広市立南町中学校
18 性教育	平崎 加奈子	2024年12月20日 金曜日	中札内高等養護学校幕別分校
19 認知症を引き起こす疾患とその看護	和淵 紗也	2025年1月9日 木曜日	十勝の社病院
20 ストーマケアについて	大橋 友美	2025年1月24日 金曜日	広尾町国民健康保険病院
21 性教育	河端 彩華	2025年2月10日 月曜日	帯広市立南町中学校
22 高齢者施設、介護施設における感染対策	原 理加	2025年2月20日 木曜日	真宗協会 養護老人ホーム 帯広信御苑
23 性教育	平崎 加奈子	2025年3月7日 金曜日	幕別中学校
24 性教育	畑野 祥子	2025年3月10日 月曜日	帯広市立南町中学校

実習生受け入れ 実績

実習生名	実習期間	受入人数	受入部署
日本医療大学 診療放射線学科 臨床実習	2024年7月8日～8月9日	2名	放射線技術科
日本医療大学 診療放射線学科 臨床実習	2024年8月13日～9月6日	1名	放射線技術科
北海道科学大学 放射線技術学科 臨床実習	2024年11月11日～12月20日	1名	放射線技術科
薬学実務実習 (2期)	2024年5月20日～8月2日	1名	薬剤部
薬学実務実習 (3期)	2024年8月19日～11月1日	1名	薬剤部
薬学実務実習 (4期)	2024年11月18日～2月7日	1名	薬剤部
西野学園札幌医学技術福祉歯科専門学校 臨床実習	2024年5月7日～8月1日	2名	臨床検査技術科
吉田学園医療歯科専門学校 臨床実習	2024年5月7日～8月2日	2名	臨床検査技術科
北海道医療大学 臨床実習	2024年12月11日～2月28日	2名	臨床検査技術科

編集後記

今年もなんとか帯広厚生病院年報をお届けすることができました。多忙な業務の合間を縫い、年報作成のため貴重な時間を割きご尽力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本誌は読者の皆様にとって帯広厚生病院の現状を振り返る貴重な機会となるものと思います。各科の医師・看護師をはじめ、医療技術部、医療支援部、そして事務部の職員が多数の資格を有し、活躍している様子がうかがえます。また、多くの患者さんにご来院いただいていることも本誌を通じて実感できるのではないのでしょうか。

当院は職員が1400人を超え、十勝管内でも有数の規模を誇る組織であるがゆえに、日常業務の中では隅々まで目が行き届かないこともあるかとは思いますが、俯瞰的な視点から当院の現状を見つめ直すことは新鮮な気付きをもたらしてくれるものと思います。改めて当院の方向性を共有して、それぞれが小さくとも確かな一歩を踏み出す機会となれば幸いです。

広報委員会 委員長 村川 力彦

帯広厚生病院年報 2024年度

2026年2月 発刊

編集 広報委員会 年報制作局

発行所 J A北海道厚生連 帯広厚生病院
〒080-0024 帯広市西14条南10丁目1番地

発行者 院長 佐 澤 陽

印刷所 東 洋 株 式 会 社
帯広市西10条南9丁目7番地

看護部理念

わたしたちは、心よりも先に方法や技術が出てはいけないということを戒めとして、さまざまな看護の機能を駆使し、生活上の基本的な行為を助けることに責任を持ちます。また、わたしたちは、地域の看護職と連携し地域住民の健やかな暮らしに貢献します。

- ・わたしたちは、専門的知識・技術と倫理を持ってチーム医療における看護の責任を主体的に果たすよう努めます。
- ・わたしたちは、患者一人ひとりの尊厳と品位、立場とプライバシーを大切にします。
- ・わたしたちは、患者・家族と共に計画と目標を確認し安心して安全な看護を継続します。

健診センター理念

【理念】

健康管理活動を通じて地域の皆さまの健康増進をはかり、疾病予防、疾病の早期発見に努めます

【基本方針】

1. 受診者の人権を尊重し、一人ひとりに寄り添った健診を行います
2. 安全な健診、安心して受けられる健診を行います
3. 科学的な根拠に基づき、より質の高い健診の提供を目指します
4. 地域・職域において健康管理活動を積極的に行います

【受診者の権利】

1. 受診者は良質な健診を公正・適正に受ける権利があります
2. 受診者は個人の情報が守られる権利があります
3. 受診者は健診に関する説明・照会・問い合わせ・苦情の申し立てなどを行う権利があります

帯広厚生病院卒後臨床研修理念

信頼され選ばれる
医療人になるための礎づくり

私たちは

常に 多職種共働
地域の特性
時代の要請 に配慮し

住民の健康を守ることのできる
医師を養成します

2024
Annual Report of
Obihiro Kosei
Hospital

